

新しい家庭科

自立した男と女を
人間らしい生活を
差別のない社会を
育み 創り出す

ウキ

子ども—大人の勝手な思い込み

逐次刊行物

昭 61.4.17 和

国立婦人教育会館
情報図書室

1986

5



五月はバードウィークです。

バードウィークとは名ばかり、森林はどんどん切り倒されてゆきます。

中にはかすみ網で捕り、焼鳥にする不逞の輩もあります。

水害の原因は雑木林がないことだといわれています。水害の写真を見ると、山崩れの土砂に杉もいつしよに倒れています。

雑木の枯葉の下には虫が棲み、動物も好んですみます。

バードウィークとか森林週間とか国は立派なかけ声をかけながら破壊していくのだから、たまりません。

緑のない所には小鳥はいません。

(田沢 茂)

子どももつて……

毛利子来

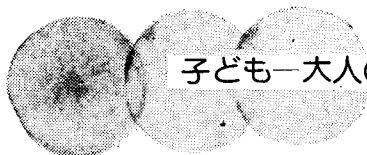
子どももつてこんなものといったふうには、
 ぼくにはどうも考えられない。よく「なん歳
 児」とか「なん年生」の「すがた」などと書
 かれてゐるのを見るけれど、さっぱりぴんと
 こないのだ。あれは、きつと、子どもを教育
 学とか心理学とか医学とかの対象物として観
 察したときに浮かび上がらせた、ひとつの抽
 象像なのだろう。だから、その「すがた」と、
 日々暮らしを共にしている親の実感との間に、
 しばしば大きなギャップを生じることになる。
 現に、小学校にあがる子を専門家が見て、
 知能や行動が三歳児に相当すると判断すれば、
 教育委員会はほとんど養護学校に措置をする。
 ここでは、子どもが制度としての存在である
 ことも同時に明らかにされてゐるのだが、そ
 れが多く生活感覚とはくいちがう。親にとつ

ては、生まれて六年間の歳月は年輪のような
 もの。いまさら「三歳児」の扱いを受けるの
 は苦しく納得しがたい。つまり、子どもとい
 うのは、その子とかかわる関係のありかたで、
 恐ろしいほど異なるのだ。

それどころか、逆に、子どもからなにかを
 突きつけられることによって、ぼくたちは子
 どもに対する認識を改めざるをえない場合も
 珍しくはない。そして、そのときには、たい
 てい「おとな」というものに対する自覚も大
 きな変更を迫られてゐる。

もしかして、子どももつて、おとなの思惑と
 は別のところで、ひそかに鋭い世界をかくし
 持っているのかもしれない。それに触れたけ
 れば、男女間のようにエンヤコラと舟を漕ぐ
 ほかはなさそうだ。

(小児科医)



子ども—大人の勝手な思い込み

— 〇 発 言 〇 —

「わが家だより」……………	高嶋 想、高嶋いつほ	64
自然な直感を大切に—がんばるくらぶの子どもたち…	飛鳥井佳子	66
「かぜのこ ひろば」と子どもたち……………	山本辰太郎	68
……………東京都杉並区立杉並第一小学校二年一組の子供たち		60

学習の主人公たち おとなって

— 〇 新しい家庭科を
創るために 〇 —

小学校では 「家庭科だより」と「自由席」……………	村田 尚子	24
中学校では 自立した生き方をするために……………	磯部 幸江	29
高等学校では 牛乳の加工を手作りに……………	立山ちづ子	34
— 投稿 — 家庭科教員の専門性とその阻害要因……………	山川 理智	40

— 〇 特 集 〇 —

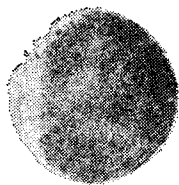
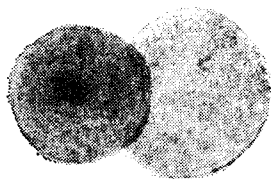
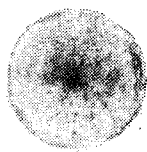
子ども—大人の勝手な思い込み……………	村瀬 学	4
サマーヒル学園からの便り……………	黒岩 秩子・黒岩 帆姿	9
わんぱく夏まつり……………	夏に現れる若ものたち & こじら・りようこ	16

〈巻頭言〉

子どもって……………	毛利 子来	1
------------	-------	---

〇よせがき We愛知の会 52, 70 〇Weになんでも言おうなんでも聞こう 72

〇私からあなたに 90 〇Weの読者会だより 88 〇編集室からあなたに 33, 39



季節のうた

研究ノート性

変わりゆく性意識と性行動(2)

田沢 茂

女と男の関係を考える会・善積 京子 48

教育のなかの心理学

体罰をめぐって(2)

小沢 牧子 54

教室の窓

笑いが窓に弾ける

植垣 一彦 56

いま中学校で

人と人との間

仲野 暢子 58

読書つれづれ草

堀辰雄の「十月」

武田 秀夫 74

ワンポイント

「開港地横浜と赤い風車の女学校」

秋枝 薫子 76

近代日本女子教育史

学歴も地位もない誇り

吉田 和子 77

詩

はたけ

羽生 槇子 78

赤かぶたより

深刻な おとしよりの住宅問題

酒井 和子 80

季節のおべんとう

正調チャーハンべんとう

小林カツ代 81

経済の目

生活サイドからみた経済 貿易摩擦②

福島 澄香 82

CMの中の女と男

男のやさしさ、まだほんのわずかだが

吉田 清彦 83

いろんな十代

野球部に入るのやめた

鈴木みち子 84

*

*

*

WeのReport

本のすきな子、あつまれ!

青木喜代江 71

○波 子どもへの思いこみ 半田たつ子 86

○ひと 羽生槇子さん 47

表紙デザイン 加藤由美子

目次イラスト 馬場洋子

本文イラスト 編集部

○今月の読書から 84 ○アンテナ 94 ○十字路 92
○泉 83 ○"We" EDITOR'S NOTE 96

子ども——大人の勝手な思い込み

村 瀬 学



題目に反して、「大人——この勝手な思い込み」というテーマが頭をかすめる。「大人」だって結構際どい思い込みによって成り立っているのではないかと。

たとえば近年ベストセラーになった小此木啓吾訳『ピーター・パン・シンドローム』。副題は例によって小此木さん好みの「なぜ彼らは大人になれないのか」となっている。米国版「モラトリウム人間論」という触れ込み。いい年をしているのに会社の仕組み、社会の仕組みをちゃんと体現することができず、いつも依存的で、責任ある決断が出来ず、誰かに甘えている。彼らは作者ダン・カリーによって「決して大人にならない男たち」ピーター・パン人間」あるいは「おとな・こども」と「診断」されている。そしてそういう

ピーター・パン人間が増えてきていると作者は警告しているのである。

この手の本を読むと、いかにもありそうな話だと思っ面、何かしら腑に落ちないという感じをいつも覚えてきた。私が最初に何かおかしいなと感じたのは、モラトリウム人間（執行猶予の状態を生きる人の意）という言葉が流行した時だった。その時は何がおかしいのかよくわからなかった。その後自分も中年の仲間入りをするようになって、ようやく「大人」というものが様々な思惑、様々な思い込みによって成り立っているだけなのだということが、だからそれに「達しない」人々をマイナーのように「診断」づけるのはおかしいのだということがわかってきた。

実際、かつての社会では、社会に出て職業につくこと自体

が、「子ども」より「上」に立つ意識を植えつけてくれた。けれども社会が人口的にもふくれ上り、人々の中産階級意識が定着してきた中で、大多数の人々がお互いに「上」に立つことのできないことを感じてきている。つまり社会の膨張によって、時代はだんだん人々に「中」の意識しか持てなくしはじめてきているのである。

そんな中であつては貧しくとも「上」の意識をもてた人々が、今では豊かではあつても「中」の感覚しかもてなくなつてきている。こういう時代に入ってから、昔なら比較的つかみやすかつた「大人」のイメージが急速に希薄になりだし、「大人」には至らないが「子ども」でもないという「中間の人間」のイメージが、大量に流通し出してきたのである。小学校の授業参観に行つても、父親たちはみんなジーパンをはき、ほとんど学生のような感じにみえている（かつてはどの人もネクタイをしめて参観に来ていたのに）。

つまり現代の高度情報社会の中では、自分を上位において一方的に命令を下すということができなくなっている。たとえ肩書きの上では管理職であつても、実質上は自分もしっかり管理されている「中間者」であることを誰もが強く意識せざるを得ないようになってきている。そういう時代の構造の中から、今日必然的に「おとな・子ども」みたいな人々が大量に生み出されてきているのであつて、実はそれはニュータ

イプの大人として決してマイナスの現象ではないのだと私なら高く評価している所である。ところが小此木啓吾さんらの世代の人々の頭の中には、いつの世にも変わらない「大人」という範型があつて、その範型を満たさない連中はどうしても「病氣」のように見えるみたいである。本当はそうではないのだと私は思う。小此木さんらの想定している「大人」は、もはや新しい時代を生きるための「大人」にはなり得ないのである。モラトリアム人間こそ本当は新しい時代の「大人」として、自覚されてゆかねばならないものなのである。それなのに今もなお昔の古くさい「大人」の範型が、今なお「手本とすべき大人」のように思いこまされている。その辺の所を問題にしないで「子ども」この大人の勝手な思い込み」というテーマも、本当は語れないのだと私は今感じている。子ども論が流行しつつある中で、私はふと今最も欠けているのは「大人論」かも知れないと感じている。

そこで今回のテーマに話をすすめたいのだが、抽象的な論ですすめるよりか、最近の自分の身のまわりに起こつた具体的な出来事を素材にして、今日のテーマのほんの一端だけを書きとめられたらと思う。

先日某ラジオ制作部のMさんからある相談をもちかけられた。その話とは、普通の子どもの中にちえおくれや肢体不自

由な子が入っていった場合、はじめはどんなふうに見られるのか、そしてそのあと一緒に学校生活することによって、どういうふうに通常の子が自分の見方を変えてゆくようになるのか、その辺の変化を子どもたちへのインタビュを通して追ってゆけないものかどうか……というものだった。正直言って私は一瞬言葉を失ってしまった。なんという企画？　なんだらう、と。後日私たちは逢った。Mさんはあらかじめ結論の決まったところへ番組の流れを進行させる自分たちの番組づくりに批判的であることの話をまずしてくれた。追い打ちをかけるように私はその企画はうまくゆきませんよと口を切った。

はじめMさんは「つきあってみたら障害をもつ子も自分たちと同じ人間であることがわかった」というようなことをしやべってくれる子どもたちがいないかどうか知っていた。Mさんの頭の中には、障害をもつ子とつき合うことで変わってゆく子どもの姿がなんとなくきれいにイメージされていた。ここにひとつの「大人によって思い込み」される子どものイメージがあった。

私は『クレーの日記』^①の話をした。クレーは五、六歳の頃、足の不自由な女の子を、よい子のふりをして散歩につれて歩き、人の見ていない所でつきとばしてころがし、大声で泣くその子を「ひとりでころんだ」といって家までつれて帰

るような、そんな芝居を何度もしたことを日記に書いていた。この二面性はむしろ子どもにとっては自然な姿なのではないかと思うと私は言った。確かに子どもたちは障害をもつ子と一緒に生活することで、いろいろとその子のことを理解するだろうけれど、同時にまた自分たちと感じの違う子に残酷に振舞うこともする。でもそんな子らにインタビュすると、「つきあったら自分と同じ人間だということがわかった」などという大人好みの背筋が寒くなるようなセリフを、平気でしやべってくれることもでてくるかも知れない。でもそんなセリフを間に受けて、そこに教師や大人が自分たちの教育のあかしを見てとるとしたら、子どものありのままの姿を見失うことになるのではないか。

そもそも「自分と同じ人間」ということがわかったなどとほざくガキンチョは、自分みたいな人間だけを「人間」だと思っているわけで、そういう「人間」にほとんど似ていない寝たつきりの子や、強い身体の変形をもった子などは、どうして「自分と同じ人間」などとは感じられないということになるはずである。

でも本当はそれでごく自然なのだと思うと私はMさんに話をした。教師や大人たちが当てにしているような「おりこうな生徒」感覚でつき合っている時など、そういう大人たちがいなくなつた時、あからさまな嫌悪をみせてつき離すような

ことをする時と、その両方があって、「子ども」は自然なのではないか。その両方が取り出せないラジオインタビューなら「子ども」を誤解して視聴者に伝えるだけになってしまふのではないか。そもそも親ですら、障害をもった我が子を、自分のかけがえのない子として大手を振って引き受けてゆくまでに、長い年月がかかっている（最首悟さんみたいにダウン症として生まれた子どもさんを、生まれた時から積極的に引きうけてゆかれる親はホントにまれなのだから）。親ですら大変な試行錯誤、あるいは右往左往、暗中摸索、疑心暗鬼をくり返してはじめて我が子への「理解」を深めてゆくことになるのに、たまたま席が隣同士になったからといって、そんなに「心やさしく」相手のことが理解できるとは私にはとうてい思えない。また毎日共に暮す兄弟姉妹でも、なかなかそういう兄弟を自分と同じように認めることができないという時期がある。あからさまな姉妹の手記にこんな文章がある。

『姉妹は何人?』と聞かれると、姉を除外して『妹と二人』と答えていました。私は心身障害者の姉を恥じていましたし、一方では、私は姉のようではないということに、『私でなくてよかった』と思っていたのです^②。

だから——というわけではないけれど、でも親や兄弟でも時間をかけて「理解」してゆかなければならないことを、短い教育の中で教師や大人の喜びそうな変化を子どもに獲得さ

せることを期待するというのは、無理があるのではないかと私は卒直に話をした。

問題は、ひとが障害者に出会う時、私たちと同じ人間であることを理解できるかどうかという所にあるのではなく、そもそも「人間」と呼ばれているものが、まずお互いによくわからない所をかかえているのだということを理解する所にあるのではないか。仲の良い夫婦であっても、お互いにある日気まづくなると、相手がまるつきり訳のわからないものに見えてくることもある。なんと言えばいいのか、お互いの《他者性》といったものにぶつかり合うような時が。私の言葉で言えば《類性》というものはひたすらそこに生きてあるだけのもので、「理解」の次元にもち込むことができないものとしてある。それはもう黙って認めるか、「わからない」と大声を上げて拒否するか、そういうことしかできないものとしてある。そういう所が人間同士の間にはあるのではないかと。

そういう訳のわからない《他者性》《類性》を、隠しきれずに不可避に体現してしまってきたのが、「障害者」と呼ばれてきた人々なのではないか。本当に理解したいのは「障害をもつ人々」に対してではなく、私たち人間がひとりひとり《他者性》として存在し、《類性》を生きているのだということ、そのことが「理解」できないという所にあるの

ではないか。

私たちがふつう「人間」と呼んでいるものは、かなり口あたりの良い、表面的な人物像をイメージしているだけで、本当の人間というか、ありのままの人間というのは、地球のマグマみたいなものをかかえた、危っかしいものであるのが自然なのではないか。かつて18世紀のヨーロッパに花咲いたロマン主義の運動の中では、人間を「天才」と「グロテスク」の両極にまたがるものとして理解しようとしていた。その思想の中では、奇形や怪奇といった現象も、すべて意味あるものとして追求されていた。けれども時代が下るに従って、「人間像」はもつともつと限定され、スマートなものとしてイメージされていった。そういう現代の人間観それ自体が今もつと問われなくてはならないのではないか……。

Mさんに話したことはざっとこのようなことであった。さらに、このことを念頭においてみると、子どもたちが奇形やグロテスクに接した時、そこに人間らしくないものを感じ、嫌悪感を覚えることは、「子ども」の問題ではなく、私たち「大人」、ひいては《現代社会》によってつくられた《人間観》それ自体の問題であることが必ず見えてくるはずである。その所てただ「純真な子ども心」をもつ子どもなどを想定して、そういう子ども心をつくる教育があるなどと思ひこむ所

に、まさに「大人によって勝手に思い込み」された「子ども」が流通してゆく土壌が生まれるのではないか。

一人の人間の中に、「大人―子ども」「男―女」の両構造があるように、一人の人間の中に「優美とグロテスク」が同居している。けれども私たちは自らの「グロテスク」をたくみに隠し通すことができていく。あたかも「大人」は「子ども」であることを隠し、「男」は「女」であることを隠しているように（むしろその逆もそうなのであるが）。そしてもし「思い込み」という事態を指摘しなければならぬとしたら、「子ども」だけのことでなく、「人間」そのものについてそれが指摘されなければならないはずであると。

そういう生意気な話をつけ加えて、私はMさんに「もう一度考えてきますわ」と遠方を帰ってもらうことになってしまいました。

文獻 ①クレ―著『クレ―の日記』 南原 実訳 新潮社

②『ともに生きる―心身障害者をもつ兄弟姉妹のこえ』 日本放送出版会

（むらせ・まなぶ 心身障害児通園施設職員）

サマーヒル学園からの便り

黒 黒
岩 岩
帆 秩
姿 子



もう十年も前になるだろうか。ニイルの本に出会った時のあの感動は。「問題の子供はいない。不幸な子供がいるだけである」と冒頭に書いてあった彼の著作集十巻をむさぼり読んだ。この言葉に含まれるニイルの愛情にひかれた。「問題の子供」の所を「問題の大人」におきかえてもいいのではないか。どんな人間でも、その人が幸せでさえあれば「いい人」になれる。「いい人」になれないのは、その人が不幸だからだけなのだ、と。こう思っただけで直してみると、ずいぶん人を暖かく見られるようになった。

こんなニイルの愛に包まれたサマーヒル学園に私の心はとんだ。授業に出るも出ないも自由、学園内の規則は、大人も子供も同じ一票とした多数決で決める。

そんな革新的な学園に、私は生徒としていつてみたくてたまらなくなつた。そうだ。我が子の誰かがいつてくれないだろうか、と思い始めた。長女長男にすすめてみたら、長女は「いつてもいいな」といつている内に時期をのがしてしまつた。次女は中学へいく時行きたいといい、サマーヒルに連絡をとつたら、十二歳以上はダメとのこと。そこで小学生にと三男(当時四年)にすすめた。すると彼はやめるといふが、話をきいていた三女帆姿(当時三年)がいくといい出した。甘えん坊の泣き虫さんが、一人でイギリスにいくなんて、とても無理だろうと思いつつ、彼女がどの位本当なのか、日を追いつながら見定めることにした。半年位いつづけたので連絡をとつてみたら、四年の夏休み前、やっとあちらから歓迎する旨の便りが届いた。

そんな折、夏休みにサマーヒルから帰ってきている日本人の中学生から、サマーヒルのことを色々聞く機会を得た。サマーヒル五〇人中、日本人が一人だ。日本人の子は、日本人同士でまとまっていて、なかなか英語を覚えなから、ミーティングにもほとんど出ない（従ってルールを決める場に参加できない）。新しく入った子は、何かといじめられる。勉強しようと思っても勉強できる環境はない。ニイルのいた頃とはずいぶんちがってきているから、こない方がいいだろうというのだ。

ニイルが亡くなって十数年経つ。そのことは、私も心配していた。何事も人間が問題なのだから、制度等がどんなにひきつがれていても、人間がいなくなれば、モヌケのカラというものだ。

その子がいのように、本当にニイルのいた頃とすっかりかわっているというなら、わざわざいく必要もない。「今からでも、やめたら？」と私が提案したが、帆姿はすっかりい気がなくなっており、自分の目で確かめないことには気が済まないという。かくて、最終的に帆姿のサマーヒル行きが決まった。

夏休みにニイル研究会の合宿に、夫と帆姿と参加した。その時、帆姿のサマーヒル行きについて話したら、「自分が一度もいって見たことのない所へ子供をやるというのは、どう

いうものか」と疑問が出された。いわれてみれば確かに、私自身サマーヒルにいったことがないので、そこが子供にとつてすばらしい所であるという確信は持てない。だが私はこれまで子供たちを自分の目で確かめた所へだけ派遣するなんていうことは、考えたこともなかった。むしろ私のいったことのない所へ子供にいつてもらって、そのことを通して私自身の世界を広めていきたいと思いながら、子供たちだけの旅を色々経験させてきた（これについては『おお子育て―保育所の子供達と七人の我が子』教育史料出版会に詳しい）。今回これらとちがうのは、期間が長いということだ（三ヶ月毎に一、二ヶ月の休みで家に帰ってくる）。だが、本人がことごとくその生活がいやになったとすれば、自力で脱出してくる位の生活力はあるはずだという信頼が、最後の支えだった。

九月二十日夕方、クラス全員に見送られて浦佐駅を發つていった。その時初めて私は帆姿の学校での姿を知ることができた。子供たちにつきそって、何人かのお母さんも見送ってくれた。その一人がこんなことを語ってくれた。「良二が、昨日の夜泣いているすけ、どうしてかときいたら、ほっちゃんがいなくなれば、俺のこと遊びに誘ってくれる友達がいなくなる。飛行機がおちたらどうしよってが、泣いてるんだ」と涙をぬぐっている。帆姿を乗せた新幹線がいってしまふと女の子たちは、ほぼ全員が泣いている。帆姿が呼びかけ

るとクラス中が一丸となつて様々な遊びを楽しむことができたのだという。家で甘えん坊の泣き虫で通っている帆姿が、学校では全然ちがう姿を見せていたらしい。だから帆姿はクラスの人にも担任の先生も大好き。決してこちらの生活がいやでサマーヒルにいかうと思つたのではなかった。「冒険がしてみたいから」と彼女はいつた。出発の日、駅で見送つた人たちの涙を尻目に、東京へついた彼女は、「本当のこというと、わくわくしてるんだ。みんなには悪いけど」と電話してきたのだった。成田まで送つていつた夫も、「あんまり帆姿が元気で、残された俺は揺光（帆姿の弟）の手をひいてトボトボもどつてきたよ」とのことだった。

かくて、とびたつていつた帆姿のサマーヒルでの様子は、ほとんど毎日書いてきた彼女の手紙の一部で紹介する。

〈第1便〉

お父さんたちへ 元気ですか。私は元気です。ひこうきの中でしり合つた人（ちの、さとる、たかよし、あきら、あきな？ ほし）です。？は一人いるのですが、名前がわかんなくてあだなが（きゆうい）だと思つたけど……。それから今日の朝ごはんはコンフレークに牛にゆうをかけたやつとむぎのパンでした。もっとひどいごはんかと思つたらだいたいぶごうかだなと思つた。昼はマカロニとポテトと

バナナをあたたためたやつでした。なんだかおながいっぽいになった。だからおなかはへらないと思つた。そこらへんが外国人ばかりで、外国の友達を作つても言葉がわかんなくて日本ごで「わかんない」といつてしまう。だまつてしまふ時もあるからあいてがかわいそうになつてしまう。だからはいやくえいごをおぼえなくちゃ。（日本が22日の朝8時40分だとイギリスでは21日のよ中の12時30分です）。それになんかわるそうな人もいないよ。でもわかんないけど……。それから夜ふくをいつぱいきて、じゃんけんでもけたらぬぐというのを3回やり、2対1で私がかちました。おもしろかった。かつた人：（シーター、なおみ）送つて来てもらいたいの：（絵、えいごのノート、コップ（かっこいいの）、手がみちようだい。）

〈第2便〉

お母さん、やつぱりむかえに来て。こんな生活で12月までくらすのやだよ。がまんできない。ああこなきやよかった。もうぜんぶおもしろくない。あきらといつて、あきらは小さくてかわいいから、みんなもてて、ぜんぜんおもしろくない。やだよ。もう本当にやだ。がまんしろといつたってできない。むかえに来て、やだ、本当にこんなくらしいやだ、やだよ。むかえに来て、おねがい。だつてお

母さん、おもしろくなかったら3しゅうかんで帰って来て
もいっていったんだもん。おねがいだからむかえに
来て、もうぜったいにおもしろいことなんてないんだもん。
それから今日がこっちは土ようで、午ご2時に1ポンド
もらってミルクシヨップにかいにいった。ああ、むかえに
来てよ。おねがいおねがい。むりしてむかえにきて、やだ
よう。もうやだ。むかえに来て、12月までなんてまてな
い。おねがい。

9月28日(土)

(以下略)

〈第7便〉

お母さんとお父さん達へ

今日みんなからの手がみがつきました。とってーもうれ
しかったヨー!! これまたふしぎやふしぎ、お母さん、私
みんなの作文よんで、なかなかったんだよ。

それにホームシックもなおってきたしネ:♡ いえーい
夜ちかの所に行くのが楽しくなるんだもの。ピーターもい
ることだし……。

BYEBYE

10月16日

今日いっちゃんの手がみの入っているふうとうがつきま
した。いっちゃんの手紙すぐおもしろかったよ。それは
ね。「まあいじけるな! 話はかわるが、まあいじけるな!

んあんだ? 話はかわってないって? まあそうせかす
な!」っていうところ大わらいしてしまいました。(中略)
お父さん、えいごありがとう。こっちで生活していて、
アイドノノ、アィムハングリーぐらい分かったし、ワッ
(what)? ワイ(why) っていうのやあと少し分かったよ。
でも、分かんないのいっばいいてありました。ありがと
う。

10月18日

〈第16便〉

9まいも入った手がみつきましたか? こっちはきのう
だいが雨がふりました。それといっしょに、つめたい風が
ふいてとつてもさむくて。でもおとといは日がてつて、だ
いぶあつたかかったよ!! 今日、どっちかといえさむ
いな、日本もだいぶさむくなったでしょ?

あつ、うんと、チョコ1はおわつて、もう1はこをあ
けました。じよう(ダンス)に入れておくとあらされるか
ら、はこのチョコを全部もつてふくろにいれて、くるとき
お父さんとかった赤いバッグあるでしょ。その中にかくし
てます。

私は元気もりもりじゃあ、元気であと1かげつがんばり
ます。

さいなら

11月10日

〈第17便〉

家のみんなへ

元気っー。あたくし元気よ。今せんそうのこと全ぜん気にしてないから心ばいしないでね。この前の電話で、ぜったい来学期こない。というりゆうおしえなかったのは、お母さんやお父さんが心ばいするかもしれないからいわなくてね。だから今、おしえます。うんとね、この前けいたとすすむとあきらが私とちかがたまおかビーチであそんでいたたら「おい。せんそうがはじまったぞ」といってはしつてくるし、けいたたちが来る前もせんとうきが何だいもびゅんびゅんととんできたから、こわかったのにまた3人がそんなことをいって走ってきたから、もうこわくて、とんでにげて、けいたたちが作ったきちにはいって、中で「どうしてけいたたちは、たまおかビーチにきたの？」ときいたら「おれたち、にげおかれてちようどすすむとあきらがいたから、3人でたまおかビーチにひなんしよう。ということになった」っていうからしんじて、けいたとすすむをかわりばんこにせんとうに立たしてジェイムズたちの作ったきちにひなんして、5時半にも、4時にもベルがなったけど、その時はけいたが「おびきよせるためだから出るな」とかいって、5時半のベルがなりおわって「おいみんな。ちよつとよう子^すを見てこよう」とけいたがいったからついで

ていって、さまーヒルが見えてから「これはうっそ」っていったの。これがりゆう。だってせんそうで死ぬんだつたら、お母さんたちと死にたいと思って。それにこの前はジヤルのじけんでしょ。だからこわかったの。これはもうきにしてないよ。じゃあね。パーイ。

11月13日

お母さん心ばいしないで。それをしんじておしえたんだよ。おねがいよ。あと少しのしんぼうできこくできるよ。

〈第18便〉

うたしろ先生へ

元気？ あたくしはとっても元気でございますわよ。

マフラーね。とっても役に立つね。このごろは、つーめたい風がピューピューふいて、ダウンタウンに行く時なんか、かけていきます。そうするとだいぶあたたくて、とろうとしてとつても、いままであたたかかったから、はずせないときがなんかいもありました。時々、友だちと2人でまいたりしてまーす。ながいでしょ。だから2人でまいても、あつたかいのよーん♡

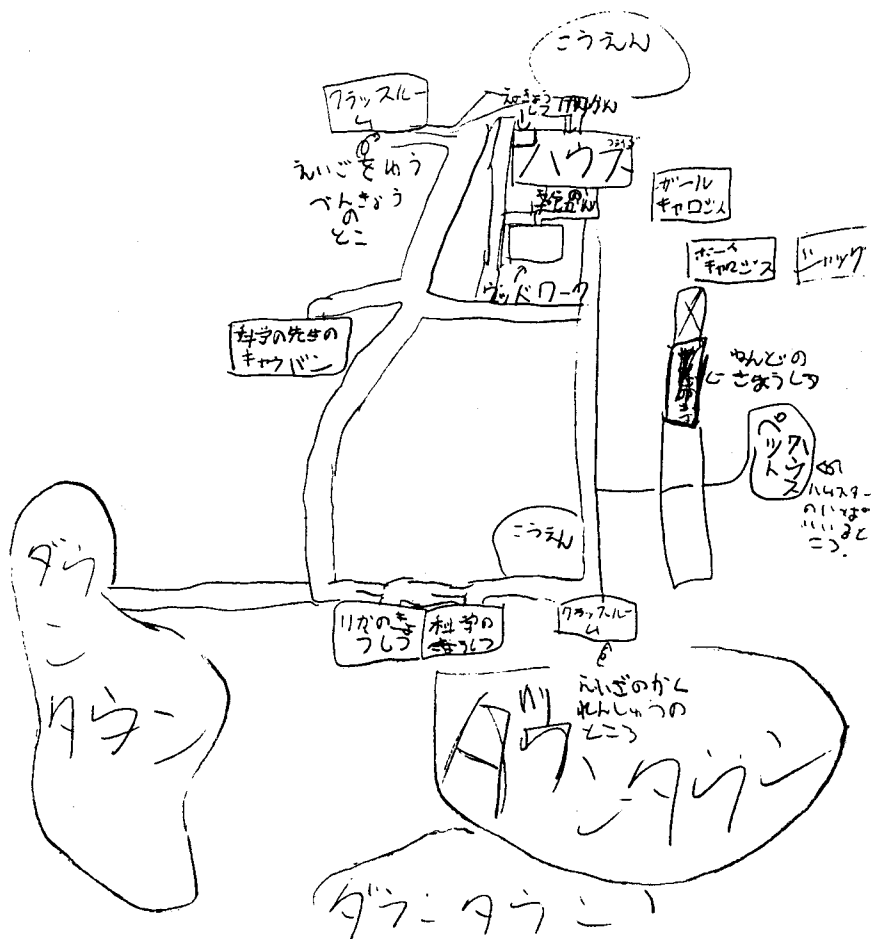
あのね。こっちはりょうというよりも、コテイジ、ハウス、シャック、キャロジスというのにわかれていて、コテイジは6×9才、ハウスは10×13でシャックは、まだキャロジスに入れないとか、もうキャロジスのへやがないから入っているという人、13×14くらいかな……。キャロジスは

14と16才というふうなへやが（りようみたいのが）きまっています。べんきょうするところは、ぜんぶはなれていて下のようになっている。

。りかのべんきょうの先生はきょう室のとなりのへやにすんでいる「サラ」という名前の女の先生。科学の先生は「ピーター」というついでいさんたんじよう目をむかえた58才のおじいさん。キャラバンでは、エッグやトフィをうっている。子どもの人気もの。

。えいごのかく方の先生は、ガールキャラロジスの1つのへやにすんでいる「リズ」という女の先生。その人のへやには、犬が1ぴきかわれている

。いうえいこの先生は、ブームという男の先生、コティジのイザベラという女の子のお父さん。どこにすんでいるかは、私はわからない



い。

。ウッドワークの先生は、ブルースという男の先生、へやは、ハウスにある。ひげがはえていて、夜は電気をあまりつかわないで、ろうそくをつかう先生

。ねんどとえのきようしつ、2つをたんとする先生の名はニイナ、女の先生です。いえは、ねんどのとなりの☒とかいてあるへやに住んでいる。あまり生とには、すかれな一方。

というふうになってまゝす。これは4ノ2の生ともおしえていいです!!

じやあさいなら からだにきをつけて、あと1かげつとしんぼう、しんぼう。 From HOSHI

バーイ BEY

11月11日(月)

十二月十日に帰ってくることになっている帆姿に、一月から又いくかどうかの判断は、任せてあった。十二月六日あらを發つ二日前に國際電話を入れたところ、一月にはもういかないとのことだった。ところが十日、成田へ出迎えた、私と三ヶ月ぶりの対面をし、その第一声が、「一月から又いよ」であった。もういかにきめて荷物を全部まとめたところへ、インドネシアの少女ミーターが、英語の話せる

日本人の友人を介して、「初めての学期は誰でも家に帰りたいくなるけど、そこをガマンすると二学期目からは楽しくなるよ」と忠告してくれたという。その友情に感動して、荷物をほどいて帰ってきたというのだ。

茶色に染めた髪の毛に、しらみをつけて帰ってきた帆姿は、次の日から浦佐小学校に通い出し、すっかり浦佐っ子になりきっていた。学校の方では、担任の先生、校長先生のとりはからいで、籍はそのままにし、欠席扱いにしておいてくれた。冬休みには担任の先生が欠席中の勉強の補習をしてくれたりした。

又發つことになっていた一月十八日が近づくにつれ、「あと〇〇日だ、やだなあ」というようになっていた。メキシコやインドネシアの友人から送られてきたクリスマスカードにも礼状を出さなかった。出發の準備も前日になるまで手がつかなかった。成田を發つ時は、四ヶ月前とはうってかわって、後ろをふり返りふり返りし、名残り惜しそうにしながら、姿を消していった。

ところが、友人がいった通り、二学期目からは、かなり楽しくなった様子が、手紙で送られてきている。ただ彼女の一歩の希望は「家から通える所にサマーヒルがあればいい」ということだそう。まだ十歳なのものの、当然と思う。

(くろいわ・ちずこ 保母)

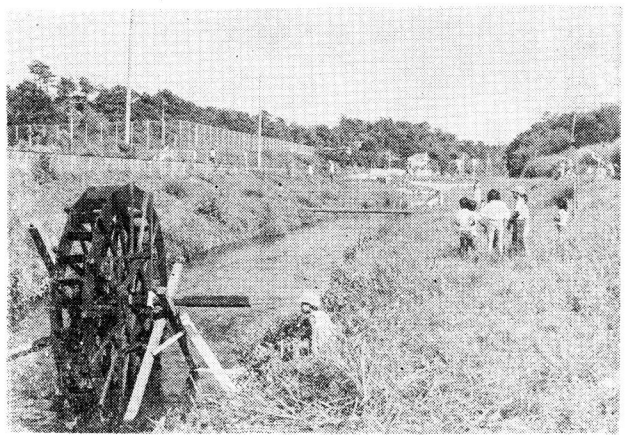
わんぱく夏まつり

すべての世代の人へ、

夏に現れるこの村の若ものより！

夏に現れる若ものたち

&ごじら・りょうこ



「わんぱく夏まつり」は、75年にはじまり、毎年つづいて昨年で第11回をかぞえました。

夏休みも終わりに近い暑い8月の末に、80名のわんぱく団（市内で小学1年～6年を対象に募集）と大人たち、若ものたちが「わんぱく村」づくりに汗を流します。

まつりの会場となっているのは東京都立武蔵野公園内の川のほとりの原っぱです。川は野川といつて、国分寺の日立中央研究所から湧き出た水が各所「ハケ」沿いの湧水によって水かさを増しながら、小金井・三鷹・調布を20kmにわたって流れ、世田谷区で多摩川

へ注いでいます。

この広い原っぱのあたりの野川にはフェンスがないので、誰でも勝手に降りられるし、水にも直接さわれます。最初に「わんぱく」が行われた当時、野川は、工場や家庭廃水で汚された、いわゆる「下ブ川」で、付近の住民には嫌

われ、くさいからフタを作ってしまったという計画すら本当にあったといえます。大人たちにはすっかり見放されているような川だったけれど、ある日、児童館に遊びに来ていた小学生が言いました。

「野川で魚つり大会がしたい」

これが発端で、地域のさまざまなグループの協力と、地域の人々の手によるわんぱく夏まつりが児童館を窓口としてつくられることになったのです。大人がこうして動いたとき、

「大人がこんなにいっしょうけんめいになってやってくれるなんて信じられない」

と言った男の子は今21歳で、大工さんになっています。

下水道の整備にともない、野川の水はだんだんきれいになってきました。ただ、湧水量の減少と、汚水の流入が止まったこと（国分寺市の一部を除く）で、今の野川には清流になりつつある少ない水が流れています。

わんぱく夏まつり

1985

だい 11回

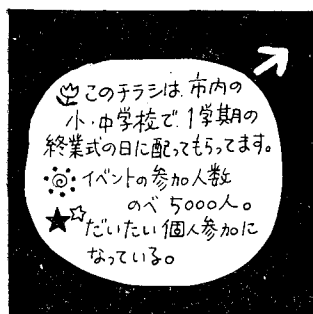
8月18日～26日

都立武蔵野公園 くじら山

主催 わんぱく夏まつり実行委員会 0423-83-1177

後援 小金井市・小金井市教育委員会

おじいちゃん おばあちゃんへ
 …子ども時代を伝えてください
 おかあさんたちへ
 …飛び超そう 子どもたちを！
 おとうさんたちへ
 …泥にまみれてよみがえれ
 若い人たちへ
 …わんぱく時代をとり戻せ
 先生たちへ
 …宝さがしに来てみませんか
 子どもたちへ
 …カエルがないても帰るな
 すべての人たちへ
 …わんぱく原っぱが待っています！！



★声の「セ・ン・パ・ツ」
 あっちゃん（佐藤敦・中2）
 ○僕は幼年の頃から月一回あるわんぱく号（㊤）動く児童館、児童館活動の一環や、夏のわんぱく夏まつりで育ってきました（略）
 わんぱくは野川のそばの武蔵野公園で行われますが、草花や土のにおいがとても印象的です（略）
 小2・中1・中2とわんぱく団に入っただけで、小2の時は高学年の人に釘めきの仕事などを手とり足とり教えてもらったりして、初めて小屋を作りました。中1の時と去年は、サブリーダーをやりましたが、自分のグループの子達と
 小屋作りをしたり面倒をみるのは大変でした。実際はわんぱく団はほとんど自由に小屋を作り、あきたら遊びなどしている。サブリーダーになると大人達の話し合いにも加わっている反省をしたり、リーダー達とは仲良くなったりました。体力もついたので力仕事もやったりしました。僕の場合、面倒を見てもう側から、リーダーで小さい子に教える側に立つまで成長しました。一略一それかわんぱくの子は、とても生き生きとしています。生意気な子、いじける子、性格は様々だけどそれはそれなりに可愛らしさがあります。でも、そんなことを感じるようになったのはつい最近のことです。

これからも、わんぱく夏まつりで頑張るわけですが、大人達やわんぱくの少年少女とも対等なつき合いをしたいと思っています。そして、わんぱくで育っていく子供達が、優しく生き生きと成長してくれたら素晴らしいなあと思います。

◎若ものは、たしかに数年前までは小学生で、リーダーの言うことをきかされたり、夜の星空討論会（と称する後半めちやくちやになつていく宴会）には、ちよこつと顔を出すだけでした。それに大抵、「お前ら子どもは早く寝ろ」とか言われてました。それは理不尽な言われ方でしたが、今では言う側の味を知っていました。

企画の進行上では大人の役割りまでは果たさない、けれどこの年代というのは、子どもらしさってなんなのかという問いには答えることができてしまうのです。

「かわいげのないガキはきらい」——なんて言ったりするわけ（大人もこれに準じます。ははっ書いてやったごめんなさい）。

わるいけど、若いんです。…なの。挫折した経験もすくない。元氣。『もつと働け』なんて言われながらこんなことも思う。——はつらつとした若者の労働姿は長老たちの元氣の燃料なんだ……。

わんぱく村へ行けば誰と誰に会える、と思つて年一度足を運べば遠い所から、または忙しい仕事をやりくりして、やつぱり来てる。

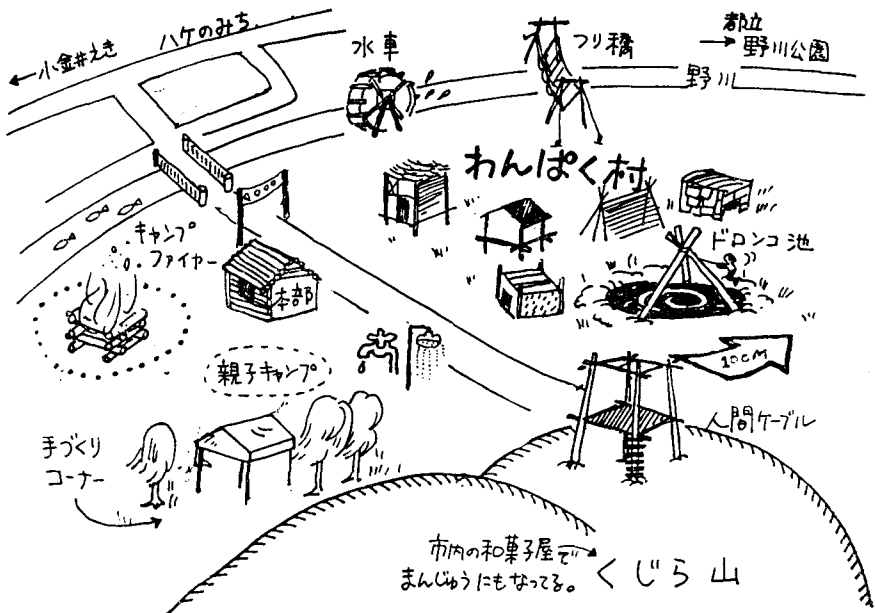
眼の中に泥が入るうが足のうらを切るうが、カマヤのこぎりでケガしようが、水洗いとマキロンとばんそうこうで対応していたりする。ふだんの生活にはなかなか見出しせない奔放さがあつて、大人も子どももそれを肌で感じるから「また来ちゃつた——」

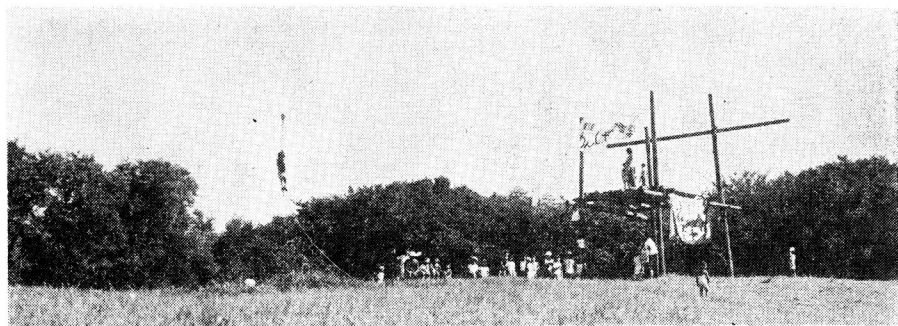
というふうで、たくさん的一年ぶりの顔があつまるのだと思う。

毎年この時期に職場を離れてわんぱくに来るために、夏になるたび転職してる人や、

「今、本当なら福島に行つてなきゃいけないんだよ——」

なんて言いながらあらわれる人。様ざまな大人たちの姿が、私たちの視覚の中に、だんだん人間それぞれとして映ってくる。この感触は学校では決して知らされることのないものなんじゃないかな。





★ソータ・彦坂総太郎 中3、第6回(小4)から参加

●わんぱくをどう思うか——面白
いんじゃないですか。気ばらしに
なるし……《なんど?》ふだんつ
まってるから。ふだんは穴掘りな
んでやれないし、川に入るみたい
なくさいこともしないから。

●わんぱくに來てる大人たちをど
う思うか——便利でいいんじゃない
ですか。《どんなところが?》
お金がでてくるところ。

●わんぱくに來てる小学生たちに
は將來何を期待するか——將來わ
んぱくにお金をまわす人になれば
いいと思う。

●なぜわんぱくに來るのか——く
じら山の引力にひっぱられる。
……たのしいから。

☆やっぱ、今は充電期間だからあ
んまり出てこないなあ。緑川(職
員)なんて夏以外ソレじゃないの。

わんぱくに行くと、外で緑川が何
してるかがよくわかる。
いろいろ勉強になります。

●將來、仕事を持つようになった
ら、わんぱくに來るのに職場には
何て言う?——職業変えてる人も
いるぐらいだから難しい。
理由もなく休む。

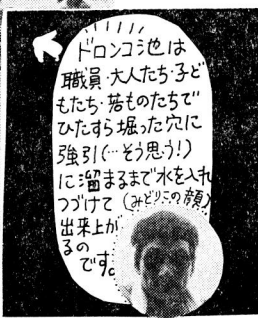
★でら子・池田時子、中1、第6
回(小2)から参加、国分寺在住。
●わんぱくをどう思うか——バカ
のあつまりだね。

●大人たちをどう思うか——うん
とねー、子供をダシ
にね、自分たちが楽
しもうとして來てる
ずるい大人。

●なぜわんぱくに來
るのか——中毒だか
ら。《なんど?》日
頃、学校とかでムシ
ヤクシヤしてて、親
のこととかでもいろ
いろあるけどそうい
うのが発散できる。

☆ふだんの生活にな
い自分がある。ふだ
んの自分とわんぱく

の自分って全然ちがつてる。わん
ぱくはずっとあつてほしい。山家
(児童館職員)とか、みどりこ同、
本名緑川)や、他の人がじいちゃ
んばあちゃんになって、自分たち
が大人になつてもあつてほしい。





★コアラ・鈴木健 高

3、第10回より参加

○私ことコアラは、夏

まつりに昨年でやつと

2回参加しました。

1回目のときには、

リーダーをやらせても

らい、子供たちと小屋

づくりをやり、2回目

のとき(去年)は、コアラが受験

生ということで、トラックを運転

して、資材の運搬をやらせてもら

いました。(分配は絶妙でした。)

コアラが2回参加したうちで、

子供たちと子供たちの身辺でやつ

ていった場合と、子供たちとは全

く離れたところでやっていったとい

う2つの場所から子供たちを見て

思うのは、自分が子供のころやれ

なかったことをしているのだと感

じました。子供たちの手助けをし

ている中学生(サブリーダー)高

校生(リーダー)そして他の大人た

ちは子供たちをさしおいて、それ

なりに違った楽しみをしている。

それが、子供たちだけのものでは

ない本当の「わんぱく」だと思え

ます。

★まきりん・荒井真木 21さい

○夏のおわりの原っぱに人が集ま

る。そして何がはじまるのかと言

うと、いきなり穴を掘ったり、ト

ラックが材木を積んできたりダン

ボールを積んできたりする。しば

らくするとそこに(草の塊)(ダン

ボールの塊)(材木の塊)ができる、

それは小屋。深く掘った穴には電

柱が建てられ、ワイヤーロープが

張られて滑車が吊るされる、これ

は人間ケープル。浅く広く掘った

穴には水が溜められている。これ

はドロコ池。

こうしてわんぱく夏まつりは始

まる。子どもや大人や若者たちが、

それぞれ自分のやりたいことをや

っている。たまに他人にちよつか

いを出したりして。そういうのが

わんぱく夏まつりだと思う。長く

関わっている訳じゃないけどそう

あるのがいいのではないかと思う。

コレがオトナ。 →

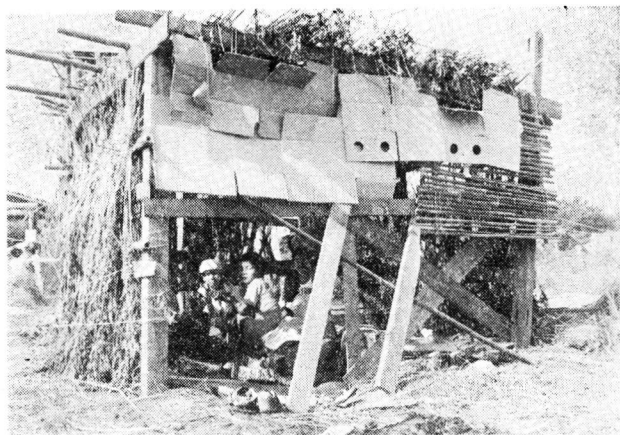
『わんぱくもはじめのころは
オレも20代でな〜』



わんぱく夏まつり
スケジュール
1985年 だい11回
8月

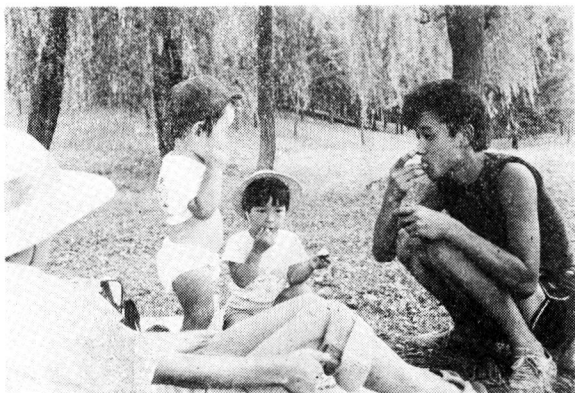
○午前 ○午後 ●夜

23(金)		どろんこ合戦 手づくりコーナー 紙芝居・お話 どろんこ池	きもだめし
17(土)	資材搬入		
18(日)	わんぱく村基礎工事 9:30 ~ 15:00	24(土)	親子キャンプ集合 手づくりコーナー たまは絵本 丸太切り競争
19(月)	おやすみ	25(日)	野川早朝ハイ コイの放流 とうろう作り とうろう流し
20(火)	村づくり 9:30 ~ 15:00	26(月)	あとかたづけ ●人間ケブル ●橋 ●風車 ●布トンネル ●水車 ●シャワー ●本部丸太小屋 ●展示 (こねらは 20~22日に つくられる)
21(水)	村づくり 9:30 ~ 15:00		
22(木)	村の完成と野外料理 13:00 どろんこ合戦		



子ども10人に
リーダー1人とサブリーダー1人で
1グループとなり、
それぞれの小屋づくりに
取りくむ。

わんぱく団に入れない
ちいさな子も、
大人とつしよにあそびに
来ます。





★Mr.カラ出張・金子某 青年 第1回から参加

●わかんないね、なんで来ちゃうんだろね……。

☆ふだん出来ないことがやれる。日常性を離れているところがいい。管理されない時間は貴重だと思う。それでこれが毎日やってるものっていうわけではなくて、この3日間（本まつり）に集中され

ている。それが何となくいい。

わんばくは楽しめます。結局はみんな、自分が楽しみたいから行くんだと思うよ。じやないと逆に続かないと思うしね。

★ちーちゃん・渡辺千津子 高3 第10回から参加

○そもそもこのおまつりが、11年前に出来た背景を知らないのに私がこんなことを言うのも変な気がしますが、かえて、ひと山越えて参加している分、客観的に見れたりして……などとひらき直って筆を運ぶことにします。

「わんばく」この言葉は、あなたに何を連想させますか？ 多分、泥まみれでたくましく遊んでいる男の子などではないでしょうか。こんなイメージのつくおまつりって一体どんななんだろう。私も友人の熱心な誘いに耳を傾け、興味を持ったのがきっかけで、ついに10周年目から参加し、つづいて昨年も参加しています。

何が私をそこまで魅きつけてい

るのか。私は考えました。理由は簡単に言えば、誰もがふだん忘れていた自分をとりもどせるからだと思います。

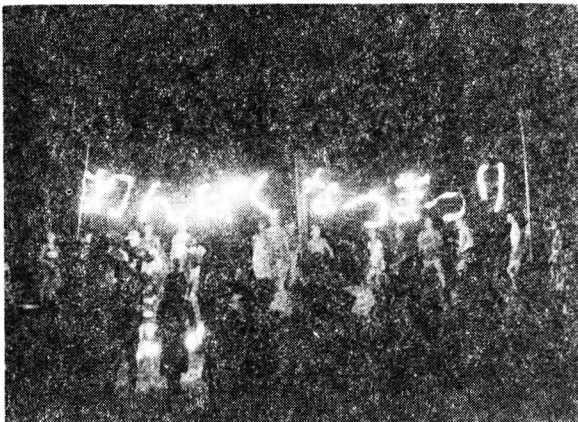
本物の木材を使って一晩の我が家を仲間と共に作る。

こういう作業をすることは、今の世の中（個人主義に向かう今）

必要なことではないでしょうか。野外生活というものは、イコール自然と一体となることです。人間も生態系の中のひとつ。自然と離れたらいけないはずなのに、ふだんは自然を、壁や屋根で隔てて暮らしているのです。野外生活には、ふだん文明の中にいる私達に、本能を呼び起こさせる何かがあると

思う。

そこが私に、山梨から3時間近い旅をしてでも参加したいと思わせる要因・魅力だと信じています。随分えらそうなことを書いてきましたが、とにかく、多少の御足労も癒やされるような、皆がそれぞれに楽しめるおまつりなので、面白そうだな、なんて思った方、どうぞおこし下さい。自分が心を開いて楽しもうと思えば、いくらでも楽しくなれます。





◎あれやこれや、わんぱくの支え

◇ ◇ ◇

村の入口を立派にするため、柱を立てる穴を掘っていたら、

『そんな掘り方じゃダメだ』『柱つてのはこうやって……』

と、近所に住む、散歩途中のおじさんがいつのまにか作業に加わっていて、いろいろ伝授してくれて

た。村づくりには欠かせない「竹」

については、市内で竹林に囲まれて一人暮らしをしているおじさん

がいて、毎年、子どもたちにと竹をいっぱい提供してくださいます。ありがとうございます。

月に一度位ずつそのおじさんを訪ねている友愛活動員の倉橋さんが、話をつないでくれ、トラッ

クの若ものが「竹取り」にでかけてゆくのです。

竹は利用範囲が広いため大変な人気で、トラッ

クがもどるやいなや、一帯の光景は、わんぱく団、リ

ーダー入り乱れての争奪戦と化す（最初に気づいた

数人は、決してよそのグループにはもらさずに走り寄っていく）。

他に、木材は、お風呂

やさんの燃料用廃材、ダンボールは近所のスーパー

から、事前におねがい

して、それぞれのご厚意

を賜っています。

建設業者の、金澤さんと梶野さんが、

『こんなこと毎年やってたら倒産しちゃうよ』

と言いつつ、トラックやクレーンを貸してくれている——梶野組、

金澤建設の両社長なくして、電柱を吊り上げて作る大きな遊具も、

運搬トラックも、存在しません。



数回前のわんぱくでは、今とは別な「若もの」が栄えていた。

わりと近くに住んでいても、夏以外はめったに会わない、こんな付き合いつて、不思議みただけ

ど、わんぱく夏まつり、この先もなくしたくはないと思う。

東京都の建設計画の図面の中でわんぱく村の土地が、用水池計画用地に指定されている。

その件について、都庁で反対意見を言ってきたのは、わんぱくに

ずっと参加している池田あつ子さん（東京都議）で、都庁公園緑地

部、末松四郎計画課長氏は、まつりと、自然保護の立場からの池田

さんの言葉に、次のように答えた。

『まだ間に合いますから、実行委員会会の要望書があるのならそれも

一緒に、イベントの参加者もつれてきて話をきかせて下さい』

決してまとまってない「むら」。

住民たちは、ふだん全く違う所にいつもの自分、をもってます。

文責・カット・ごじら（18さい）

新しい家庭科を創るために
——小学校では——

村田 尚子

「家庭科だより」と
「自由席」

☆「ウン、やっぱりアレでいこう」。
☆アレなんて思わせぶりですが、ひ
☆とつめのアレは、「たより」、学級だ
☆より、学年だよりなどの「たより」
☆のこと。

☆いよいよ家庭科の先生として、子
☆どもたちと顔を合わせる日も間近と
☆なった四月初め、初対面のあいさつ
☆はどうしよう、どんな顔で何をしや
☆べったらいかなアと、見栄も外聞

も大いに気にしながら、アレコレ考えていました。教科書を見てなんの意欲も湧かないような内容だし。ともかく、子どもたちとの最初の出会いをどうするか、いろいろ悩み考えた末に、やっぱり「たより」ということになったのです。教師になって二十数年、失敗談はバーゲンセールにしたいほど在庫豊富な私にとって、たったひとつ頼りにしてきたものが「たより」を出すことでした。

家庭科専科といっても、学級担任をしていた私と人が変わったわけじゃなし、できることといったらソレしかなかったし、ソレ以上にいい考えも浮かばなかったものですから。

頼みの綱としてきた「たより」ではありましたが、実は、これも私の失敗談の最たるもののひとつということにもなるのですから、教師の仕事ってこわい！ と思います。二十数年続けてきた「たより」発行の仕事は、前半の二十年と最近の数年とは、全く性質が変わったと思います。

ひどいものでした、以前の「たより」は——。何がどうひどいのか。紙面全体に、教師のイヤラシサ、ゴーマンサが満ちあふれているのです。このたよりは子どもたちのタメに、おうちの方々のタメに書いてあげているのですヨ、サービスしてあげているのですゾ、役に立つだろう、ありがたいのだろう。行間に言外に、こんなイヤラシサがにじんであふれ出しているのです。

なんと押しつけがましい。いい加減にしてヨ。よくもこう言われなかったものです。もしかしたら、心ある親ごさんは思っただけでしょうね。でも、子どもは人質と思われたか、言っても聞く耳持たぬ相手と思われたか、当時は、そのような声は私の耳には届きませんでした。むしろ、たよりを出してくださるいい先生、熱心な先生などのお言葉ばかりが耳に入り、ますます気を良くして、イヤラシさに拍車をかけていたようなことで。

ところで、当時の私ばかりでなく、一般に「熱心な先生」の出す「たより」には、イヤラシクてヒドイものが少なくありません。自分もそうでしたから、よけい恥ずかしい気持ちで見えてしまうのですが、本人は、とってもいいことをしていると思っているわけですから、こんな場合は、周囲から声をあげることがいいのではないのでしょうか。

イヤラシクてヒドイ内容の最たるものは、子どものアラ探し。忘れ物が多い。髪の毛や手足のツメの始末が悪い、給食を残す、授業態度が悪い、基本的生活習慣がなっていない、さらには、テスト結果の統計をのせたり、ウンチ検査をしてその結果を記録したり。忘れ物なども、回数を数え、表にまとめ、何パーセントがどうのこうのと無意味な数値をはじき出し、交番の掲示板みたいに、本日の忘れ物人数〇人などと書いたりもする。自分も同じアヤマチを犯してきただけに、

「たより」が「管理教育の先兵」になり果てている姿を残念に思います。こんな、教師と親が「協力」して、子どもたちを管理し監視する手段としてのたよりなど、ない方がいいに決まっています。

私は、数年前からたよりの書き方を変えるようになりました。子どもたちのタメ、親のタメではなく、自分のタメに書きたいことを書く。内容は、一日の大半を共に過ごす子どもたちとの交流についてが多くなるので、子どもたちに読んでもらえたらうれしいと思い、子どもたちあてに書き、配る。家に持ち帰って親に見せたければ見せてもいいし、見せなくたってかまわない。子どもたち自身、読みたくなければ読まなくたっていい。ただ、読めば、あなたが今先生と呼んでつきあっているオトナは、こんなことを考え、こんなことをあなたに言いたいと思っている人間なんだと知ることができる。そんな「たより」を書くことにしたのでした。

相手がどう受け取るかわからないけれど、相手との関係を深めたい、大切にしたい、そういう思いを書かずにはいられなくなつて書くようにしたのでした。

八三年四月〜八五年三月の二年間、五・六年を担当した子どもたちに出したたよりは、その名も『週刊LL（ラブレター）』。長い間、私の学級だよりは『まど』、心のまどを開くということだったのですけれど、まどから子どもをどなるこ

ともあったりして、もうそんなことやめようと思つてのネーミングでした。もつとも、若き日のいつかのように、日夜恋いこがれていたわけではありません。「小さな恋人たち」なんて美化してみても、偽善だなんてうしろめたくなる目もないわけではありませんでした。時には支離滅裂の内容になることもあり、また、子どもたちが「何だこりゃ」という顔をすることもありました。でも、それをラブレターとして書くことが、私にできる仕事なんだと思ひ定めたのです。そんな「たより」を書き続けよう、あわよくば、それが教材として役立ってくれたら、というのが、ひとつの「アレ」でした。

もうひとつの「アレ」というのは、担任時代から続けてきた、子どもたちの教室での座席は「自由席」というならわし。

家庭科の授業が始まった四月十五日(月)。最初のご対面は五年一組。三時間めの始まりのチャイムが鳴ってしばらくすると、ドヤドヤとやってきました。私は黒板の前に立って、オハヨー、オハヨーと大きな声で言います。一瞬ビクツとし、つぎにニコツとして、子どもたちもオハヨーゴザイマス。それから席につくはずなのですが、何と子どもたちは、ウロウロ、キョロキョロするばかり。

「どうして座らないの」

「だってえ、席がないもん」

「席はあるじゃない、いっぱい」

「どこに座ればいいの」

「どこでもお好きなのところにどうぞ」

「ホーント！ どこでもいいの!? だれと並んでも？」

ここからが大変。ワーワーギャーギャー。騒ぎはいっこうに静まりません。そのうちに「やっぱ先生決めてよう」なんて言い出す子も出て来る始末。「自分の席くらい自分で決めなさいよ。どこだっていいんだから」と言つて、なおも静観。最後までゴタゴタしていた女の子の一人が、シブシブそれぞれの席を決めた時には、三十分近くも過ぎていました。教室での子どもたちの座席をどうするかは「学級経営」上の大問題という説もあり、ソシオグラムなどというものを根拠に、あるいはクラス中の子どもたちがまんべんなく仲よくなるようになどの「教育的配慮」のもとに、教師が「苦心」して決めるという場合が少なくありません。私もかつてはそうしてきました。オシャベリな子どもしは遠ざける、モンダイ児は目の届き易い場所に等々、結局は教師が管理しやすい方向で決めるのです。

考えてみれば、高校や大学では好きなのところに座ったつけ。自由で自主的な研究会なら席が決められてるなんてこと

は絶対にありませんし。小学校や中学校だって、好きなところに座っていいのに、座席まで管理の手段にすることないヨと思うようになり、『窓ぎわのトットちゃん』にも啓発されて、私は五年前から、毎日の座席は毎日子どもに選ばせるようにしてきました。

今年も「自由席」と決めたら、家庭科の時間は週一回きりなのだから、自由席じゃ子どもの名前が覚えられないでしょうと、忠告してくれる人もいましたが、それを理由に「指定席」を決めてしまうのもオカシナモノだと思います。

名前を覚えることが大変だといって、覚えることを放棄して、名札をつけ、背番号をつけ、胸にもゼッケンをつけなど、ゾツとするような方法が全国に広がっています。そんなにまでして目をつけた認識は何に役立つのでしょうか。何十何番は「4」の子で何番は「2」の子だなんて、そんな覚えられ方はどんな結果を生むでしょうか。私は、及ばずながらも、「人間的な交流を通じて」（杉本判决）、子どもたちの名前を胸に刻みたいと思います。そうした交流をしやすくするような教育条件の整備を、当局に要求したいと思います。人間を記号化・数字化してコンピュータにうちこむようなやり方は、人間の尊厳をそこなうものです。

座席を教師が決めた方が子どもたちが「安定」するという説もありますが、私の場合は、自由席でむやみに不安定にな

るということもなく、かえってのびのびして、その日その日の子どもの様子がわかりやすくなってきたと思います。

「自由」というものは、要求があつてかちとった場合には謳歌することができても、与えられた場合はどうしたらいいかわからないということがあるものなのです。でもそれは、不自由な状態に慣らされてしまつて、何でもかでも決められた形でしか行動できない人間になっているからで。自分の席がなかなか決められない子どもたちを見ると、それだけ強くタガをはめ込まれているんだなア、がんじがためにされてきたんだなアという思いを強くします。

そんなふうにして、多様な選択の可能性を奪い、理性的な判断の機会を奪うばかりか、何よりも、子どもたちの豊かな感性をことごとくにすりつぶしていくのは恐ろしいことです。私は、子どもたちの自由な発想やみずみずしい感受性に、驚いたり、新しい発見をしたりする楽しみをなくしたくありません。

さて、五年一組から始まった授業は、一週間で六年四組までひとまわりして、七クラス全員と顔を合わせました。

自由席は、とまどいを見せながらも歓迎され、定着していくようになりました。たよりは「家庭科だより」として、最

初の授業で第一号を配りました。五年用六年用の二種類。内容は、両方とも私の自己紹介と家庭科についての思いを少し。また、「たより」の名前を子どもたちから募集して決めてもらうことにしました。

六年生に最初のたよりを配ってから二、三日後にこんなことがありました。四年生の、私が図工を受け持っているクラスの子からの話です。

「先生、ウチのお姉ちゃんたちにお手紙書いたでしょう。お姉ちゃん、私とお母さんにも見せてくれたんだよ」

「あなたのお姉ちゃん何年生？ そう、六年生。ああ、一組のHさん。フーン、あなたが妹さんなの」

「あのお手紙ね、お姉ちゃん、感激したっていつてたよ」

「ええ?! ホント! 何に感激したのかなア」

「ホラ、先生サ、自分のこと不器用だって書いたでしょ。不器用で縫うのヘタだから家庭科の先生になったんだって書いたでしょ。あれがね、お姉ちゃん感激したんだってさ」

「へえ、そうなの。不器用っていうのは本当なのよ。小学校のころ、家庭科って大キライだったんだよ。だからね、そういう人が家庭科の先生になれば、不器用な子が安心するんじゃないかなアなんて思ってたのよ。お姉ちゃんに、どうもありがとうって言ってね」

一五三人の六年生。まだ一度しか会わないのに、だれがど

んな子なのかもよくわからないのに、たとえひとりでも、感激したなんて言ってくれる子がいたとは、うれしいわあ。

書きたくて書いているんだ、読まれても読まれなくても、捨てられたって文句はないなどとツツパッテいるくせに、たったひとりのたったひとことで目尻を下げてしまうとは、我ながら他愛ないですね。

たよりの名前は、六年生が『むらっこ』、五年生が『家庭科天国』と決まりました。気分にもラのある私にピッタリの『むらっこ』、初めて家庭科を学ぶ五年生にふさわしい『家庭科天国』と思って喜んだのですが、実は、五年生の家庭科の時間は、時として「家庭科地獄」の様相を呈することにもなるのですから、思うようにはいかないものです。

(東京都杉並区立高井戸小学校)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新しい家庭科を創るために

——中学校では——

磯部幸江

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

自立した生き方を するために

保育の学習では（その1）

「保育のことについてたくさん学べました。しかし、保育のことよりずっと大切なことも学べました。毎時間、感想意見を書くのは大変だったけれど、自分の考えを主張することができてうれしかったです。また、いろいろなことを考えさせられました。女性らしさも学べたような気がします。人間を育てることは他の動物とちがいで、環境でかわってしまう

ことも……。人間と人間は、不思議だと思いました」（鈴木）
「こういう機会がないとなかなか学べないことだし、女性にとってもとても大切な事だから、つまらないとか、何でこんな事するのかと思っても、やってみるとなるほどと思う事がいっぱい。これから先役に立つ事ばかりだし、人間的に一步成長した気持ちです。こういうことはやっぱり女だからこそのわかんないし、関心があると思います。女だからこそ必要なのです。でも、男の人にもほんの少しでいいから大切な事を学んでほしいです。女性の事もよく知ってほしい」（鎌田）

これは、女子だけの保育の授業が終わった時に書いた生徒の感想である。二人とも意欲的に授業に取り組み、まじめに考えているのだが、「女性らしさ」とか、「女だからこそ」とか気になる意見も述べている。女子特性論とか性別役割分担の意識を変えていくような授業を組み立てていこうと、意気込んでいる私だが、女子だけの授業であることで分業の固定化を促進しているようで気が重い。絶対に共学でなければならぬという思いと、できないでいる現実とのジレンマに悩みながらの保育の授業である。

保育という分野、自立した生き方を考えるにはとてもよい教材だと思っている。だから、教科書にあるおもちゃや幼児服の製作という物作りから離れて、私なりに授業することを

考える。生徒と共に、男と女のあり方を、自分の家庭やこれからの生き方を考えていく授業にしようと思いを燃やす。私の思い込みや熱意が大きければ大きいほど空振りすることも多く、落胆し、力不足をしみじみ思い知らされるのである。

授業をしたのは、三年生二学期後半から三学期にかけてである。ちょうど卒業後の進路決定の時期で、担任と親子の面談やら、入学試験、発表などと、落ち着かない時である。進路決定も、「女の子だからほどほどいい」「将来はよいお嫁さんになればいい」という親の意識も根強いし、早々と男子の補助的立場に立ち、将来はかわいい奥さんにといい込む生徒たちもいる。容姿を気にして、せっせと髪をみがき、スカート丈は長くなっていく。自己主張すれば、生意氣だといわれ、女の子たちは、自分の持つ力を閉じ込めてしまう。だからせめてこの時期に、保育という授業で、強くたくましく生きていく女の子たちの応援をしたい。

△授業から▽

（一）夏休みの課題——生いたちレポート——

夏休みに次頁のような課題を出す。その年によってレポートする内容を規定したり、家族へお願い文を出したりしているが、まとめ方を自由にするそれぞれふうして、よいレポートがたくさん集まる。家庭状況で、話の聞けない生徒を

配慮して別の課題も考える。未提出者には個々にあたり、どのような形ででも全員に出してもらうようにしている。

それぞれのレポートから、家族のいろいろな想いや生徒たちの成長の様子が浮かび、楽しみながら読んでいる。かけがえのない命を大切に育てられてきた生徒たち一人一人が、一生懸命に書いたものであるから、私も、ていねいに読み感想を書き添える。授業に使いたいものは、プリントして配布する。レポートの中から、感想の部分を紹介したい。

「実は、私のいとこの子供が今、生後十一ヶ月なのだが、みていて『お母さんって大変だな』ってつくづく思う。目を離せないし、すぐ泣くし……。母にこう言ったら、母は、『自分の子だとね。そんなに苦に思わないのよ』と言う。でも、私も育ててくれた母に感謝！そして、大きな手で私を守ってくれた父に感謝しなくては。

とにかく、赤ちゃんっていうのは、はやく大きくなるもんだなあー！一ヶ月に三cm、背たけがのびてしまうなんて信じられない。やはり、ミルクをのんだらすぐねる……のくりかえし。これが、赤ちゃんをどんどん大きくする原因なのだろうか。なくただけだった赤ちゃんが、だんだん言葉をおぼえ、自分の気持ち、言葉をはなすことによって表現できることをおぼえ、そして、書いてあらわすこともおぼえていき……。どんどん気持ちも知識も豊かになっていく。なぜか、あ

夏休みには……

3年家庭科

今年の夏は何色ですか？ 白、青、それとも赤、それともそれとも……
昔はどうだったのだろう？ 幼い頃の夏のイメージは何ですか？
3年生の夏休み。家庭科では、みんなに次の事を調べてもらいます。

『私の生いたち』をレポートする。

みんながレポーターです。いろいろな方法で取材して、よいレポートに仕上げましょう。

- (目的) ・自分の生いたちを知ることにより、人間はどのように成長していくのかを考える。
・2学期の保育の学習の参考とする。

(内容) 自由。次のような事を参考とする。

- ・お母さんの妊娠中のこと
- ・生まれた時の様子
- ・どのように大きくなったか
- ・育ててくれた人の苦労話
- ・エピソード など

(方法) まとめ方自由。

小説風、聞き書き風、年表風
イラスト、写真入り、多いにけ、こう



レポート用紙3枚以上

最後に感想をきちんと記入すること

もしかして、もろもろの事情で上記の記事が書けない人がいたら
次のものを提出する。

『家族や保育に關した新聞記事を集める。』
2週間以上、各自の感想を記入する。

たりまえのようで、不思議な気もする。

このレポートを書くのに、成長していく様子や自分の小さい頃の気持ちを思い出しながら書いているうちに、結構まわりの大人とかを見ていたんだな……と思った。四、五歳のとき書いた『おかあさんのうた』とかでも、おかあさんが長電話しているのをしっかり見ていたらしい。ということとは、まわりの人の影響も、子供にとってはスゴイのではないかと思うのである。そういえば『三つ子の魂百まで』ということわざがあるが、やはり、小さいときの環境でその子の性格も左右されてしまうのだろうか?」(牧野)



(二) 第一話 保育の学習が始まるよ

ねらい (1)人間はどのように成長していくかを知る

(2)保育と環境、社会の役割を考える

(3)これからの自分の生き方を考える

プリントを使いながら、授業の計画を話す。先生や友達の話聞き、自分が何を感じ、考えたかを大切にしよう。答えは一つだけではないのだからと力説する。そして、その時間の終わりには、感想や意見をまとめさせる。導入として、命のもとになる精子と卵子のことや妊娠中のことなど簡単に話す。生徒たちは、少しざわつき、にやにやしたりするが、大

かたは真剣に私の次の言葉を待っている。男女に上下関係はあるのだろうか、子育ては女だけの仕事だろうか、などと、問いかけをして、考えるきっかけを作る。成長の様子としてNHK特集『五つ子の記録』を見せる。

「私は、四億〜五億の中から選ばれた一人なんだと思います。感激です。運がよかったのだ。あんまり子供を生みたくありません。よく苦しかったと生んだ人だいたいと言っています。だから生みたくありません。」(猪俣)

「先生の言っていることだいたい分かりました。私、男女の能力の差がある、男の方が上だ」って思っていたんですけど、妊娠するとか、女だって男に出来ないことも大切な事をしているんだから、けっして、女が男におとるとは思わないって思いました。女って偉大です。ハイ」(木村)

「今日『男女の違い』ということで色々自分でも考えたけど、私も先生の考えに賛成です。体力で男女の違いがあるといった人がいたけど、私よりもっと足のおそい男の子もいるし、もちろん私よりはやい子もいます。やはり、個人差だと思います」(平原)

「ビデオを見てよくわかった事は、子供を育てる、出産するというのはとても大変な事だということです。テレビ

の場合は、五人でそれも極小未熟児ということによけいにお医者さんや研究班の人々両親や学校の先生にも一生けんめい手をかけて育ててもらっているのがよくわかりましたが、私たちもいろいろな人々のおかげでここまでこれたという事がわかりました。これからも、大切な命が育っていくようすと、これからの私たちがどうあるべきかというのをよく学習したいです」(福田)

「自分がものすごい競争率の中から生まれてきたということに、とてもおどろいた。子育ては、男女が協力してやるって言っても、女子しか保育の授業をやらないというのは、「子育ては女の仕事」って、きまりきってるような気がする」(林)

生徒たちの感想には、「妊娠・出産はたいへんだ、お母さんで偉いんだなあ」というのが最も多い。短時間でよくまとめて書いているが、「よくわからない」「別に何も感じない」「こんなことやりにたくない」と、授業に関心を示さない生徒もいる。すべての生徒に前向きに取り組ませたい。それは私の夢なのだが、林さんの問いかけにもきちんと答えながら次の授業へどうつなげていこうかと模索する。(第二話以降は、次号で)

(大宮市立大砂土中学校)

編集室からあなたに



あなたも、Weの書き手になって！

8・9月号は、そのチャンスです。

◆8・9月号原稿募集

テーマ「親—いま、学校に何ができる？」

親であることは、いつの世にもつらいことだったのでしょうか。歓びの大きさに反比例して。けれども、いまほど「親であること」のつらさを噛みしめる時代はあまりなかったのではないのでしょうか。かつて、親と教師が対等の立場で、ともに教育や学校について討議する場であったPTA。それが形骸化し、変質してしまった現在、親は、学校に対して何ができるのかと無力感を持ってしまう方も多いでしょう。でも、子どもたちの現実や学校、教育の現状は、親に手をこまねいていることを許しません。まずWeにあなただけの思うことを書いてみませんか？

●原稿字教 2000字程度

●メ切り 5月10日

●誌上匿名はかまいませんが、原稿には住所・氏名を明記して下さい。

●原稿用紙に向かうと構えてしまう、という方は、「わたくしからあなたに」にはがきでご意見をお寄せ下さい。親からのさまざまな体験談、提言・意見、悩みなどを、8・9月号には満載したいと願っています。

5年目のWe、順調に滑り出しました。4月号は幸いにして好評でした。Weを名前通りのWeにするためには、高名なセンセイのありがたい論文よりも、たくさんの生活者の声を載せたいのです。あなたもWeの一人。ぜひ書き手になって！

した。食べ物を、ただ『食べたいから食べる』という姿勢でなく、身体の健康や、その生産にたずさわる人たちのことを考えて食べるようにすべきではないかと思ひます」と述べている。教室の外へ学習の場を広げたことで、生徒も教師も視野が広がったことを実感したのである。また、牛乳の種類（脂肪分、殺菌温度）によるヨーグルトのできばえの実験は、私の方が教えられた発想で、翌年から「牛乳」を教材にした。

2、牛乳の加工・調理

ものを作ることに楽しく取り組む生徒たちである。また、体験を共通のものとしてから理論学習に入ると、落ちこぼしもうまない。そこで、まず実験をやり、そのあと、理論的な整理をした。

(1) カッテージ・チーズ

材料 牛乳200cc、脱脂粉乳大さじ2、酢30cc

牛乳と脱脂粉乳を混ぜ合わせ、加熱する。50℃で火を止め酢を加え、軽く混ぜて、5分放置。ふきんでこし、軽く絞って水洗いし、再び絞る。約50gのかたまりのカッテージ・チーズができる。生徒は、「酢を加えることによって凝固してくるのには驚いた。初めは黄色だった色が完成するにつれて白くなった」と細かく観察している。カゼインという牛乳の

蛋白質が酢で凝固したこと、またカルシウムやその他の栄養成分も含まれていることを次時に説明する。試食すると、「舌ざわりはチーズだなあ」と感じる者もいるが、多くは「全然おいしくなかった」「豆腐のかすみたいだった」「チーズにはほど遠いもののようにだった」と芳しくない。生徒はカッテージチーズを今まで食べたことはなく、全部プロセスチーズのみの経験である。サラダや菓子に利用されることを説明しても食べ残してしまう。チーズ製造の原理は教えられるが、試食のことを考えると、時間はかかってでも発酵させたチーズを作るようにした方がよいようである。

(2) ヨーグルト

材料 脱脂粉乳20g（又は牛乳200cc）、砂糖15g、ヨーグルト（市販品）小さじ2、エッセンス1滴

脱脂粉乳を水200ccに溶かし、砂糖を加えて、約3分間加熱。これを約50℃に冷やし、ヨーグルト（種菌）を加えて混ぜ、エッセンスを落とし、ガラス容器に移し、約38℃で10時間保存する。保温は電気コタツを使い、一クラス分いっしょに入れておく。私が帰宅する頃、スイッチを切り、そのまま放置し、翌朝冷蔵庫に移し、昼に試食。スイッチを切り忘れて一晩暖めておくと、発酵しすぎて酸味が強い。時々失敗して、再び作り直したものと比較させる。発酵という微生物利用の加工法は温度管理が大切であることを理解させるのによ

い材料である。保温にジャーやポットを使ったこともあるが、とり出すときの型くずれや他の班のを混合して各班のできばえの違いが見られなくなるので、この方法をとっている。生徒は「ヨーグルトの液ができたらずぐに冷蔵庫で固めなければならぬ」と思っていた」「発酵するのはもう少し低い温度でいいのかと思っていた」「ヨーグルトになるまでにあまりにも時間がかかりすぎる」と作る過程について感想を述べたものが多い。

日本の伝統食の特徴の一つに、発酵作用を利用したものが多くことがあげられているが、味噌の自家製造は農山村のこの地域でも一割あるかないかである。この加工技術は私たちの生活文化から消えつつある。若者が好むヨーグルトを手作りすることはこのような観点からもよい教材となる。次時に、市販品の品質表示を観察し、原材料として寒天やゼラチン、果物が使われている理由を価格と合わせて考えさせる。手作りの味が「酢っぱかった」と感じることをぶどう糖果糖液糖の使用で甘さを増やすために各社競って工夫していることを理解させやすい。

(3) アイスクリーム

材料 卵黄2個、砂糖50g、生クリーム45cc、牛乳180cc、粉ゼラチン小さじ1、水大さじ1、エッセンス、卵豆腐型(小)

①卵黄を泡立器でよくほぐし、砂糖を加え、混ぜてクリーム

状にする ②牛乳と生クリームは鍋に入れて、沸騰直前まで加熱し、これを①に少しずつ加えて混ぜる ③水でしめらせておいたゼラチンを②に混ぜ、温かいうちに裏ごし器でこし、エッセンスを落として型に入れ冷やす、荒熱をとってから冷凍庫へ移す。凍りかかったら、かき混ぜて再び冷凍、3〜4回くり返す。

全部の生徒がおいしく感じる。その内容は「市販品と変わらないくらい」から「売っているのよりうまい」と幅広い。ざらつきを感じる子もいる。工場製造は凍るときに機械を使ってよく攪拌してあるので氷の粒が小さくなりなめらかになること、手作りではそれが弱いので大きな粒子となり、その違いが舌ざわりに出てくることを説明する。材料費は140円。味と量から、「安い」と感じる。これも次時に市販品の品質表示で原材料をみる。植物性脂肪(パーム油、ナタネ油、ヤシ油)、乳化剤、安定剤、着色料、食塩、ぶどう糖果糖液糖などのたくさん材料名に驚いてしまう。中学校までに食品添加物の有害性を学習してきてはいても日常生活で原材料を点検する習慣までには至っていない。特に植物性脂肪の使用目的については、次のバターと合わせて、価格の問題と結びつけて説明する。

(4) バター

材料 生クリーム(市販名ホイップクリーム) 100cc

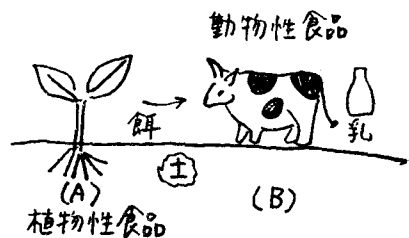
生クリームを大きめのボールに入れて泡立てる。泡立ったあと、さらにかき混ぜると脂肪分（バター）と水分が分離してくる。それぞれの分量を計らせておく。できたバターはクリームコロッケの材料とする。

「クリーム状からバターになるまで時間はなかったが、固まる時間は速かった」「とても力がある」といった物理的な感想と「市販品の方が（卵黄が多いのか分からないけど）色が濃かった」と化学的なものもある。後者の感想から、バターの原料を知らないことを教えられる。また、色の違いについては、実験材料に市販のホイップクリームを①乳脂肪40%（200mlで338円）②乳脂肪24% 植物性脂肪24%（同300円）③植物性脂肪40%（同168円）の三種使って、できた固まりの状態を比較させる。そうすると、①はきれいな淡黄色 ②淡々黄色 ③白色とはっきり違いが出てくる。原料の違いから出てくるものであり、①が市販のバターの色と同じであること、バターの原料が乳脂肪であることを確認する。

では、なぜ黄色なのか。マーガリンの品質表示を見てβカロチンによるものであることに気付く。βカロチンが牛の餌である草から移行したものであり、昔の牛には自給用の飼料を与えていたので、草をたくさん与えた夏の牛のバターは黄色が濃かったという話をする。マーガリンが植物性油脂を原料としたものであることを80%も知らない現状である。①②

③の価格の違いから植物性油脂が乳脂肪より安いことはわかる。次にその理由を考える。生徒は「植物性油脂の方が乳脂肪よりたくさん生産されるから」と答える。確かにそうだが、なぜ植物性油脂の方が多いのか。この問には返事がない。

そこで私は図を黒板に描く。「牛は草や穀物を食べて乳を出しますね（餌を肉と答えた女子生徒がいる、わからない者5%もいる）、そうすると、Aの段階とBの段階ではどちらが生産経費がかかっていますか」と問えば、ここでは簡単にB段階で高くなると答える。植物性食品と動物性食品の価格が、需要と供給の関係だけでなく、生産のしくみの違いによって生じてくることを理解させたい。このあと、マーガリンが高いバターのかわりに作り始められたと説明する。また、アイスクリーム類には植物性油脂が多く使われているのは価格に関係していることに気付かせていく。また手作りの味をおいしく感じたのは、乳脂肪のみを使ったからであり、乳脂肪の含有量によって、アイスクリーム、ラクトアイス、氷菓に分類され、価格も異なることを整理する。



ここで、動物性油脂と植物性油脂の成分と性質、栄養的価値についても触れ、健康的には植物性油脂の方が良い面のあることも説明する。

八五年度は時間割の都合で、二年生二組を十月に前半・後半で交替した。五月に実施したクラスでは分離しないのは一斑か二班だったのに後半の十一月の実習ではクラス全部が混ざっても分離しないのである。生徒の攪拌力がこれほど弱くなったかと初めは思つて、ハンドミキサーまで取り出して攪拌したが、いつまでも泡立ったままである。とうとうあきらめて、クリーム状のままでクリームコロッケのホワイトルウ用バターとして使った。製造元に問い合わせると、「植物性脂肪に天然の乳化剤が含まれていて、ホイップが保たれ分離しないようになっています」との回答。それで「五月には分離したのですよ」といっても同じことをくり返す。後日友人にこのことを話すと、別の乳業メーカーから、「夏頃に天然乳化剤のレシチンの分量を多く添加した」との説明があつたと教えてくれた。天然だから表示してはいないのである。

消費者の「泡立てて使う」という一つの目的のためだけに、そして消費者が便利に、失敗なく作れるようにと、本来の生クリームの性質が人間の手によって変質させられているのである。コピ―食品が氾濫している世の中だが、私にはショックであつた。と同時に、実験試料の入手が困難になりつ

つあること、また、本来の食べ物の性質をきっちり把握する必要があることを痛感した。

3、牛乳の試験テストから

最後に、殺菌温度の違う牛乳の試験テストを行った。ねらいは、L L牛乳の常溫流通化、高温加熱殺菌による栄養成分の破壊などの問題から、牛乳の殺菌法のあるべき姿を探ろうとしたのだが、今の生徒たちの味覚の現状を把握するためでもある。A ↓ B ↓ Cの順序で、一回に3種ずつ試験。おいしく感じる順に①②③とした（結果、別表）。Aでは一般的に普及している120°C殺菌の牛乳を最もおいしく思う。Bでも同じ傾向であるが、Aに比べるとL L牛乳をおいしく感じる者が多い。Cでは生乳をおいしく感じ、63°Cは評判がよくない。63°Cは天草の零細乳業メーカーがくまもと生活協同組合と提携して良心的に生産し、近くの学校給食にも入りつつある。昨年まではパックの表示を見て、殺菌法の種類を知り、その問題点を考えさせていたが、注入的に終っていた。今回試験テストを取り入れたことで、殺菌法によつての味覚の違いをはつきりつかみ、また慣れによつておいしく感じるものが、さらに個人によつてもずいぶん異なってくることを生徒自身が確かめることになった。嗜好で食品を選択する生徒たちに、教師が「低温殺菌法がよい」と強制しても定着はしな

牛乳の試飲テストの結果

A 対象 2年生女子17名

牛乳の種類 順序	生乳 80℃で 15分	普通牛乳 120℃ 2秒	L.L牛乳 140℃ 2秒
①最もおいしい	6名	10	1
②①の次	7	4	6
③おいしくない	4	3	10

B

牛乳の種類 順序	普通牛乳 75℃ 15秒	普通牛乳 120℃ 2秒	L.L牛乳 140℃ 2秒
①最もおいしい	3名	9	5
②①の次	7	7	3
③おいしくない	7	1	9

C

牛乳の種類 順序	生乳 80℃ 15分	普通牛乳 63℃ 30分	普通牛乳 75℃ 15秒
①最もおいしい	9名	1	6
②①の次	7	0	9
③おいしくない	0	15	1

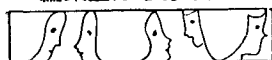
いだろう。子どもたちの作られてきた味覚に挑戦する段階から教材を考えていかねばならないようだ。

牛乳は流通方法によって価格も大幅に異なる。一般メーカーと生活協同組合の生産の姿勢の違いを品質、価格の点から具体的に整理できる。

実習のあとVTR「遊牧の民の遺産―乳製品―」(NHK)を視聴し、前述した理論の整理2時間、牛乳に多く含まれるカルシウムの体内での働きを1時間扱う。合計6～7時間。

(熊本県立甲佐高等学校)

編集室からあなたに



夏季フォーラムに、あなたのお力を

ウイ書房が贈る単行本、次の2冊、進行中

◆'86年夏季フォーラム

すてきな女、すてきな男、すてきな子ども、すてきな大人の出会いの場として、大勢の方が楽しみにして下さっている、夏季フォーラムの日と場所が決まりました。この夏のプランの中に組み入れて、ぜひ大勢の方がご参加下さいように

●期日 8月9・10・11日(土・日・月)

●場所 富士研修センター

(403 山梨県富士吉田市大明見
1351-1 tel 0555-24-3771)
富士山麓の自然の中、河口湖・山中湖まで車で15分、散策によし、テニスコートも併設という宿舎です。

●交通 中央線、富士急バスで富士吉田駅下車、タクシーで5分

◆フォーラム実行委員・テーマ・分科会 テーマ募集中

ウイ書房とWeの会共催の一大イベントを楽しく盛り上げるために、ぜひあなたのお力をお貸し下さい。

実行委員を引き受けて下さる方、話し合いたいテーマ、今すぐウイ書房までお申し出下さいように。

◆ウイ書房3冊目の単行本「私塾霞国語教室風景」大評判になっています。

ひき続いて夏には、森幸枝さんの『男女で学ぶ新しい家庭科―京都における歩みと実践―』、児玉すみ子さんの『若いいのちとともに』を世に送ります。いずれも、好評の連載に、書き下ろしを加えた意欲的な内容。いま、最も求められている本だと信じます。

新しい家庭科を創るために

—— 投 稿 ——

家庭科教員の専門性 とその阻害要因

山 川 理 智

私の大学での専攻は家政学部服装学科西洋服装コースであった。多くの家庭科教員は大学においてはある者は被服学、ある者は栄養学というように限られた分野を専攻している。しかし高校教員としての現場では、それらの専攻にかかわらず他の分野も教えることを要求される。「家庭一般」の内容を教科書の目次からひろうと、次のようである。

I 家庭生活の設計・家族（家庭経営） II 衣生活の設計・被服製作（被服）

III 食生活の設計・調理（食物）
IV 住生活の設計・住居の管理（住居）
V 母性の健康・乳幼児の保育（保育）

多くの普通科共学校では、家庭科は専任教員一名プラス非常勤講師一名で担当している。専任教員は上記五分野を一人ですべて受け持つことになる。このような教科の担当のしかたは果たして妥当なのだろうか。あわせて、家庭科教員の負担は適当なのだろうか。いくつかの視点から考えてみたい。

1、家庭科教員の専門性について

(1) 研究分野の専門性

高校・家庭科の土台となる学問は大学・家政学である。家政学には、被服学・調理学・食物学・栄養学・住居学・保育学・家庭経営学等の各分野が含まれている。しかし最近それらの各分野はしだいに分化・専門化して家政学から独立しつつある。その現れとして栄養学の単科大学（栄養大学など）や被服学の単科大学（文化女子大学や杉野女子大学など）があり、大学院も認められて専門的研究を深めている。そのような大学で教員資格を得た者は、当然他の必要な分野も学んではいるが、本領はやはり各自の専攻した分野にある。

(2) 「家庭科」の雑学性

家庭科の各分野の研究対象は、それぞれ非常に離れている。被服学で扱う繊維製品、食物学で扱う食品、保育学で

扱う乳幼児、これらの間に科学的な性質のつながりは何もない。ただこれら各分野は「家庭を営むのに必要な知識・技術の研究」という目的の点で一致しているだけである。その点、社会科における地理と歴史と経済、理科における化学と物理と生物等よりも異質な各分野の寄せ集めと言える。

(3) 専門性と収れん性

これらの各分野のどれかひとつを専門に研究しようとすれば、それだけで大学四年間を費やすのに十分な内容を持っている。特にこれらは一朝一夕には身につかない実技の修練を伴っている。それを総花的にどの分野も同等に身につけようとしても、どれひとつとして実をあげられない恐れさえある。

しかし家庭科を教える上では、自分の専門分野のみの知識・技術の伝達しかできないようではあまり意味がない。専門の知識・技術は「よりよく家庭生活を営む」という目的に向かつて収れんされなくてはならない。研究面から見ると無理難題とも思える家庭科の各分野が、それでもひとつに統合される意味はそこにある。家庭科教員は、自分の専門性を伸ばしながら、他の分野も研究して広い視野を身につけることが望ましいということになる。

2、専門性の阻害要因

しかし実際はどうだろうか。本校のような教科担当体制の

もとでは、家庭科教員の専門性は無視されるだけでなく阻害さえされている。阻害の要因は一言でいえば家庭科教員の仕事のあまりの忙しさ、過重負担である。

(1) 多岐の分野を一人で担当すること

本校では初めに掲げた五分野を、一人の教員が全てカバーする。これら各分野の研究対象がバラバラであることはすでに述べた。これら全分野を一人で研究しようとすれば、「広く浅く」にならざるを得ない。もちろん、家庭科教員が各自の専攻に閉じこもらず他分野の研究をも深めることは大切である。しかしそれには限度と制約がある。現状は、地理の教員に世界史も経済も、化学の教員に生物も物理も同等に研究せよと要求するのに等しい。家庭一般は単位数こそわずかに四単位であるが、単位数が少ないから教材研究が浅くてよいわけではない。「十を知って一を教える」という言葉がもしハツタリでないとすれば、家庭科教員は、体がいくつあっても足りない。現状は「一を知って一を教える」のが手一杯である。せめて、専攻の異なる二人の教員が五分野を分担すれば、現状は余程改善すると思う。

(2) 実習授業に伴う負担

学習指導要領には「家庭科はその授業時間数の十分の五を実験実習にあてる」としている。それに依るまでもなく、家庭科は実験・実習が重要な部分を占める教科である。そこに

は講義のみの授業にはない負担が伴う。

家庭一般に限って見ても、例えば一年生ではエプロン製作実習を行う。そのための教師はまず見本作品を数体製作する。次に型紙を製図して印刷する。製作手順に従って必要な図解のうち、黒板ではわかりにくい細かいものはプリントを作ったり、模造紙に書いたりする。場合によっては部分縫いの見本を製作する。また毎回の授業で生徒が用意するべき材料・用具は製作の進行に従って変わるので、授業毎に次回用意する物を告げる。被服室とその設備・備品の管理をし、生徒の使用に供する。場合によっては授業後の後片づけをする。

作品の評価やチェックも大きな負担である。完成作品の評価は当然の事だが、本校では製作中数回の途中提出を課して進行状態をチェックしている。時期によっては週一度の割合で提出させることもある。一年生の女子は一八〇名だから、一人のチェックに一分としても全体で一八〇分を要する。

このような手間ひまは事情を知らない人にはムダと映るだろう。しかし本校で一昨年、新入生を対象にアンケート調査を行ったところ、中学時代、被服の実習課題であるスモック、パジャマ、スカート等をいずれも約二〇%の生徒が未完成のまま済ませて来てしまっていた。高校でも、いつになっても布さえ用意しない者もいるのである。そのような現状だ

から、生徒とケンカ腰にならずに、製作を進めさせる手段として途中提出を実施しており、それなりの効果は上がっていると思う。被服製作ひとつにこれだけの負担が伴うのである。

二年生では調理実習を行う。H Rで調理実習を指導した経験のある先生方の中には、「座っていれば実習は皆生徒がやる。これは楽だ」と思われた人があるかもしれない。生徒に好きな物を好きなだけ作らせるのならその通りである。教科の学習となると毎回そういうわけにはいかない。材料をそろえなくてはならない。いやその前に材料費を徴収しなければならぬ。家庭一般については、私が着任して以来、学年雑費から一括して徴収している。これはどうしても必要な事だと思う。三年生選択の食物では一昨年と昨年は一人五〇〇円の実習費を教員が個々に徴収したのだが、いつまでも払わずにそのまま退学してしまう者もあり、何か月も未払いのあげく催促すると「エーッ、あたし払ったよ」と言い出す者あり、で完全徴収は全く困難であった。この上、家庭一般の女子一八〇名の集金をやったのでは、それだけで家庭科教員の仕事はパンクするだろう。徴収した材料費を管理し、実習毎に材料の注文と支払いをする。

実習の前には材料の配分、ふきんの準備。実習中は遅れた材料の配分、当番の割当て、個別の技術指導、実習後は片付

け指導、当番への指示、最終的な片付け。二時間の調理実習のために直接的なだけでも大体その前一時間、その後一時間の準備・片付け時間を要する。

それでも、最近は生徒の実習態度も落ち着き、当番（ゴミ捨て班とふきん洗い班）の仕事もスムーズにやれるようになった。〔以前は、「食べればそれだけでいい」といった態度の者があり、準備中であるのに材料と見るやわしづかみに持ち去ったり、他班の材料を自班の引き出しに隠していたり、食器を洗わぬまま棚にもどしたり、当番をサボツたりで、それらの生徒に対応するのに実習毎が「戦場」だった時期もあった。学校全体が落ち着くに從つて、このような体力的・心理的負担が軽減されたのはありがたい。しかし現状でもなお、調理実習に要する時間的・実務的負担は相当なものである。

(3) 設備・備品・消耗品の管理

家庭科には家庭経営・被服・調理の三つの特別教室と被服・調理の二つの準備室がある。現状では、一人の家庭科教員がこの五室の管理責任者となっており、それだけでも他教科には例がない。管理の煩雑さは室数の多さからだけでも明らかであるが、中でも調理室は他教科も含めて特別教室中でも最も管理の困難な部屋ではないかと思う。調理室内の設備備品類はざっと数えただけでも以下の通りである。

実習用調理台八台、示範台一台、台所ユニット一セット、

流し台二か所、これらに伴うガスこんろ二九口、据付天火九台、水用蛇口一六口、お湯用蛇口一三口、大型湯沸器二台、試食台七台、換気扇六か所、冷蔵庫一台（以上設備関係）。

まな板、蒸し器、炊飯器、菜切りほうちよう、牛刀、ざる、文化鍋、やかん、フライパン、中華鍋、他に鍋五種、ボール三種、玉じゃくし、穴じゃくし、フライ返し、泡立て器、しゃもじ、ゴムべら、はけ、栓ぬき、計量カップ二種、計量スプーン二種、おろし金、天板、天板つかみ、カン切り、たわし、スポンジ、洗剤、生ゴミ用三角コーナー、洗いおけ、台ふきん、ふきん（以上調理器具、数は大体各台一個）。

茶わん蒸し用うつわ、和皿三種、湯のみ、小鉢、飯わん、汁わん、ふた付どんぶり、はし、グラタン皿、洋皿三種、コーヒーカップと受け皿、ティーカップと受け皿、ガラスのコップ、スプーン大中小、フォーク大小、ナイフ（以上食器類、数は大体一クラス人数分）。その他に紙用・生ゴミ用二種類のゴミ箱、調理室用スリッパ等がある。

このように八〇種にも及び、しかも食器のように一種の個類が何十個もあるものやガス・刃物のように危険を伴うものを含む設備・備品の管理はそれだけでも相当の負担と言える。しかも生徒の現状は、ともすれば器具や食器の洗浄をきちんとしていない者もいる状態である。調理室はその使用の性

質上、部屋自体も設備・備品も非常に汚れやすい。

三年前私が本校に着任した時、驚いたのはその汚れの凄じさだった。春休み中の無管理状態の結果か、床には黒い汚れがこびりつき、ステンレスのくすんだ調理台の上には調理器具が散乱、二つあるゴミ箱はいずれも生ゴミの残りにカビが繁殖し異臭を放っていた。このような状態から回復するのに長い時間をかけた。とても満足とは言えないが、最初の状態よりはだいぶ良くなった。しかし少しでも放っておけばすぐもとの状態にもどってしまうだろう。そうさせないために以下のような管理・清掃を行っている。

①調理実習後には各班ごとに教員がチェックし、ガスの元栓とともに片づけの状態を点検する。汚いところは洗い直してから教室に帰る

②調理実習時には片づけ当番及びふきん当番を一班ずつ指定する。片づけ当番は主にゴミ捨てと簡単なそうじ、ふきん当番は各班のふきん・台ふきを集めてせっけんで洗たくする

③床の汚れを防ぐため、調理室用スリッパにはきかえる

④清掃当番は、大そうじの際に床をデッキブラシと洗剤でみがき、モップでふきとる

⑤調理室用スリッパは大そうじの際に清掃当番が専用タワシと洗剤で洗う

⑥年度末には家庭科または食物の時間に生徒が調理室の美化活動を行う。内容は調理台みがき、床みがき、調理台の上、下の整理など

⑦必修家庭科クラブでは、調理実習と調理室の美化活動を交互に行う。美化活動の内容は、窓のさん拭きや食器・器具の整理など、ふだん全員ではやりにくい部分

家庭科の他の実習室の管理についての詳細は省略するが、上述した調理室に加えて二つの実習教室を一人で抱えた状態を推察してもらいたい。

(4) 予算執行に伴う負担

家庭科では教科予算として五九年度で三万七千三百八十円があてられている。このうち一八〇〇円をのぞく三万二千二百〇円が県費から支払われる実験・実習費である。県費の支払いは銀行振込で行われるため、購入にあたっては納品書・請求書・金額一万円以上の場合には見積書が必要であり、それらすべてに購入店の代表者印が必要である。そして振込先銀行口座を指定してもらわねばならない。このような手続きは以下のような理由で重荷になっている。

①家庭科の購入品目は多種で細かい物が多いこと、五九年度では、1 調味料等 2 調理室管理必要品 3 調理器具・食器類 4 教材用具本材料 5 文房具 6 視聴覚関係教材・教具の六種類、合計約三三品目である。単価一〇〇円～二〇〇

円の調味料やたわしなども含まれ、保管上一度に多量に買えず何度にも分けて購入しなければならない物もある

②購入先の店が事情に通じたところだけなら良いが、家庭科では、多岐の品物も必要のため、請求書をなかなか持つて来てくれない店もある。ある店は品揃えが少ないため不足の物をわざわざ他店から買って来てくれるのでこちらも氣を使う。見本製作用の布や糸を買おうにも地元には店がない。調理用魚焼き網をどこで買うか、箸をどこで買うか、パニラエッセンスをどこで買うか、これらをいちいち考え、店に問い合わせ、ある時は地元の生徒に尋ねなければならない

③このような雑務を、毎年一人で全て受け持たなくてはならない。家庭科教員が二人またはそれ以上いればこのような仕事も分担でき、どんなにかやりやすいのと思う

(5) 毎年教科主任であること

教科担当が一人であれば当然、毎年教科主任である。主任会や教育課程審議会にも常に出なければならないのはもちろんだが、それ以上に問題なのは自分のやり方が即ちその学校の家庭科のあり方になってしまふことである。もちろん非常勤講師と相談協力の上仕事をすることが、非常に性格上立場は自ずと異なる。自分の思い通りで良いようでもあるが、小なりと言えども一教科を常に一人で背負うことの負担感は相当なものである。産休で代理の先生と交替したり、転勤で

後任者に引き継ぐ時のことを思うと、他教科のように数人の体制のうちの一人である立場との違いは大きい。負担の大きさだけでなく、教科内容について意見の交換等ができないため、授業の工夫に限界があったり、内容が偏ったりしやすいという弊害もある。

(6) その他家庭科教員に期待される諸事雑用

ちょうど主婦が家庭で雑用を引き受けているように、家庭科教員は学校における雑用を期待されている。

ひとつは、いわゆる女子向けの趣味的雑誌の扱いである。これは前任者から引き継いだため、私も二年間扱ったが、あまりに負担に思えたので、購読者が少なかった昨年を機会にやめた。近隣の他校ではやはり家庭科教員がこれらを扱って集金に苦勞し、時には身銭を切って不足代金を補っていると聞いた。家庭科教員が数名いて余裕のある女子校などならいざ知らず、そうでなくてもキリキリ舞いの多くの共学普通高校では、このような雑誌の扱いは割に合わない負担である。

校務分掌においては生活指導部庶務係が、家庭科教員に期待されがちなポストである。制服のボタンやバッチなどを扱うので家庭科と関係があるように思われがちなのか、着任以来三年間この係を受け持っている。神奈川県で家庭科教員をしている友人も同じ係と聞いて驚いたことがある。

生活指導関係では、以前女子の長すぎるスカートを直させ

る指導を依頼され、いやがる十数人の女子を指導するのに何時間もかかってたくなったことがある。家庭科教員はスカートを直す技術には関係があっても、直す気にさせ、直すせるところまで責任を持つのはおかしい。

今は業務主事がしているが、着任したての頃、体育館ステージの幕の破れの補修を頼まれたこともある。そのような仕事を引き受けるのが、家庭科教員の当然の仕事と思われたならやりきれない。

以上のような諸事雑用は、整理されるべきものである。

以上の(1)～(6)を総合して、以下の二点が結論づけられる。

① 共学普通高校で、家庭科教員専任一人の場合、その仕事量は過重である

② その仕事量の過重と内容が広範にすぎするため、家庭科教員の専門性は阻害されている

3、専門性の阻害を取り除くために

ではこのような阻害要因を取り除くには以下の二点になると思う。

① 実習授業に伴う負担を考慮して、家庭科教員一人の授業持ち時間数を週十二時間程度に減らす

② 設備管理、教科運営上の負担を考慮して、一校に最低二人の専任教員を配置する

右のような要求は、私にとっては切実なものだが、現在の

ところ県下の家庭科教員の間では表面に出ていない。同じ条件下で苦しい教科運営を続けている人は多いはずなのに、これはどういうことだろうか。最大の理由は、家庭科教員の「がまん強さ」である。

高校の家庭科教員は現在のところすべて女性であり、しかも大学で家政学の教育を受けてきた人たちである。この人たちの中には、年代の差はあれ、愛情・勤労・奉仕といったいわゆる良妻賢母的価値観が、他教科の教員に比べて強く根づいているのではないだろうか。彼女らは自分の仕事が過重であっても、それを不満に思ったり不当と感じたりしないで、むしろ自分の努力や工夫が足りないのだと納得して、自己にのみ鞭打って働いているのではないだろうか。

私の知る限りでもこのような献身的な働き方をする人がいる。例えばある非常勤講師は、調理実習で使ったふきんを自宅に持ち帰って洗たくしている。また近隣のある学校の専任教員は、被服実習が遅れている生徒を指名して放課後残して指導したり、休日にも出勤して見本を製作している。他のある教員は被服実習を放課後残ってやった生徒に、自分のポケットマネーで菓子を与えている。

ほとんどの家庭科教員は、大なり小なり仕事の無理を個人的に引き受けてカバーしている。このような献身・努力には大いに敬意が払われるべきだが、しかしこれには限界があ

る。学校では雑事に追われて教材研究の時間もとれない。そこで自分の休息や余暇の時間をも割くことになる。あるいは「一を知って一を教える」式の授業になる。多くの家庭科教員はこんな状態におかれて、しかもこんな状態についてむしろ自分を責めているのではないだろうか。

個人的な努力や工夫だけでは事態は進展しない。私たち家庭科教員の仕事は、現にどう考えても不当に過重なのだ。あえて言うが、家庭科教員はもうがまんをやめるべきだと思

う。過重な仕事に苦しみながら耐えているよりも、負担を軽減させてその分専門性を伸ばし、発揮する方が、教員自身のためにも、生徒のためにも、余程プラスになるのではないか。このような問題を、他校の家庭科教員にも、ともに考えてもらいたいし、校内の他教科の先生がたにも、ぜひ一緒に考え、理解してもらいたい。多くの家庭科教員の苦勞を、単なる不平不満か、仲間うちの愚痴として閉じ込めてしまうことはもう終わりにしたいものである。

ひと 「詩」の 羽生 槇子さん



東横線の日吉駅を降りてバスで10分。横浜市に住んでいらっしやる。白いブラウスに白いセーターをふんわり着こんだ、ほっそりした方。バス停から自宅までの道のり、「ここだけしかないんですよ」と、土の道を案内して下さった。

第一作目の詩集を出されたのは72年。

子供が子供だった記念に本をつくってあげたいと思って、小五、六年の頃。そう思ってた世の中をみてみると、高度経済成長の中、自

然破壊がすさまじい。だから一作目は、私にとつての自然とは「野と花の日々」になった。二作目が子供たちへの詩集「花と子どもたち」。

本を作るには表紙がいる。羽生さんは、新開で井上公三氏の作品展を知って、直接画廊に出かけていった。もちろん初対面の方。自分の詩を持って。それ以後、井上氏が表紙を描き、詩集の中には、いつも氏のシルクスクリーンがはさま込まれている。ステキだ。

詩を書きたいと思ったのは「母が亡くなった時、やさしい母だったからほんとに悲しかった、19歳の時。戦争でたくさんの方が死んだ。住んでいた今治市も戦災にあった。でも一年間どうやったら生きていけるのかわからなかった。とにかく泣いていた」

「詩を書いていたら生きられるかもしれない」と思った。

今治市の織田が浜が、市の港湾計画で埋め立てられようとされている。羽生さんはそれに反対し、織田が浜を守る会に参加している。なつかしいから守ろうとしているのではない。私にとつての一番大切なところ、私は浜に育ててもらった。浜に恩返しをしなければならぬ。一人一人がどうしても大切だと思うことは述べてもいいのではないかと。

静かにゆっくりと、時として沈黙をも言葉にしてしまう方だけど、織田が浜のこと、自然破壊のことを語る時、その力強い声、姿勢に驚く。

ああ、これがほんとうのやさしさなんだなあ、とつくづく思った。

(馬場)

変わりゆく性意識と性行動 (2)

性規範における女性差別は消滅してきているか

女と男の関係を考える会

はじめに

かつての日本では、近世の、特に武家社会において、儒教思想の影響を強く受け、「男女七歳にして席を同じうせず」という男女隔離の考え方が一般的に支持されてきた。多くの場合、婚前の性関係はもちろんのこと、男女の精神的な交流さえもきわめて不道徳なことでされた。そして、結婚して「妻」となる女性に対しては結婚まで「処女」であることが、さらに、結婚後は「貞操」を守ることが厳しく要求された。ところが、男性に対しては、「家」秩序を乱さない範囲で寛大に扱われ、遊廓が社会制度として存在し、妻以外に「妾」をもつことも社会的に公認されていた。第二次大戦後まで、こうした女性に厳しく、男性には寛大な「二重基準 double standard」という女性差別の性規範が

当然のこととして人々に受け入れられてきた。ここでは、この規範のことを「伝統的二重基準」と呼ぶことにする。

戦後、憲法で男女平等が唱えられ、妻のみに課せられていた「姦通罪」が消滅し、民法において夫にも「貞操の義務」が明記されるようになり、法律の上では男女平等の性規範が確立された。では、実際の人々の性意識において、こうした女性差別の伝統的二重基準は払拭されたであろうか。今月は善積が一九七一年と一九八一年の二回にわたって阪神地区の大学生を対象に行なった性意識調査(註)を参考にして、歴史的転換期の後に生まれ育った若者の性規範がどのように変化してきているか、特に伝統的二重基準が消滅してきているかどうかに関心をあてて調べてみよう。

調査概要

善積の調査では、婚前の性規範を①結婚や婚約という条件によって、認められる性行動の範囲がどのように変化するか、②性的関係をもつ時に相手に対して精神的つながりをどれほど重視するか、という二つの位相から捉えている。

調査の各々の設問において、「女の場合」と「男の場合」を区別して質問し(たとえば「婚約している場合、キスしてもよい」という質問で、女がキスする場合と男がキスする場合のそれぞれについて「はい」「いいえ」「わからない」の三つの選択肢を設けた)、そこから、女性スケール——女性に

図2 婚約の有無別、性交許容パターン

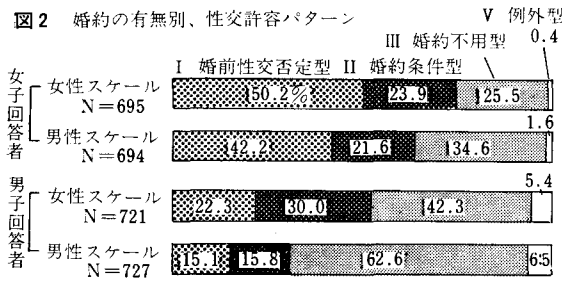
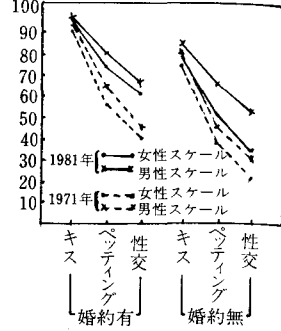


図1 婚約の有無別、性行動への支持率 年代・スケール別 (%)



相手が婚約者である場合とそうでない場合では、性行動の許容度に変化がみられるであろうか。図1をみると、「キス」については「婚約していない」時でも、八割以上が認めており、「キス」は婚約の有無にかかわらず多くの若者が認める性表現となっている。では「ペッティング」「性交」はどうか。一〇年前と比較すると、許容的になってはいるが「ペッテ

婚約が性交へのパスポートか

向けられる性的許容度の標準と、男性スケール男性に向けられている性的許容度の標準を導いた。

これまで婚約という条件によって性行動の許容度がどれほど変化するかをみてきたが、今度は相手に対する精神的関わるの程度によってそれがどう変わるかを調べてみよう。

図3のように、女性スケールの方がつねに男性スケールに比べて支持率は低い、それでも相手を「深く愛している」時には、七〇%以上の者が「性交」を認めている。そして、「好感をもつ」や「恋愛・好感などの感情をもたない」場合

愛があれば許される

婚約の有無についての回答者の反応を四つに類型化し、これを回答者の性別によって表したのが図2である。女子回答者では、「婚前性交否定型」が半数ほどで多く、男子回答者では、「婚約不要型」が最も多くなっている。男子回答者の方が、女子回答者に比べて、全般的に許容的ではあるが、男女それぞれのスケールによる値の差は大きく、伝統的二重基準を多くもっていることが示されている。

「性交」から「性交」へと性表現が進むにつれて、許容度は低下し、特に婚約していない場合、女性スケールでは著しく低下している。このように婚約の有無にかかわらず、婚前性交を認める人が、男性の場合は過半数にのぼっているが、女性では三割ほどであり、婚約していることが「性交のパスポート」ととえられる傾向が、女性に対してより強くみられる。

図4 愛情の程度別、性交許容パターン

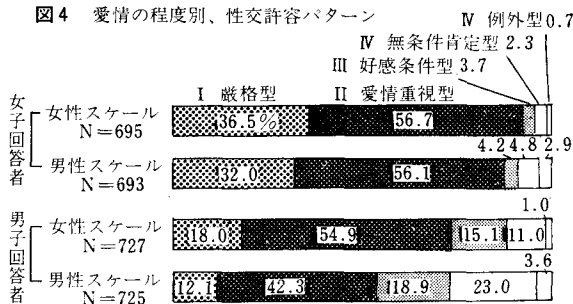
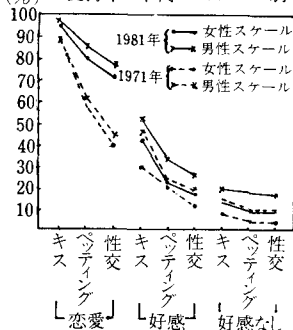


図3 愛情の程度別、性行動への支持率 年代・スケール別



全般的に許容的になって
いるが、特に「恋愛」の
時の「性交」や「ペッテ
ィング」の支持率に大き
な増加がみられる。これ
は「お互いに愛し合っ
ていれば性関係をもつ
てもよい」と考える若
者たち

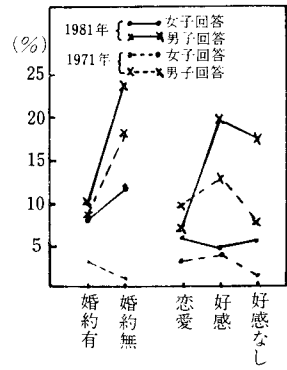
には、いずれのスケール
でも、その支持率は激減
している。相手に対し
て、愛をいだいていれ
ば「キス」だけでなく「性
交」までも許される。と
ころが、相手に「好感」
をもっていないならば
「キス」さえも許されな
い。すなわち、なにより
も愛情の深度が婚前性行
動の許容度の「きめ手」
となっている。

伝統的二重規準の増加

以上みてきたように、一〇年前に比べて、婚前の性規範は許容的な方向へと確実に進んできている。ところで、伝統的二重規準は消滅の道をたどっているのであろうか。同一回答者における女性スケールと男性スケールとのずれから「伝統的二重規準型」を導き、一〇年前の調査と比較したものが図5である。つまり、同一条件の質問項目において男子の場合は「はい」と回答しながら、女子の場合には「いいえ」「わからない」と答えた人の割合を示したものである。

が増えてきていることを示唆している。
図4は、同一回答者の反応の仕方によって、五つの愛情別性交許容パターンに分類したものである。回答者の性別による違いをみると、女子では「愛情重視型」(相手に深い愛情をいだいている時のみ性交を認める)の次に、「厳格型」(相手に深い愛情をいだいていない時でも性交を認めない)が多く、「好感条件型」(相手に好感をいだいていなければ性交を認めない)や「無条件肯定型」(相手に対して好感がなくても性交を認める)はきわめて少なく、男女のスケール差も少ない。一方、男子回答者では「好感条件型」や「無条件肯定型」が男子スケールでは四〇%以上も占めている。このように、女子の方が性交時に愛情を重視する傾向があり、男子の方が男女スケールによる差が大きく、伝統的二重規準が多い。

図5 「伝統的二重規準型」の割合
(性交の場合)



「伝統的二重規準型」の割合は、一〇年前に比べると、少しも減少せず、むしろ増加している。とりわけ、男子において「婚姻なし」「好感」「好感なし」では増

加している。性に対して全般的に許容的になってはいるが、女性に対してよりも男性に対して、より許容的であり、そのために現象的には「伝統的二重規準型」の増加が起きている。伝統的二重規準の規範を積極的に支える法律が消滅した現在でも、なぜ「伝統的二重規準型」が今なお存在し、しかもその割合が一〇年前に比べて増加しているのであるのか。

ここで、男子大学生が書いた文章を紹介しよう。これは、「もし、あなたが結婚したいと思っている女性が処女でないとわかった場合、あなたはどうしますか」の質問に答えたものである。

「かなりのショックを受けるだろうが、自分も含めて、世の中にはできることならたくさんの女の子と関係したいと思っている男がたくさんいるし、それなのに処女と結婚したいというのは虫が良すぎると反省するが、心のどこかで、こだわ

りつづけたりしてしまうのでは？」

「本当に好きな男と愛のあるセックスをして処女でないというのなら、こだわらない。遊びでセックスした経験のある女性とは結婚したくない」

現代は性に対する罪悪視はうすれ、たとえ結婚していなくても関係をもってもよいという規範は広まってきている。男子は、相手に愛情・好感がなくてもセックスをエンジョイしてもよいという意識をもつ一方で、恋人や婚約者を性的に独占したいという気持をもっている。また、セックスの場面で女性をリードすることを望み、女性自身が主体的にセックスを楽しむことに恐怖を感じる人も少なからずいる。それが「女性は恋人や婚約者と性関係をもってもよいが、それ以外の男性との遊びでのセックスは認めることはできない」という意見につながっているのではないだろうか。

女子の場合はどうか。女性の結婚志向は依然として強く、多くの女性はすばらしい夫をいかに獲得するかが重要な関心事になっている。結婚に結びつくような婚約者や恋人の間でのセックスは認めても、結婚できる望みの薄い男性と気軽にセックスすることは、「女」としての「商品価値」を下げ、損だという「合理的判断」が働いているのではないだろうか。

* * *

性規範における伝統的二重規準は女性差別の一現象であ

り、これを払拭していかなければならないのは、言うまでもないことであるが、次に、どのようなたちで二重規準を消滅させていくかが問われてくる。少なくとも、性関係における愛情の軽視、性の商品化の方向での「単一規準」化は性の歪み、性からの疎外状況を女にまで拡げていくだけであり、「人間の解放」につながる「性の解放」とはほど遠いものである。

(大手前女子短期大学 善積京子)

註1 詳しくは拙論、「性規範にみる女性差別——若者の

意識調査を中心として」『女性学年報第四号』、日本女性学研究会、一九八三年を参照のこと。

よせがき

We 愛知の会 その1

◆二・三月号のWe、発言欄では、鈴木頼恭さん、矢口峰子さんの文が印象的。私自身は、大学のとき男女混合ABC順だったのに、男女別アイウエオ順に順応して生きている！（山田和枝）

◆Weをとっていても、表紙だけ見て次の号ということもあるのですが、教材で深く知りたい時、関連のある記事を探して読んだりします。今「家庭経営」の授業で、住居をとりまく環境条件をやっていますが、空（大気汚染）の色、空気のおいしさ、水の質など問題にして話しています。授業の質を根本からひきあげていく役割を果たしてくれるのがWeと思って愛しております。

(稲守佐世子)

◆『すみだ川気まま絵図』を読もうと本屋さんへ注文しました。森さんの「情けないけれども同じこの田辺高校で三年前に出来

たことが、すでにそのままだは出来ない。1×6が8にも10にもなるという、協力共同の楽しさや、大切さを学ぶどころか、それが4や3になってしまいうこのこわさを持った」という箇所に、思わず目をひきつけられました。まさにそうなんですヨネ。今年のWe公開ゼミナールの「育つ・育ちあい」、これを重視していかないといけない情況にきていると思います。いいテーマですね。都合をつけて出席したいと思っています。波―「疲労と縁を切ろう。多摩川を訪ねよう。多摩川を訪なうことで、きっと私は元気になる。こう思って私は床を離れた」。以前、名古屋に内村章一郎さんが来られた時、おっしゃってみえた半田さんの感性のすばらしさは、このような部分をさしているのでしょう。

(宮崎世津子)

CMの中の女と男

男のやさしさ、まだ ほんのわずかだが

CMの中の男女役割が少しずつ変化を見せはじめています。これはあきらかに四月施行の雇用均等法を意識していることと思われる。

マキシムレギュラーコーヒーのCMに、夫が妻のためにコーヒーを入れるのがある。新聞を

読んでいる夫が、窓拭きをしている妻に「コーヒーを入れようか」と言うのだが、夫（岩城滉一）のやさしそうな感じと、妻（永島映子）のうれしそうな表情が印象的で、とても仲のいいカップルぶりがうかがわれる。

私達がやっているCMアシケートにも「妻だけに働かせて、というすまな

さからか、妻に対するやさしみやいたわりが

さりげなく出ている」「男の人のやさしさがよく出ている」など、概して好意的な意見が寄せられた。

ところが、このCMには長いものと短かいものがあり、長いほうのCMには妻の「あら、ちゃんと入れたのね」という台詞が入り、さらには画面に「めずらしい」という文字さえ映し出されている。

これでは、普段はコーヒーも妻が入れていて、夫はほんの気まぐれに思いついた時だけ、というこの夫婦の日常が容易に推察される。この程度の「やさしさ」にホロリとくるほどに日本の男は「家の中」では何もしていない、というのが現実なのかもしれないが、ともかくCMは変化しはじめています。ここしばらくはこのような試行錯誤が続けられるであろうが、流れが元にもどらないよう見守っていかなければならない。（吉田清彦）

いろんな十代人

〈野球部入るの やめた〉

新しい高一坊やが「オレ野球部入るのやめるんだ」と言いに来た。わけを聞くと「絶対坊主頭じゃないとダメなんだって。高校生になったら髪の毛のばせるところで楽しみにしてたのに」と言う。

この高一坊は頭に小さいハゲ男があつて中学の時は野球部で帽子を脱ぐのが恥ずかしくてモタモタしていてレギュラーになれなかったのね。小さいハゲ男が彼にはものすごくプレッシャーになってたってわけ。でも野球部するのが大好き少年だから高校に行ってもやりたかった。彼の高校は野球の弱い学校だから「まさか坊主頭！」なんて考えなかったんだろね。だけどなんで日本中の高校

野球の少年たちはみんな坊主頭なんだろ？ どうして髪の毛が少しでも長いといけないんだ？ 高一坊というの考えてみたけど「精神論」しか出て来なくてさ。結局「どっちだっていいじゃんね？」という所に落ちついたわけ。けどさ、校則の中にある「ナントカの乱れは心の乱れ」とかいいうのとびつたしだと思わない？ それのエスカレートしたのが野球部という気がしてならないのよね。大人は本気で高校野球は坊主頭でなければイカン！ と思っただろか？ 社会通念でそう考えてるんだろか？ みけ子さんにはナントモ理解出来ないことなのね。ライオンみたいなヘアスタイルの少年が野球やると余程不都合なことが「学校側」にあるのかね。見目かたちなんてどうだっていいじゃないね。高校野球に限らず私たちもさ。

（鈴木みち子）

教育のなかの 心理学



小沢牧子

体罰をめぐって (2)

問答無用の即効性

大学生たちの綴る体罰論、体罰体験報告は、実にさまざまである。前号に紹介したように、「自分のような頭の悪い者は、叩かれなければわからないのだから」体罰は賛成だ、と書いている者がある。叩かれ続けたことによって作られた悲しい思想を、私はそこに見てしまう。また、「殴られたことをいつまでも腹を立てて恨んでいるような生徒は、伸びないんですよ」という教師の言葉を、憤りをもって思い起こす者もいる。それらの体験記を読んで印象的なのは、どれもがすでにかなりの年月を経ているにもかかわらず、実に生き

生きと描かれていることである。その情景が読み手の側に映像のように浮かぶほどのリアルな伝達力を、それらの記述は持っている。身体への痛みという激しいコミュニケーションの形は、鮮やかに記憶のなかに残るものであるからにちがいない。

「小学校四年生のとき、担任の女の先生が、前の席の女の子の背中にえんぴつで落書きをしただろうと言ったので、やっていないとありのままを答えたところ、いきなりビンタをされた。そのすぐ後に、なぜか今もってわからないのだが、思わず「ごめんなさい」と言ってしまったことだけは、妙に生々しく記憶している。……」これは、不当に叩かれた事実と、それに対する自分の思いがけない反応を心のどこかでかかえ続けた男子学生の一文から。

「小学校六年生のとき、クラス全体が何かのことで先生に「反省しなさい」といわれ、皆が目をつむって静かにしていたとき、一人の男の子が「クス」と笑ってしまった。その時に先生がとても怒ってその子を立たせ、五、六回足で蹴ったのである。そのときの先生の行動はふだんの先生の様子とまるで違って感情的にみえ、その時の私には、先生がただ小さな男の子に暴力をふるっている大人というふうに見えた。その時にそう感じたのは、私だけではなかったと思う。そういうイメージというのは強烈、絶大で、今でもはつきりと私

の頭の中に残っている。……」これは友達への恐怖を自分のこととして恐怖した子どもの心を綴った女子学生の回想である。

子どもは力が弱く、大人の力には確実になわれない。だから大人の怒りに対して身の危険を感じ、体罰には完全に屈服する。それゆえに子どもへの体罰は、決定的効果をもつのである。心当たりのないビンタに対しても、瞬時に「ごめんなさい」と言わせてしまう問答無用の力がある。大人にとつて、体罰への誘惑はそこにあるだろう。即効性・絶対性・手つとり早さ。だからこそ使つてはならないのだとする学生たちの主張は多い。

対話としての体罰

しかし、体罰論議は決して単純なものではない。身体から身体へのメッセージの問題は、連想的にその質が変化してゆく複雑な様相をもっているからである。叩かれた記憶を決して否定的にとらえておらず、ふしぎな体験として思い起こしているひとつのレポートを紹介しよう。この書き手は、障害をもっているために車椅子を使用している女子学生である。

「父にぶたれた記憶が、ひとつだけはつきり残っている。私がまだ歩けた中学生の頃、日曜日にはほぼいつも父と一緒に学校へ行った。学校がすぐ近くだったし、私は体を動かすことや、階段の上り下りの練習をすることが必要だったからである。歩くことと階段の登りはゆっくりやればできたが、階

段の降下が問題であつた。調子がいい時はすらすらと降りられたが、一度こわいと思うと、もう降りられないのだ。その時も、やはりこわくて一歩がふみだせないでいた。『ころびそうになったらすぐつかんでやるから、思い切つて降りろ』と、私のすぐ前に父は立つて言つた。私も信頼しなかつたわけではなかつたが、やはりこわくて足は出ない。『大丈夫だから勇気をだしてこい』と父は何度も何度も言つたが、私は降りられなくてその場に立つたままだつた。そのうち父は、がまんできなくなつたからだと思ふが、『この足をだせばいいんだ!』とどなると同時に、私の足をピシッと、相当痛くぶつたのだつた。私は悲しくて痛くて泣いたが、ぶたれたことによつて、思いきつて降りることができた。口で、言葉でいくら言われてもできなかったが、ぶたれたことによつて思い切る勇氣がもてたのだつた。父もイライラして手を出したのかも知れないが、その時の私にはぶたれることが必要だつた。『呼吸』が合つたのだ。これを私は『体罰』とはよびたくないし、そう思つてもいいない。このような体による言葉を、どう考えたらよいのだろうか……」

体罰論の複雑さ、むずかしさをこのエピソードは示唆している。その奥行きを次回にまた、辿り続けることにしたい。

教室の窓



植垣一彦

〈12〉笑いが窓に弾ける

三学期さいごの授業参観は、とっておき(?)の、コトワザの授業でしめくくることにした。

クラス替えもあるし文字通り最後というわけで、御夫婦でみえてたり、おばあちゃんの顔もあったり……。そんな熱気に押されたか、私の方が、柄にもなく緊張して、ぎこちない。

こんなとき、救ってくれるのは、いつも子どもたちだ。見るに見かねて川越君が、「先生、キンチョーしないで

よ。ほくたちまでヘンになっちゃうよ」と思いやつてくれた。「そうだよ、いつもの調子でやろう」と富岡君。後ろのお母さんたちから、クスクス笑いがもれて、教室中の緊張がいつきょにほぐれた。

まず、いつもは朝の時間にやっている「一日一諺」の授業を観てもらった。そして、本番の「型はめ創作コトワザ」づくりの授業。「ほらとらっぱは大きくふけ」の型にはめて、コトワザを創作することにした。「ほら」と「らっぱ」の、「ふく」という共通性と、組み合わせの意外性。しかも「大きくふけ」という、その内意。さらに、文脈上の軸は「ほらは大きくふけ」であって、「らっぱ」はいわばおまけ。とはいえ、このおまけとしての遊びがあることで、なるほど巧いこと言うもんだ」と、全体が合点できる。

この辺りの入り組んだからくりを、四年生がどこまで見抜けるか、ちょっ

ぱり不安だった。しかし、案ずるより産むが易し。あれこれ話し合い、読み込んでいくうちに、「できたよ!」と、古川真平君が名乗り出てくれた。

〈花と愛はかれやすい〉

期せずして、お母さんたちと子どもたちの間から「オオーツ」というざわめき。真平君曰く「だから愛はからさないように」。心やさしい真平君らしさが、反語的に、うまく結実している。

二番手は小山大輔君。〈夢とかれ葉は散っていく〉つぎに、増野恵さん。

〈うわさと金魚にはおひれがつきもの〉こうして、新作コトワザが、つぎつぎに誕生していった。カッコ内はその子のコメント。

・人生と食べ物には投げない方がいい(人間ががんばって生きていこう。田代健太郎)・心とこまはくるくるまわる(心というの、はらのたつときもやさしいときもある。八木久予)・友情とお肉は厚い方がよい(人間は一人ぐらいは

いい友だちがいるから、その人とお肉のような厚い友情をもて。富岡良介・おせじと水虫はかゆい(おせじはきもちわるい。高德勝彦)・子どもの成長と時間はとめられぬ(子どもは、どんな成長していく。今村昌平)・青春とた

きびはもえつかせろ(青春はせいっぱいもえつかせろ!川越修一)・へやとコトワザはいっぱいあった方がいい(そのほうがたのしい。疋田学)・人生とファミコンの時間は長い方がいい(ファミコンやめなさい!といわれるけど、もっとやりたいな。早川清美)・恋人と毛糸のパンツはあったかい方がいい(恋人ってあったかいんだろうな。梅本八重子)・自分の意見となわはしつかりと持て(自分の考えは、なわと同じようにしっかり持ちなさい。飯島夢生)

と、ここまできて——「さーてお母さんたち!後ろで、ただ感心して観てるだけじゃつまらないでしょ?」と水

を向けると、慌てて人の陰に隠れるお母さんも……。『逃げちゃダメよ』などと、なごやかな笑いが窓に弾ける。てなわけで、お母さんたちにも作ってもらった。まずは、梅本さんのお母さん。

〈情けと給料袋は厚い方がいい〉

「うまいなあ」「やつぱりお母さんっですごいね」とばかり、拍手かっさい。

・心と海は青く広く(古川さん)・砂山と夢はくずれやすい(河合さん)・子どもの心と雪は汚れがない(栗林さん)・友情とストッキングは強い方がいい(平川さん)・いじめと猛獣は残酷(服部さん)

これらのお母さんたちの作品も板書して、みんなでワイワイ批評し合った。「青く広く」という表現がとてもすてき。「友情」と「ストッキング」を並べたところがおもしろい。そして、服部さんのおばあちゃんの「いじめは残酷」の作品は、クラスでそれ乗

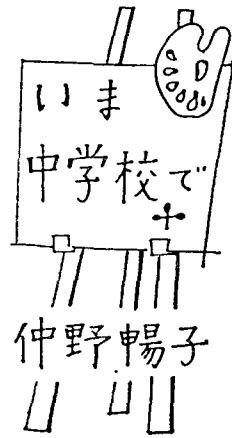
切ってきただけに、実感として、みんなの心に落ちていった。

で、「他に、できたお母さんいますか?」——この突っ込みの、あとが、まじった。ちよっと間があいてしまったのだ。すかさず、川越君が言った。「先生のも黒板に書いてよ!」。たちまち、「そうだよ、そうだよ」「セ・ン・セー」「セ・ン・セー」の合唱と手拍子。トホホ……ナンでこうなるの……。こうなるんなら、考えときやよかった……私の顔は、みるみる真っ赤。「わかった、わかった!」と制止して、黒板に、大きく書いた。

へハゲでなやめばまたハゲるゝ

「型にはまっけないよオ」「ずるいよ!」の声も、教室中の笑いのウズでうまくごまかせて、おまけに、キーンコーン、カーンコーンの終了の合い図。「今日の授業、これでおしまい!」ホッ。(実はこの作品、五年前に卒業した石川正敏君のものなんでスウ。)

人と人との間



「風薫る季節」に緑の乏しい街だけれど、子どもたちは授業や部活のものの珍しさにも少しなれて、暖かな空気の中で手足を伸ばし始める。人間て何歳になっても、新しい組み合わせグループに入ると、自分の居場所がみつかるまでは落ち着かないものだ。子どもたちは自分たちなりに、手探りで人との間を計っている。

「今日は英語の小文字のテストがあった。ぼくはテストがあることを忘れて予習をしてなかった。(結果はヒサン!) ぼ

くは一カ月の間にいろいろあったと思う(入学式、対面式、部活のあれこれ)。そして心配だった友だちがたくさん出来た。新しい班では副班長に選ばれたのでしつかりがんばりたいと思う」。子どもたちにとって、学校とは何より友だちのいる場なのだ。

クラスや班などフォーマルなグループの他に、子どもたちは、たいていインフォーマルな所属をもっている。教師が管理すべき領域ではないけれど、安全と成長を見守ることは必要だと思う。班ごとに机をつけて食事してみたり、自由に並ぶ日をつくったりしていると、一人だけ離れてカベを向いて食べる子、片付けを一手に請け負っている子、小学校からの力関係や因縁が引き続いていたり、新しいグループの間の葛藤が水面下で進行していたりする。

わりと派手に動いていたK子が急にしぼんでしまった。ひどく浮かぬ顔で遅刻が二日続いた。そのたびお腹がイタイとか理由をいうけど、ちよつと……家庭と連絡してみると「本人は何も言わないけど、『いじめ』じゃないでしょうか」と母親。カンケイシヤと小数派(実は一人)に弁護士、公正な立場のとれる中立「陪審員」を募って話し合いをすすめるようにした。

始めは多数派が興奮して言いつのり、自分たちの主張を曲げない。相乗作用があつて、人の経験や感情を自分のものと

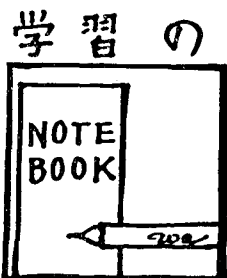
錯覚して共有している。そして自分たちは悪くないのに、「センコウにチクラレタためにモンク言われる」といきり立っている。これは初めから全部一緒はムリだ。まず私が興奮派の話をじっくり聞くとして、傍観者だった子たちが自分たちの考えを話し合うよう分けた。多数派の中でも「本当にみんな同じ立場なんだろうか。本当に自分自身の気持ちで動いているのだろうか」と問いかけ、一晩おいて書いてくる。

急先鋒はかなり凝り固まっている。「自慢ばかりするから、はつきりゆってやだから、人の傷つくことを言って平気な顔でいるから氣にくわない。ぼくはKさんがやだったのでHさんたちの味方をしてやりました。敵もどンドン仲間を増やしてだんだん盛り上がりました。ただ後で敵が小人数になったので『いじめ』に見えただけだと思う」「Kさんが自慢ばかりするからです。自分の脚が長いとか……それに、先輩のことを知ったかぶって不良よばわりしたり……あの人だって小学校の頃ある人のことをさんざいじめたりひどいことを言っていたのに、今私たちからシカトされるとその人にくつついたり、そういう根性がいやだから今更謝られても許せない」。

でも勢力範囲にいた一人一人が考えたり、似た立場同士が勇気づけあったり、傍観者の中から良識派が台頭したり、空気が変わってきた。「本当はHさんから離れると自分もやら

れそうで恐かった。私は今までに始めた経験もあります。それでもやはりいいめられた経験の方が強く心に残っています。『いじめ』というのは、先生もいましたけど、大した理由でもないのに、嫌ったり避けたりしていき、多人数になるとどンドンエスカレートしていくことが多いんですね。いじめられる人の身になると、『かわいそう！残酷だ』と思うんですが、みんなが集まると、その気持ちがスッとぬけてしまふんです。今度のことも、私はKさんとは、ちよつと氣まざいことがあっただけで大した理由もないのに、わたしは中立の立場にいらなかったのを心にとがめます」「始まりはKさんが給食の盛り付けにもキツク文句つけたりしたのでいやに思ったのだけど、いじめが始まってしまうと、何人もが集まって誰も頼る人のいない一人の人をいじめてしまします。何かあるとその人にアタツたり、本当に自分でも、恐ろしいと思うくらいでした。やられる身には本当に悲しいことです。もうやりたくない」。

そしてふと見回した時、「裸の王様」だと氣付いたボスはとても狼狽し、ひどく辛い思いをした。「あんな思いは二度としたくない」。そう感じる心の柔らかさがうれしかった。その後クラスの中に安全装置が出て来たけれど、もつと大きいことが起こるとまた一からみんなで作っていくしかないと思う。



主人公たち

おとなって

東京都杉並区立
杉並第一小学校二年一組の
子どもたち

ひでき

て子どもよりあた方がいいのだろうあたしにおもうには小学校から大学までべんきょうしているからだとおもう。

◆おとなっていやだなあ。毎日会社行ったりしゅちようへ行ったりしていやだなあ。ぼくが大人になったらお父さんと同じレストランに、はたらく。でも、大人っていいなあ。自由になれるし、力もあるから大人っていいなあ。でもまだまだ二十さいになるまで十一年以上もあるからぼくは考えたことが二回か三回ぐらいしかない。

みよこ

◆おとなっていいなあ。だつてえらいからいつもおこつたりおこらないばいもあるから。おとなって、りょうりがうまいから好き。かっこいいから好き。

あいしてるわよ。

だいいだいいだいいだいきよ。

あなたこんどあそびにきてね。

こんどあったらいこうね。

これなかったらでんわしてね。じゅうしゅう。1の48の15みどりそうでんわばんごう3

慎太郎

◆おとなってどうしてすぐおこつたりするの。赤ちゃんのときは、かわいがつてくれて、

どうして今は、そんなにかわいがつてくれないの。やつぱり四、五才になると、もう、ぼくたちだけでかつどうするの。ぼくは、四才から、ようちえんに入つて、なき虫で、なかせれたときはすぐおとなの人のこと思ったよ。それに、赤ちゃんのときは、「いいこいいこ」

つてかわいがつてくれて、もう、今は、すぐおこつちやうから、なんか、べつの人みたい。それに、小学校一年生になつても、やつぱり、

「べんきょうしなさい。べんきょうしなさい」つていわれて……。やつぱり、また、ようちえんるときより、べつの人みたい。

でも、友だちがいっぱいできた。お兄ちゃんもできた。でも、ぼくがーばんしっている

のは、ぼくのお父さんお母さん、ぼくがうまれて、そのときから、お父さん、お母さんが、おとなになった。つていままで思っていた。でも、今は、ちがうように思っている。それに、今、から、どんどん、いきいていけば、やつぱり、ぼくも、おとなって、おこるかつていうのが、わかると思っている。

やつぱりおとなって大学を出て、頭がよくなつて、よくおこると思う。

だからおとなって頭がいいんだ。

らく

◆おとなって子どもにはすぐおこるけど、子どもはどうしておとなおこれないのだろう。おとなってどうして子どもよりえらいのだろう。おとなってどうしてりょうりや、あみものがうまいのだろう。おとなってどうし

◆おとなってほんとやさしいんだね。だってゆうはんのときいろんな話してくれるんだもの。

仁

◆おとなって、おかあさんてこわいなあとおもう。ときどきやさしいこともある。

はるな

亮

◆おとなって。やさしい人もいれば、こわい人もいる。けどおとなはほとんどやさしいおかあさんは、小学生と中がく生にべんきよしなさいとするさいけどおかあさんたちはぼくたちのことをおもっていつてからぼくはべんきょうをするおとうさんは日ようびは、けっこうあそんでくれるぼくがテレビを見てるとおとうさんが10ばんにかえてとかいうずるい、ぼくがファミコンをしてるとおかあさんがまあじやんにかえてというずるいとおもう、ぼくがおとなになったらやさしいおとなになりたい。

みほこ

◆おとなってスキ。だけど、おこるとすぐくこわい。なぜスキかっていうと、やさしいから。でもわたしはおとなはスキだけど、おとなになるのはイヤ。子どものままでいたい。だって仕ごとするのイヤだもん。あそんだり、子ども用のおべんきょうしていたりして、ずうっと子どものままでいたい。女の子はおとなになったら赤ちゃんをうみます。わたしはすえつ子だから、下に妹が、弟がうまれたらしいな、なんてフツ、と、思います。でも、おとなになって赤ちゃんをそだてるのは、とても大へんだ、とお母さんが教えてくれてからわたしはおとなになって赤ちゃんをうんでから、赤ちゃんをそだてるのは大へんだなあと思いました。そしてめんどくさくないのかな、と思っておかあさんにめんどくさなかつたのか聞きました。お母さんはめんどくさかつたそうです。わたしは、やつぱり、と思いました。わたしはおとなになるまで大へに行けるかどうかがしんばいです。おちてしまうのではないかと思います。でも、それはまだまだのことなのだから、今は、二年生のべんきょうをすればいいと、すぐに思いかえます。おとなって、とってもおおきい

らイイナ。わたしは、ときどきせがひくいかそんなことをチラツと思います。でも、おとなになったらお仕ごをしなくちゃいけません。わたしは、おとなになったらどんなお仕ごをしようかな、なんて、ときどき思います。今わたしは、おとなになりたくない。

たいち

◆おとなってなぜあたまがいいんだらう。それはあたりまえだなぜならもう学校や大学をそつぎようしてしまつたんだからだけどおとなでもできないもんだいがあるかもしれないだつてうちのかあさんはぼくにまちがつたまいにちのまいをおしえてたんだからそれにあやまるだけなんだからこんどからじぶんひとりでべんきょうをしたいとおもわせるからときどきばかだとおもうときもある

まり

◆おとなって、やくにたつおにいちやんとけんかしてもとめてくれるから。あとべんきうでわかんなかったら教えてくれるから。でも、おとなって、こわいときもある。ちよつときぼるだけでおこられるときもある。「どうしてやんなかったの」とかいわれ

る。でも、やさしいときもある。

伸 治

◆おとなってゆうことをきくと、おだちんが、もらえて、ゆうことを、きかなかつたら、おこられるけど、ぼくは、ゆうことを、きく。

おにちゃんでも、みんな、おとなのゆうことを、きいて、世かいじゅうゆうことを、きけば、みんな学校や大学へ、行かなくてもすむと、ぼくは、思う。

でもゆうことをきかない人は、学校や大学へ、行かないと、いけないと、思う。

でもなんとかゆうことをきいてほしい。

夏 代

◆おとなってずるい。だってかいしゃにいくときでん車でいけるんだもん。

おとなって子どもにできないことは、なんでもできるんだもん。

子どもにかんけいはなしは、おとなだけするんだもん。

ずるいよ。

「なにはなしているの」

ときいても「子どもにはかんけいはなしだよ」

でゆうからおとなってずるい。

おとなってなんでこんなにずるいの、なら早くおとなになりたい。

ずるいなおとなって。

早 哉 香

◆おとなって、どうしてすぐおこるの。

おとなって、こどもがねてからテレビをつけて見てるのに、こどもがみてると思うけれど、やうのはなんで。

おとなって、どうして

「はやくねなさい」

って言うの。

おとなって、どうしてあんなにしゃべることがあるの。

おとなって、どうして本をみてるの、

「すこしぐらいべんきようしたら」

って言うの。

おとなって、ほんとにずるい。

裕 士

◆おとなってすき。だっておとながいなくなったらこまるもん。あとべんきようでわかんなくなったらおしえてくれるから。ごはんだってつくってくれるから。やっぱりおとな

ていいな。でも、おこるときはきらい。ぼく

も、はやくおとなになりたいな。でもいつしようにけんめいべんきようもしないとおとなになれない。いつになったらおとなになるかな。せがでつかいおとなになりたいな。あと強いおとなになりたいな。

ひろみ

◆おとなってどうして、いろいろなことを、知っているんだらう。きつと小さいころおぼえたかなあ。おとなって、どうして、子どもを、生むのかなあ。どうして、大きいんだらう。おとなって、どうして、子どもから、パパママで、いわれるんだらう。おとなは、いつも、子どもに、しんせつに、してくれる。おとなって、いい人なのかなあ。おとなって、どうして、おこったり、いろいろなことを、教えてくれるんだらう。おとなって、やさしい人だなあ。おとなって、おうちの、いろいろなことを、するんだらう。おとなって、どうして、あたまが、いいんだらう。こどもには、ぜんぜんわからない。人に、きいて、みないと、そうゆうことは、わからない。子どもが、知らないことを、どうして、おとなが、知っているんだらう。おとなって、小さいこ

ろよくべんきょうしたんだなあ、思う。だから、いろいろな、ことしってるんだなあ。

おとなって、どうして、自分の子どもを、かわいがるんだろう。どうして、自分の子どもに、よくおこるんだろう。きっと、それほどおとなの人が自分の子どもを、すきだからだと、思う。

おとなって、自分の、子どもに、「早くねなさい」とかゆうのかなあ。
おとなって、ふしぎだなあ。

◆おとなっていいにおい。……どうしていいにおいなのかわからない。
なにかようふくについているのかわからない。もしかするとなにかおなかにいれているのかな。

ともこ

◆おとなってなんで自分かってなんだろう。わたしがなにか、かってと言うとおかあさんは、「ふつうの日には、だめよ」ときまっています。

でも、ときにはやさしいときもあります。こわいときもあるけど、やっぱりおとなは、だいすきだ。

おとなが一ばんやくにたつと、思います。おとながないとやっぱりわたしはだめだ。

しん

◆おとなってたらきものだなあ。お母さんは、ぼくがいないときそうじせんたくを、しているからはたらきものだなあと思いました。お父さんも、かいしゃでよくはたらいているとぼくは、思った。大人は、一日じゅうはたらいているんだなあと思いました。おかあさんがいなきやごはんがたべられないとぼくは思うお父さんがいなきやお金で買います。お金がないからだめだと思うからお父さんも、いなきやだめだおとながいなきやだめだ。こどもだけで、こどもできないとおとながいなきやだめだ。おとながしんだらこどもも、しぬかもしれない。

直子

◆おとなって、わるい人もいれば、いい人もいる。

子どもの時は、いい人でも、おとなになってから、ゆうかいしたり、どろぼうをしたりする人もいます。子どもの時は、いじめっこでも、おとなになったら、人のきもちも、わか

るようになると思う。

もともといいい人で、おとなになってもいい人が多いと思う。

でも、こどもの時の夢を、すてて、ころこりなりたい人がある。

こどものころの夢がかなった人もいると思うけど、かなわなかった人もいます。

アトリエになった人もいます。なりたかったものがさまだ。

おとなは、みんな、いい人になってほしい。けれども、ゆうかいはん、どろぼうなどがいる。ゆうかいはん、どろぼうなどをなくしてほしい。

子どもの時、いい人に、なろうと思った人もいます。でも、おとなになって、わるい人になった人もいます。

いつか、ゆうかいはんなどを、なくしたい。





「わが家だより」

四年 高 嶋 想

ぼくの家族は、大きいばあちゃん(86才)、ちいばあちゃん(61才)、お父さん(38才)、お母さん(38才)、妹(いつほ 8才)、妹(未お 5才)、妹(咲 3才)、妹(のみち 五ヶ月)とぼく(想 10才)の9人です。
おばあちゃんたちといっしょに住む前は、毎年、年賀状で家族の様子を知らせてきました。

その一まいが今ここにあります。ぼくが四月から一年生になるといふものです。それを見ると、やっぱりあの時は字も下手だし、おもしろいなと思います。でもこの手紙には、まだ「わが家だより」という名前はついていませんでした。それを去年「わが家だより」という名前の新聞にすることになりました。



「わが家だより」とは名前の通りわが家であったことを記事にしたものです。例えば、二月号には「かけ算九九いえるよ」というのでは、いつほが九九をとなえているうちに、未おが覚えてしまうということ、家でまめまきをしたことなどです。

家族が多いのでのせる記事には不足しません。家族ひとりひとりが必ず登場するのでどんなことかどののかでききわくわくして待ちどおしいです。いいことがのるとうれし、いしあまりよくないことは、てれるようではずかしいからです。また他のことも読み、おもしろいとこは妹に話したり声に出して読んだりしておもしろがっています。

今のところ「わが家だより」は、春夏秋冬か二ヶ月に一回くらい出す予定です。だんだん大きくなる様子をこんなふうにして記録してお

[illegible]

ほとくの役わりは登場人物と読者ですが、記者、へん集長になりたいたいと思います。これからいろいろな仕事をしてがんばります。

二年 たかしま いつほ

わたしの　へやの前に『わが家だより　ぼしゅう中』と、書いた　ポストがあります。

わたしの家では休みとかの日になると、どこかへ、でかけます。

たとえば、夏ならプールや海へ、冬ならスキーじよう。

そして、そこで楽しかったこと、かなしかったことを、このポストの中に書いて入れます。

よこの あきちで、スキーじょうを 作って だいぶ ス
キーが、うまくなったこと、トンネルかまくらを 作って、
あそんだこと なんかも、書いて いれます。

それを、お母さんが、よんで『わが家だより』という
ガキの大きさの、新聞にのせます。

ポストに入っていたのだけでなく、家でみんなが話していたことも書きます。

この前テレビを見て、いたら「まだ」と「もう」のちがいが、出てきました。

(さき)は、もう 三才 というふうに、いうのです。

それを『わが家だより』に、「お父さんは、まだ38才、お母さんは、もう38才」とのせました。

わたしの、へやのポストには、今のところ、あまり、おたよりが、きません。

わたしは、ゆうびんさんのやく目をしてるけど、これからは、自分でも おたよりを、書きたいです。

(おわり)



自然な直感を大切に

—がんばるくらぶの子どもたち—

飛鳥井 佳子

大人と子どもの違いを考えると一番に気付くのは「価値観」についてです。どんなにファミコンが面白くても、子供がセミやカブト虫に興味をなくすことはまずありません。石や土の下を掘りおこしては、まる虫や幼虫たちと仲よしになり、小川の小魚を追ってバケツとアミで走りまわったり、廃品置場や材木置場を舟にみたてたり宇宙基地にしたりして、ピーターパンのように飛びまわります。また、どんなに本物そっくりのぬいぐるみよりも子供は子猫や子犬が大好きですし、どんなに上手にできたままごとセットがあっても、土だんごをこねない子供はいないのです。朝元気にさっそうと登校した子どもたちの服装も、夕方になれば、みんな一日の活動の記録をしっかりとつけてくれているはずですよ。このように彼らが価値をみいだすものは、大人と違って、

一人一人実に多様で個性的なのです。そしてそれがいきいきとしているのは、自然界の生命とつながっているからであり、夢や冒険や空想をとまなうからなのです。

ところが最近、都市の子どもたちはそんな感性をやしなう場を奪われつつあります。コンクリートジャングルにアスファルト、カブト虫はデパートにいるし、光化学スモッグで太陽の光まで汚され、自然は遠のくばかりです。そこで私は息子と近所のたぐさんの子どもたちで「子供会がんばるくらぶ」をつくり、捨て犬猫の世話をしたり、体験を求めてあちこちへでかけることを始めました。野山でよい空気をすいこみ、竹林の静寂にひたたり、アスファルトを割ってニョッキリ顔をだす竹の子の生命力に感動したり、ちろちろ流れる小川のさわガニと話をする時の子供の表情はとても明るく楽しいのです。池やほら穴を探検しているとウシガエルが「グ Ogg オッ」と大きな声をひびかせ、小さな子らは怪獣がいると言って泣きだしたりします。牛を見に遠出したり、暑い日は桂川や鴨川に飛びこんで泳いだりします。桂川は汚れがひどいですが、この川で魚になってみてはじめて子どもたちはなぜ川を汚してはいけないのかを体得します。「もし自分が魚なら」「もし自分が障害者なら」「もし自分が動物園のパ

ンダなら」と、常に社会的弱者に思いをはせ、みんな時代を共有する仲間なのだということを知って、大人になっても自立した価値観をもって生活していったほしいと思うのです。

私が彼らに一番望むことは、生命の危機につながるものへの直感力をみがいてほしいことです。自然破壊をくいとめることは、今人類が最優先にしなければならない課題ですから、もっとみんなに自分の頭で考え、行動する力をつけてほしいのです。そのために毎月一回駅から駅まで「自然を守ろう」「遊び場をつくろう」「核も原発もいらない」と訴えて平和行進もしています。昨年は、子供平和大使を送ろうと募金活動を二年続けたのが実って、訪米し、ホワイトハウス前でチビッコ反核デモをすることができました。日常のことと世界のことを同時に幅広く考える習慣ができれば私は願っています。

私自身をふり返ってみても、大人になっても忘れられない重大な事件がいくつかあり、その体験が人生のささえとなったり、自分の生き方を決定づけていることを思うと、子供の頃の体験というのは実に貴重だと思います。たとえば、中一の理科の授業でカエルの解剖があり、生き物の大好きな私はなぜ本当に腹を切らねばならないのかとても疑問に思いました。私のカエルはエーテルがきかず腸を引きずって床をころがり、それでも飛びながら逃げていきました。私も友達も

泣きだし、先生を困らせたのですが、私はこの時、学校ではカエルの身体のおしくみを教えることと、生命の尊さを教えることと両立できないことを知りました。

これは現在の教育が、科学文明を優先するあまり、部分的な問題ばかりを追求し、人間の内面の成長にとって不可決な思想や文化など精神の問題をおきざりにして、「生命の尊厳」という根本の教育から離れてきている一例だと思います。殺したカエルを土にかえすことなく、ゴミ袋に捨てた時、子どもたちは自らの感性と生命への直感をもろともに捨て去ってしまったのです。同じことは昨年の筑波科学万博でもおこりました。自分の生まれた池や田にもどって産卵しようとするヒキガエルが、新しい道路のために大量に生命を奪われたのです。田園生態系の中心的な役割を果たすカエルが万博道路に殺される図は、まさに現代のゆがみの縮図という感じがします。どんな障害があっても、命がけでもどうこうとするカエルを殺し、自然の均衡が崩れても平気なほど、私たち人間は強いのでしょうか。画家の田島征三氏は、畑で誤ってクワでカエルを殺してしまい、きざんで食べて自分の生命にとりこんだ日のことを、「土に描く」の中に書いておられますが、生きるということのきびしさを原点から見つめ直す教育が、今求められているのではないかと思うのです。これからも「個の尊厳」を大切に、子供たちとがんばろうと思います。



「かぜのこ ひろば」と

こどもたち

山本 辰太郎

かぜのこ ひろば 小諸駅の裏、南西の方、千曲川の向こうに御牧（みまき）が原が小高く続いています、その向こうに望月の町があります。このあたりは「望月の駒」で知られた古代の牧の地です。わたしの勤めている本牧（もとまき）小学校の名もそこにつながっています。

望月の町はずれの農村部、印内部落のPTA役員の話し合いかからこどもの広場が生まれて、十六年になります。四間（けん）四方のこども部屋には本・楽器・卓球台などがあつて出入り自由。二DKのわたしたち夫婦の住まいが続いています。庭は三角ベースができる程度ですが、ウメ・カキ・クリなどの実る林には小鳥たちもよく来ます。通学路になっている県道のすぐ上、八百坪ほどの土地です。百坪の田んぼも

借りて米を作りコイを育てて売ったりしましたが、いまは休耕です。

ひろばの リーダー こどもたちは、なかなかやるものです。六年生の男の子が先だちで卓球大会を開きました。いわゆる成績はあまりよくなくて、学級では出番のあまりなかった子が、てきぱきと話し合いをまとめて、組み合わせの表なども作っていました。わたしは、「小さい子も出られるように工夫しろよ」と声をかけただけでした。小さい子は台の上ののってやりましたが、こうすると、けっこう上級生とも相手になりました。次の年のリーダーは録音テープを用意して入場行進から始め、選手宣誓などもとり入れました。

夏のキャンプのきもだめしなども、毎年あの手この手とおどかしを工夫します。音、作り物からメイキャップまで、上級生のウデの見せどころです。

ある年、印内の六年生は男の子ひとり。九九など学年で一番早くおぼえた子ですが、テレビの子守りで育ったせい、か、ひとと話し合うことができず、友だちとうまくいかない子でした。ところが稲刈りの日になってみると、いつになく望月の町の方から来た六年生が多くて、仕事がかどりました。

この印内の子が、前の晩、同級生に電話をかけてさそったのでした。

「にんげんには ことばがある！」 ひろばに五月生まれの子馬が来たのは四年まえの秋、ちょうど一年生を受けもっていたときでした。クズの葉などをおみやげに、学校から三キロほどの道を歩いてあいさつに行きました。ブラシをかけたりふんの始末をしたり、一年生にできる仕事もありました。

そのころ、乗馬クラブの K さんに、「しかるときはその場ですぐ、きびしく」と教えられました。おけがまにあわず、たらいにかいばを入れていましたが、子馬は前足をたらいにかけようとします。K さんは近くにあった細い竹で、子馬の前足をピシリとやりました。これで、もうほとんどやらなくなりしました。わたしも、かいばを食わせながらブラシをかけているときに、子馬がちよっとかもうとしたのでピシリ。「もう食うな」としかりつけると、頭を下げて柵のすみの方へ行きました。「よし、食べろ。もうかむなよ」子馬はまた寄ってきました。

教室でこんな話をし、ひろばで人気ものの犬のコロも、すてられてひろばへ来た子犬のころは、よくかむくせがあったけれど、そのたびに。パチンでなおした話も加えました。

「先生は、きびしいからな」「そうだよな」「じゃあきみたち

もおんなじだな」「ウーン」するとひとりの女の子が、「ちがう。にんげんには、ことばがある」と言いました。今度はわたしの方が「ウーン」。ついさっき、机の上を靴で歩いてた子の足をパチンとやったところでした。

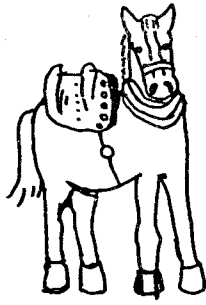
それから、ことばを大事にし、問題があれば二時間でも三時間でも話し合っ解決する二年生、三年生につきあって、わたしも成長してきたようです。

世界に つながって

遠い昔、望月の牧には朝鮮やモンゴルの馬飼いたちが先生として来ていました。「小諸馬子唄」の馬の歴史をたどると、シルクロードの先の西の方まで世界がひろがります。馬車をひき田畑を耕す働く馬をと求めた馬は、アングロ・ノルマンでした。まさに西のはての馬。そして、五月には子馬が生まれるかと待っているのですが、父親は東のアメリカ大陸産アパルーサ。黒沢明の映画「乱」に出た馬だそうです。モンゴルから馬頭琴も届いて、百近い紙ねんどの人形で「スーホの白い馬」の物語のスライドをまとめた二年生。三年生の秋には「小諸馬子唄」による祭りばやしを作って音楽会に出し、モンゴルの留学生を学校に迎えて馬を走らせてもらい、話も聞きました。

いまでも、韓国・朝鮮人への差別を身近に感じ、アジア・アフリカの人びとの偏見にもぶつかります。せまいせまい「愛

国心」がまた頭をもたげ、「非国民」よばかりも身近に聞きました。子どもたちが、少年野球はじめ活動の場をひろげて、「かぜのこ ひろば」の役わりもみなおさなければなりません。働き、遊び、世界につながる場として、ひろばをどう生かすかを考えています。夜、ひろばを使ってくれている青年たちとのつながりも考えて。ことしは国際平和年。こどもたちの教材に役だたせてきた国際語エスプレントも、来年は百周年です。



健二

よせがき

◆小林カツ代さん。「いただきますーす」をはじめ小林さんの本、好きです。試してみてもかんだんでおいしいし。でも、食品添加物についてこんご、もっと考慮してほしい気持。(羽田恵子)

◆問題点を見つけ出しても、どうすればいいかの運動方法がつかめません。そんな中で家庭科を教えている毎日ですが、悩み多き春です。(田中洋美)

◆私は只今、東久留米市から名古屋へ来ている清水です。新聞での会を見て、とび入りで仲間になりました。こちらのみんなも頑張ってますね。(清水和美)

◆投稿の高山さんの分、自分自身いろいろ反論しながら読みました。やはり、家庭科の目標と

We 愛知の会 その2

教科内容具体的にアツピールする必要感じました。(伊藤厚子)

◆新しい家庭科を創るためにー小学校ではー村田尚子さんの今後の連載を期待しています。

「どうして家庭科の先生なんかになったんですか。もったいないですよ。」という所、おもいあたります。だからこそ、家庭科からしかみえないことをもつともつとみんなに訴えていくことが必要だと思います。それがまた、家庭科教員のプライドを高めることにも。(宮崎世津子)

◆「肉べん」さっそく作ってみました。かんたんさがとてもよい、私むきです。料理の本など全くえんのない、作る気のない私が作ってみようと思うんですけどいいページです。(岡本のりこ)

青木喜代江

本の好きな子、あつまーれ!

— わあー、これ全部読んだの? おもしろかった?

水曜日の午後になると「ペガサス文庫」のかわいい看板がでて、地区の公民館は、子ども文庫に早がわり、本をかかえた子どもたちが集まってきました。私たちは返す本のカードチェックをしながら、手も動かし、口も動かしの大いそがし。

— ねー、こんなにいつ読むの? 分厚い本を4冊、毎週借りていく三年生のU子ちゃんは、幼稚園の頃からの文庫の常連。「ひまな時。だれとも約束していないで、おもしろいテレビがない時で、だからひまな時」——ビーズをしたり、あみものしたり、本を読んだりするのだそうです。

今は子どももいそがしそう。おけいこや塾で「文庫、辞めます」なんて律儀に、言ってくる子もいて、文庫に来るのも火・木・習字、水・文庫、土・ピアノなんて位置づけられているのかな。「カード

は入れておくから、また来たら、いらっしやいね」ということにしていますが、さびしいなと思うのは、こちらだけのよう。

— ね、みんな、どんなテレビ見るのかな? とたんにみんなの目はキラキラ、ワイワイガヤガヤ、たちまち一週間分の表ができ上がってしまった。エー、こんなに見ていたのかしらと、再認識。五時以降、アニメから、歌、ドラマ、クイズ番組と幅広く、九時、十時までもという子も。どうも、ひまな時というのは、下校後三時から五時までの間の、おけいこもなくお友だちとも約束していない時のことであるらしいことがわかりました。

文庫には毎週六〇〜七〇人が本を借りに来ますが、みんなに人気のある本、よく読まれる児童書のほんの一部をあげてみます。

なぞなぞの好きな女の子(松岡享子)
ぼくは王さまのシリーズ(寺村輝夫)

四年三組のはた(宮川ひろ)

くまの子ウーフ(神沢利子)

車のいろは空のいろ(あまんきみこ)
スプーンおばさんのゆかいな旅

(アルフ・ブリオイセン)

小さな魔女(オトフリート・ブロイスラー)
大どろぼうホッツェンプロッツ(同)

ひとまねこぎのシリーズ(H・A・レイ)
火のくつと風のサンダル

(ウルズラ・ラウエル・フェル)

きつねものがたり(ヨセフ・ラダ)

あたまをつかった小さなおばあさん

(ホープ・ニューエル)

ふしぎなマチルダばあや

(クリスチアナ・ブランド)

文庫では、本の貸し出しの他に、お話(今年には昔話を意図的にとり入れていこうと、グリム童話を少しずつ読んでいます)、秋には、みなで近所の畑でおいもほりをして、焼いもをしたり、クリスマス会などをして楽しんでいます。地区の公民館で、毎週水曜日の午後だけ開く子ども文庫では、今のところ二千冊を並べるのが限度。図書館が遠くで利用できない地域の子どもに、よい本と出会わせたいとのねがいから生まれて、九年目。登録している子ども数も、小一、二年を中心に85年度一八〇名(開庫時三六〇名)と年々減ってきていますが、貸し出しだけにおわっていた以前にくらべれば、ゆつくり子ども一人一人とつきあえるのではないかと、別の楽しさみもでてきたところです。

(三鷹市ペガサス文庫)



Weになんでも言おう なんでも聞おう



◆私は、従来の「家庭科」と全く別なところから出発せねばダメ、という基本的なところに立っています。が、どうもどのサークル、研究会においても、私のこの意見は異端で入れられません。共修のカリキュラムを作るサークルでも「家庭・家族」のとらえ方という全く基本的な点が食い違っていました。が、私としては、自分の非力なことを承知でも、節をまげてやってゆくことは意味がないと思うのです。

家庭科共修の問題は、すでに一教科論を越えて、社会や政治にまで関係する問題に発展しているというところ……これはWeの特集のテーマを挙げてゆけばはつきりします。学校、教育、学び教える、教科書、PTA……食べる、着る、住む、産む、育てる……結婚・家族そして支えあいつつひとり立つ、

土・水・くらしの文化等々。これらに一貫しているのは「くらし」とそのための「平等な社会」をモットーとして掲げていることです。やはりその底には（陳腐なことばですが）ヒューマニズム、人間の自由とあるべき真理の追求があると思うのです。要するに普遍性です。ところが、こと結婚・離婚などは、女性の自立と背中合わせで論じられてきましたが、一方で生を保障する土・水……が、うとまれ、そのような中でとびつかれる性の解放に流れています。もともと性と生は切り離せないもののなのに、女性の自立という大義名分をカサに着た性の解放、ブームとしての離婚という上すべりな形になっています。

本当に性を解放したいのなら、生に関しても真剣でなければならぬはず。そのような視点で

Weはあらゆるテーマをとらえていると私は思い、またそれだからこそ、ヒューマンで自由であると思うのです。

ところが、今「陳腐」と書いたように、ヒューマンとか人間の自由とか真理などは、知らず知らずのうちに、マイホームとかミイリズムとかにかき消され、死語に近くなっています。それでもなおそれらを追求すれば必ず社会のあり方と衝突します。極端に言えば自己や家族の生活を重んじることを第一にすれば「あるべき方向」というのは曲げなければならない。

あるいは限りなく妥協点をみつけないヒューマンとか、自由だとかを薄めた状態を承知でやってゆかねばならないということです。そのような妥協の産物、その集積が今日の社会でもあると思うのです。ところが、現代の日本では物質

が豊かであるゆえに、このような視点はぼやけたものになっています。四季折々の食べものや衣類、快適なすまい、余暇と休養のためのレジャーなどは、日本の「中流」を意識する家庭なら、余り苦もなく手に入ります。なお出費すれば様々なスポーツやカルチャーセン

ター通いもでき、その位のものは日本では贅沢とは言いません。「私の家はゆとりがない」とこぼす主婦にも、三時の時間はあるし、使い捨ての紙やラップ類だってあるのです。

多くの中流意識の人たちは、自分のことは決して贅沢とは思っていないし、これらの物質のどれ一つ（トイレトペーパー、洗剤、車のガソリン……）を欠いても、耐えられない状態にあります。そして反面では自由さ・自治などが、年々狭められ、生きにくい世

の中になってきています。

物質が満足にあって、経済が潤っている生活、そしてそれを第一義と考える世の中では、そういう自由さは結構ごまかしがきくものです。別にあえて自由などと言わなくても、結構日々快適に、物質生活がまわってゆくからです。君が代”とか”日の丸”とか”軍備費突出”だとかを必要以上に重要なことと考えさえしなければ……。

「新しい家庭科」を考える時、このような状況を考慮に入れることは、極めて重要だと思うのです。

「人間らしいくらし」が家庭科の原点であり、これを犠牲にしてまで守るべきものは何もないと思います。そこで「くらし」を考えたいのです（中略）。

ゆとりがないと言いくらしつつ「くらし」の中にダブついた脂肪や贅肉が多く、本来の「くらし」からは離れたものの多くをためて中流意識は成り立っています。この贅肉にあたる部分を取らねばな

らないことと同時に「くらし」は単に物質的な「生活」を営むことだけでなく、精神的な「生きる」というものを根づかせてゆかねばならないと思います（後略）。

（三島・梶原公子）

◆Weが毎月手許に届けられると、最初に目を通すのは、四年目では

森幸枝先生の授業実践でした。全国の家庭科男女共学を願う人々の熱い視線を一身に感じて、先生が筆を動かしていらっしやる様子が目に浮かびます。現場教師や後輩に贈る燃えるようなメッセージを特に二・三月号の実践報告から感銘深く受けとめました。日々新たな姿を我々に見せつける生活の実態をしっかりとらえて、教師もまた、日々新たな実践へと挑戦されている教育活動を、胸が痛くなるほどの迫力として感じました。今現場にふみとどまっている教師の一人としてやれることはこの熱情を日々の共学実践の中でぶつけながら、自己の力量を高めてい

く他ないと思っています。先生の実践が、家庭科という一教科にかかわる教師のものだけでない、日本の教育に求められている課題の中核に触れる報告であることも頭の下がる思いです。

（大分・重石美代子）

◆一刻一刻即往生

うつのみやさんがお亡くなりになったことたいへん残念です。障害者からの発言は差別に対する告発や権利闘争ふうなものについて偏りがちなように思っていました。昨年一年間連載されたフウフウふうふは、男性が介護の方々とともに、家事をしながら生活の中で様々な問題をたいへん柔軟に考えて語って下さいましたので私にも多くの視点を与えてもらいました。何と書けばよいのかわかりませんが、Weの中に残るすばらしい連載でした。彼を周りで支えて、ともに生きてきた方々、さぞ力をおとしていらっしやるでしょう。謹

んでお悔やみ申し上げます。

（東京・増田レア）

◆四月号、表紙の赤ワクの中のWeが、パッと目にとびこんできました。その左にWeの願いが書かれていてその新鮮な表紙にまずビックリ、とてもフレッシュでステキです。中身も劣らず新鮮ですね。

村田先生の文章、昔の専科時代を思い出しながら楽しく読みました。ガンパッテイメージチェーンジさせてほしいです。石川由紀さんの「私の望む——」とても共鳴しました。同感点多し。押切郁さんの発言ページも興味深く読みました。そして栗原実抄さんの車いす迷惑（？）旅行も、とても印象的でした。沖繩へ行った時の風景を思い出しつつ、岐阜で参加した車いすの東海大会なども思い出しつつなつかしく読ませていただきました。その他まだまだいっぱい感動した頁、考えさせられたことがあり、この号は安心して肩がこらずに読めました。（岐阜・掛布禮子）

堀辰雄の「十月」

武田 秀夫

二十年前の冬の夜、自分が見たのは霜か雪か、はたまた花かというようなことを書いてしばらくたったある日の晩方、うつらうつらしているときに突然、（なんだ、堀辰雄じゃないか、あれは）と目がさめるような思いに不意打ちされました。妻や娘が仕事や学校にでかけたあと、片づけもそこそこに、二重に並べた文庫本の書架を上から下へとさがしまわってようやく「大和路・信濃路」（新潮文庫）をとりだしました。が、「昭和四十三年六月三十日 十八刷 定價80圓」と印刷された奥づけをみて首をかしげました。私が中学の教師になったのが昭和36年。その二年後、つまり38年に、はじめての修学旅行にむけて私は薄いパンフレットを国語の副読本としてつくり、その過程で堀辰雄にであったのですから、どうしてもそのとき手にした文庫本はいまある43年18刷のものではないはずなのですが、それが書架のどこにもありません。どうやら私は、「大和路・信濃路」を手にしてから五、六年後、青梅に移り住んでからのちに、なにかの事情で二冊目を買いそれが手もとに残ったということ

らしいのですが、そうしたなりゆきはすっかり私の記憶から消えてしましました。

いまでもそういうことがおこなわれているのかどうか、当時私のいた亀有の学校では、旅行先で生徒が迷子にならないようにと学生服の左の肩に、蝶むすびにした黄や水色のリボンをつけさせていました。学生気分ぬけない私は、そうした子どもたちの一隊をひきつれ、行列を組んで古都をまわらねばならない修学旅行という行事にシニカルな気分をいだきはしましたが、一方で、教師生活の最初にであった子どもたちといっしょに三泊四日の旅をするということに初々しい愉しさを感じていました。だいたい引率する私自身が数えるほどしか旅行らしい旅行を経験していなかったのですから、鹿の歩む奈良公園の森の中を行くのがたいへんたのしみだったのです。若かった私は、私と同様、旅行などそう簡単にはできなかった子どもたちのせつかくの修学旅行をなるべく印象深いものにするようにいろいろ試みましたが、その試みのひとつとして私は諸家の古都印象記のささやかなアンソロジーをつくろうと思ひ立ち、その過程ではじめて堀辰雄という作家にであいました。

「大和路」の冒頭「十月」は次のようにはじまります。

一九四一年十月十日、奈良ホテルにて

くれがた奈良に著いた。僕のためにとつておいてくれたのは、かなり奥まつた部屋で、なかなか落ちつけさうな部屋で好い。すこし仕事をするのには僕には大きすぎるかなと、もうこゝで仕事に没頭してゐる最中のやうな氣もちになつて部屋の中を歩きまはつてみたが、なかなか歩きがある。

こうして妻にあてた堀辰雄の手紙は十月二十七日までつづくのですが、奈良に着いた翌十一日の夕方、堀辰雄は唐招提寺の松林のなかに寝そべて、秋の日をあびた爽やかな景色をみながら「此處こそは私達のギリシアだ」と考える。そして、「この寺の講堂の片隅に挨だらけになつて二つ三つころがつてゐる佛頭みたいに、自分も首から上だけになつたまま、古代の日々を夢みてゐたくなる。……」などと思つてゐる。と、金堂の石壇の上の扉に西日があたり、なんだか綺麗な花の文様らしいものが浮き出ている。立ちあがつて近づき、さわつてみようとして堀辰雄はためらう。

をかしなことだが、一方では、それが僕のこのとききりの幻であつてくれればいいといふやうな氣もしてゐたのだ。そのうちその扉にさしてゐた日のかげがすうと立ち去つた。それと一しよに、いままで鮮やかに見えてゐたそのいくつかの花文も目のまへで急にぼんやりと見えにくくなつてしまつた。

私はその後もこの部分をくりかえし讀んだとみえてページが折リこまれていますが、もう一か所折リこまれているところがあります。三日後の十月十四日、堀辰雄は再び唐招提寺をおとずれます。

僕はひとりで金堂の石段にあがつて、しばらくその吹き放しの圓柱のかげを歩きまはつてゐた。それからちよつとその扉の前に立つて、このまへ來たときはじめて氣がついたいくつかの美しい花文を夕暗のなかに捜して見た。最初はただそこいらが數

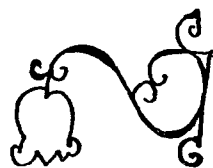
箇所、何かが剥げてでもしまつた跡のやうな工合にしか見えな
いであたが、ちいつと見てゐるうちに、自分がこのまへに見た
ものをそこにいま思ひ出してゐるのに過ぎないのか、それとも
それが本當に見え出してきたのかどちらか、よく分からない位
の仄かさで、いくつかの花文がそこにぼおつと浮かび出してゐ
た。……

なんという絶妙な文章だろう。うつろいやすくはかない西日のか
げのみがようやく浮かびあがらせることのできる美しい花の文様。
それは、言いかえれば、はかない西日の光にも似た微妙な文章の力
のみがこの世界にもたらしことのできる種類の微妙な美だ。幻だ。

私はこの部分をガリ版に切り、熱にうかされたように中学三年生
の子どもたちに私の受けた感銘を語つたのを覚えています。いまか
ら二十数年も前のすしづめ教室。五十数名の学級の中で高校に進学
できるのがやつと十数名というきびしい状況の中に生きていた当時
の子どもたちは、私のそんな姿をどんな思いでながめていたこと
か。そのころ私は、自分の内部に渦まく故しらぬ怒りにつきうごか
されるようにして学校内部のコンヴェンションリズムとことごとくに
衝突をくりかえし、生徒たちには「全てを疑え」「矛盾と闘え」と
迫りつつ、一方で、「波が寄せてかえす」と「波が寄せては、かえ
す」と「は」一語によつていかにニュアンスがかわるか、そのニュ
アンスのちがいを君は感受できるか、ことばに対する感覚を磨けと、
そんなことを執拗に子どもたちに迫つていたのでした。そうしたむ
かしの自分の姿を、冬の日、私は堀辰雄の文章とともに思い出す
こととなり、懷しさは終日私の心を去りませんでした。

〈2〉

「開校地横浜と赤い風車の女学校」



前回紹介した東京築地のA六番女学校の創立と同じ明治三年、開港地横浜でも、「キダーさんの学校」と呼ばれた、もう一つの女学校が開設された。アメリカプロテスタント諸派の中でも特に教育文化面を通じた伝道で活躍したオランダ改革派に属し、名高い宣教師ブラウンに師事して、明治二年彼の再来日に同行して来朝した最初の婦人宣教師といわれるM・キダー (Mary Eddy Kidder) が、三名の男女児を相手に横浜外人居留地内に開いた私塾である。これは間もなく女生徒のみの学校となり、明治五年には当時の神奈川県令大江卓の好意でその官舎の一棟が提供され、さらに同八年、港を眺望する山手の高台千余坪の校地にモダンな寄宿舎付の新校舎を建立した。これを機に、校名を、改革派外国伝道部初代総長アイザック・フェリス博士の名をとって、フェリス・セミナリーと改称し、世間一般にはフェリス女学校と呼ばれ

た (フェリス女子大学の前身)。また二十年代初には揚水のための赤い風車が設けられたので、人々から「赤い風車の学校」と親しまれ、一つの横浜名物ともなった。

キダーはしばしば本国ミッシェンに対して、「男尊女卑の東洋諸国、殊に日本においては、女子教育の必要な所以を力説し、教育と共に女子に、精神的基督教感化を及ぼすことは、直接伝道以上の効果を将来に収め得る……」と訴え続けたが (フェリス和英女学校六十年史)、前回同様、強い性差別下にあった当時の日本女性たちに、人間的自覚を促そうとした来日女性宣教師等の熱い思いが偲ばれるのである。

また横浜には、明治四年他の婦人伝道者による別の女塾も開設された。超教派的な「米国婦人一致外国伝道協会」より混血児救済目的で派遣されたブライン夫人等が開いた「アメリカン・ミッシェン・ホーム」 (横浜共立女学校の前身) である。しかし混血児が少なかったため、女子教育に目的を変え、福祉論吉、中村正直、井上馨等名士の娘たちの入学を得て、フェリス女学校に並ぶ名門女学校となった。

他の開港地長崎でも明治五年に「梅香崎女学校」 (下関の梅光女学院の前身)、同十二年に「活水女学校」、神戸には同八年「神戸ホーム」 (神戸女学院の前身)、函館にも同十五年「遺愛女学校」等、所謂ミッシェン・スクールが次々に創設され、開港地は、女子教育にとっても近代化への窓となった。



誇りもない地位も学歴も

吉田和子

知人の数学教師が、ある時こんなことを言った。「数学は必ず答えが出る。世の中は割り切れない事が多すぎる。答えの出ない事に振り回されるのがいやになった時、数学の面白さがわかった」と。彼はそれまでに数回転居し、本籍地も変えた。彼は部落の中では経済的にも恵まれたエリートだった。しかし、差別の根深さは、彼を容易には解放しない。居住地や本籍地を何度変えても、金や地位を得ても、解放された訳ではない。むしろ部落の外側に身を置けば、一層厳しい差別に直面する事が多いのではないか。「答えの出ない事」と言った彼の言葉の裏に、部落差別の呻きを聞いたように思ったのは私の思い過しだろうか。

私は今までに素晴らしい出会いを幾度ももった。あつぱれでたくましくて、まぶしい人たち。現実社会にあつて誇るべき肩書きもなく、生きる事に懸命な人たちだ。しかし、一方で彼のよう

に、答えの出ない差別の現実から身をそらし、自分自身を消しきつてでも苦しさから逃れねばならない残酷な現実を背おっている人もいる。彼の魂の奥深くに突き刺さる刃がある限り、誰も彼の姿勢を責める事は出来ない。消極的ではあつても、彼も又、差別と闘っているからだ。

答えの出ない問題と彼に言わしめる差別構造。私はそれを解き明かす方程式は、闘いの中からしか導き出せないと思う。部落解放運動の素晴しさは、学歴も地位もない民衆が、矛盾多い社会の混沌の中から真を選びだす確かな目を、闘いを通して育てあげている事にあると思う。私の知人に掃除婦をしている人がいる。かつて文字を知らなかった彼女は、さりげない語りの中で、誇るべき肩書きを持たない者の強さ、鋭さを教えてくれた。「女の事務員さんは、お茶汲みやや言うて十時、お昼、三時のお茶出しを私によこした。女ばかりがお茶汲みすんのんおかしい言うねんやつたら、女かて堂々と灰皿のある所でたばこ吸うたらええ。ロッカー室のスチームの裏に吸い殻をほかすよつて、掃除すんのん苦勞やで。この太い手もモップも入らんよつてな」。

あつぱれかんと言い放つ彼女の言葉は、建前にとらわれる女が、彼女にお茶汲みを押しつけて涼しい顔でいる事への痛烈な批判がこめられている。

(日本キリスト教団部落解放センター)

詩

は
た
け

羽
生
槇
子

若いとき 山のだんだんばたけをつくつて
いた時分には 山の茂みとはたけとの境界に
ブロック塀があつたらどんなにいいだろうと
渴望していた 茂みからはいつもしだやらず
の根がのびてきて はたけはいつでも山にか
えりそうだった のびてくる根をほりとるの
が 畑仕事の大きい領分をしめていた とき
に野兎と顔を合わせたりしながらも わたし
はブロック塀ではたけをかつちりとかこいこ
みたかった

いま わたしは都市ではたけをつくる 文
字通りブロック塀にかこまれた土地に野菜を
つくる 何のことはない 自分自身をもプロ

ツク堀にかこませて働く奇妙さだと考えることもできるし、しょっちゅうくるしじゅうからみために「テリトリイッ」って叫んだあとみたいな安心感がないでもない。山のだんだんばたけのときの「押しよせてくるもの」とは無縁だ。わたしのはたけは逆に、周囲へ周囲へ「野山の自然へ」「野山の自然へ」とひろがろうとする。

そしてふと夢みる。たとえば銀座通りのお店も、裏へまわれば一軒一軒そのうちのはたけがあつて、そのうちの人のはたけをつくつて、春になればそのはたけには、いっせいに菜の花が咲いて、菜の花の黄が波打つて、ときには黄いろい花びらが、表通りにも舞つてきて、蝶もきて、宝石を売つたり。

した人が、ひととき裏に出て菜の花を眺めてほつしたり。

銀座へ出かけた人が、帰りには裏へまわつて菜の花を眺めて。

帰ったりする。そんな都市のことだけれど。



深刻な おとしよりの

住宅問題

酒井和子

赤かぶだより赤かぶだより

町会の会費を毎月自転車を集めて回っているHさんが、「今日はちよつと聞きたいことがある」と赤かぶ屋に立ち寄った。

「住居っていうのは、どういふもんかね。一日中陽も当たらない、風も通らない部屋を、金をとって人に貸すなんていうことが許されるのかね。ばあさんが病気で入院して金回りが悪いっていうのに、早く家賃を払えって大家が怒鳴りこんできたんだよ。少し待ってってくれて頼んだのに駄目だって言う。血も涙も無い奴だ。大体が人が住めないような部屋を高い金を取って貸すなんて、規制する法律はないのかね」と憤懣やるかたない表情だ。Hさんは、二年前まで木造賃貸アパートに奥さんと二人暮らしだったが、それが取り壊されてワンルームマンションになるといふので追い出されて、すぐそばの古い鉄骨アパートに移ったのだ。退職後のHさん夫婦にとって毎月の住宅費は、大きな出費だろう。

都内では、住宅総数の二三%が木造アパートで、それも住宅密集地に多い。国の最低居住水準では、一人世帯は七・五㎡(四・五畳)と決めているが、日照や通風、防災上の基準は何もな

い。現実には最低基準の周辺に、ひとり暮らし老人や老人世帯の多くが生活しているのだ。

一方、国の木造賃貸住宅地区総合整備事業が都心区で始まっているが、これはアパートを建て替える時、国や地方自治体が費用を補助するというもの。しかし、建て替えれば家賃が上がるのは必至だ。とても老人が楽に払える額ではないだろう。住み慣れた土地を離れるか、もつと安くて危険なアパートに住み変えるか、止むなく他の生活費を削って高いアパートに移るしか道はない。いずれにせよ、老人にとっては耐え難いことだ。

昨年末から今年にかけて、区内で死者を出す二件の火事があった。年末のは木造アパートが全焼、身体の不自由なひとり暮らしの老人ら三人が焼死した。今年に入ってからのは木造モルタルアパートが全焼し、寄りそった老夫婦の焼死体が発見されている。

高齢者用の公営住宅確保或いは家賃補助は、都市の老人問題の重要なポイントであるが、町づくり、再開発が叫ばれる中で、こうしたおとしよりが住いを奪われ、死に追いやられている。

正調チャーハンべんとう

さて今月は何をご紹介しようかなと思って、いろいろ迷いましたが、そうだ、たいていの人がよくやる冷やごはん利用のもの、チャーハンべんとうの正しい作り方などどうかしらと。なーんだ、などといわないで。これ、意外とむづかしく。チャーハンなんて温いことが身上、少々出来が悪くても出来たてならおいしく食べられます。ところがべんとうになってさめてしまふと、出来の悪いのはべついたり、油っぽかったりして、作った本人には分らぬ「まずさ」になることもあるのです。だからといってチャーハンはおべんとうにぜったい作らない、というわけにもいきません。私の場合、月曜日はひやごはん利用べんとうに決めてます。月曜の朝は、くをしたいので、日曜の夕食のごはんを多めに炊くのです。

まず、おべんとうには生の豚肉はさけます。焼きそばべんとうには良いのですが、チャーハンべんとうには向きません。固くなって、ヘンに肉っぽくなります。焼き豚、ハムなどのほうがいいでしょう。玉ねぎは多めに入れないことです。など、ごたくをいってないで、さっそく

正調チャーハンべんとうの作り方を。

へチャーハンべんとう

ピーマン、玉ねぎ、人参、ハムか焼き豚、あるいはチクワなど、ありあわせのものすべて小さにきざみます。

次に忘れてならないことはごはんをほぐしておくこと。冷やごはんは固まりがち、どたっと入っては台なしです。

フライパン、中華なべは熱くし、油を大さじ1ほど入れ、ぐるりと回したら具を一度に入れてしまします。さつとまぜたらここへすぐに塩を少し、そう小さじ1/2よりまだ少なめの量を加えていためます。塩を先に加えると水っぽくならず油っぽくならず、具がこげにくく、とにかくよいのです。

ごはんを加えます。なべ肌にくつつけるようにして少し焼きます。さあ、大まかにざつざつと強めの火で混ぜ炒めて下さい。味をみて塩、こしょう、好みでカレー粉やしょうゆなど足します。どこをさわっても「アチチツ」となればオーケー。つけ合わせはゆでたアスパラガス、きぬさや、プチトマトなどいかが？

* 経済の目

生活サイドからみた経済

貿易摩擦② アジア諸国との関係

* 福島 澄香

前号の原稿を生徒に読んでもらった。ある生徒は「月謝が払えないことはなかったけど予納金（臨時費に備えて学期ごとに一万円位ずつ集めておくお金）を払う時など、母に言い出せなくて自分のお金から払って、家にお金が入った時を見て母に話すことはよくある。だからお金がもつとほしいけど、飢えることはないし、街には物が豊富だし、アジアなどの人たちの生活を考えると日本人は贅沢いえないのではないですか」と話してくれた。

日本の貿易摩擦は米欧だけでなく、アジア諸国との間にもある。東南アジア諸国への輸

我が国の地域(国)別貿易収支差

(単位: 100万ドル)

	対世界	対アメリカ	対EC	対東南アジア	対中国
55年度	△5,919	7,519	9,743	60	1,091
56年度	9,204	14,401	10,211	2,328	△1,061
57年度	9,328	12,211	9,923	2,622	△1,647
58年度	23,328	21,029	10,131	6,540	172
59年度	35,091	33,832	9,971	4,887	2,389

(備考) 1. 大蔵省「外国貿易概況」による

2. 通関収支差である

経済企画庁編、1985年版『経済白書』、33ページ

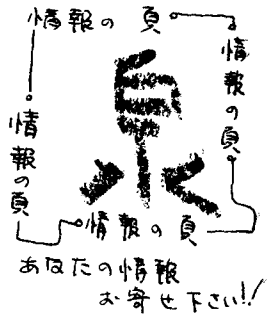
出超過は、一九八四年度約四九億ドル(中国を含めば七三億ドル)。(表参照) アジア諸国の小さい経済規模と多額の累積債務とを考慮合わせればアジア諸国が不満をもつのは当然と言える。

アジアとの貿易摩擦の起こる原因は、日本の大企業が現地に子会社をつくり(直接投資)日本人の賃金の $\frac{1}{4}$ (台湾)から $\frac{1}{20}$ (インドネシア)という、ごく安い賃金と長時間労働で現地の人を使い、高い利益をあげていることに起因する。一九八一年、日本の海外投資は八九億ドル、投資利益は一五八億ドル。日本の海外投資は五三一億ドル(一九八二年末)

の近くに、また海外進出企業の%がアジアにある。さらに政府の開発援助は毎年五、六〇億ドルであるが、その七割がアジア諸国に向けられ、その大部分は日本企業の利益につながり、アジア諸国民の福祉や国際協力にはほど遠い経済援助だといわれている。

アジア諸国では貧富の差が広がり、国民の四割が国民総所得の11〜17%なのに対し、国民の二割の高所得者が46〜56%も受取っている。マレーシア・フィリピンは特に貧富の差がひどい。その上、大企業の海外進出は現地の更紗など伝統産業の破産、失業、農業の荒廃や公害などによる環境・健康破壊などをもちたらし、庶民生活をさらに悪くしている。

今、私たちの身近にある衣類や食料品などには、韓国・台湾をはじめアジア諸国の安い製品が多い。日本製の表示があってもアジア諸国の安い労働力で作られているものが多く、これら安い労働力で作られたアジア諸国の製品の日本への大量流入は、同じ様な商品を作る日本の働く人々の雇用を減らし、賃金・労働条件を悪くする原因にもなっており、「贅沢を言えないのでは」とアジアの貧しい人々の生活に心痛めるつつましい日本の庶民の生活を圧迫している。



◆パンフレット◆「家庭科 なぜ共修？」

どんな共修? 問答編 資料編」

家庭科の男女共修をすすめる会

・'84年、ようやく家庭科履修について男女の取り扱いを同じにするという国の方針は決まったが、それはまだまだ私たちの願いからは遠いもの。できるだけ多くの方々に共修の意義を理解していただき、完全な男女共修の早期実現のために協力していただきたいと願って作られたパンフレット

・内容 Iなぜ共修? (問答編)

IIどんな共修?

1 授業例①基本から学ぶ編物(中学校)

②手打ちうどん作り(同) ③青春期の

男女交際(同) ④身につけているもの

から考える生計費(高校) ⑤ハッピー作

りで学ぶ先人の知恵(同) ⑥自由研究を

とり入れた性の学習(同) ⑦基本的人権の視点から学ぶ住生活(同)

2 共修家庭科の構想例

IIIこうして変わる、家庭科(資料編)

・A5判48頁、一部三百円、送料一七〇円

・申込み先 家庭科の男女共修をすすめる会

〒161渋谷区代々木2-21-11 婦選会館内

◆講座◆ 母性解説連続講座

・「母性本能、母性愛、母性原理、母性保護

……と母性と名のつく言葉はいろいろある

けれど、母性とは何かをカンクツメリーヨ

ーに言える人はいるでしょうか?……『母

性』がもちあげられる時代とは、どんな時

でしょうか?一緒に考えてみませんか、と、

連続講座を企画した。(すでに2回終了)

・第3回5月13日(火)pm6時半~9時半

・「母性と戸籍or近代家族」佐藤文明

・場所 千駄ヶ谷区民会館(☎03-402-7834)

・参加費 五百円

・連絡先 '82年優生保護法改悪阻止連絡会

〒160新宿区荒木町23 中沢ビル3 「ジョ

キ」内 ☎03-353-4747

◆冊子◆ 「生かそう/国立市婦人問題行動

計画(案)」 生かそう/国立市婦人問題

行動計画(案)・市民連合

・国立市婦人問題行動計画策定委員としてか

かわってきた者、その委員会の傍聴に通っ

ていた者、傍聴した人たちが中心になって

作った学習会で出会った者、策定委員会の

(案)がそのまま国立市の行動計画として

確立するよう署名運動をおこし市議会に陳

情する動きの中でつながった者等々、策定

委員会の(案)を大事に思い、その確立を

願って幾重にも層をかさね、仲間を増やし

ながら「一市民連合」が結束した。

結束の引き金は、国立市当局の暴挙。「修

正」と称して、この(案)の肝心のところ

を削除して全文を空洞化してしまったから

だ。まさに市民の意向、市民参加の精神を

真っ向から踏みにじったもの。

多くの市民が支持して確立を望み、議会で

もその陳情が全会一致で趣旨採択されてい

た行動計画(案)とはどんなものであった

か、市が改変したものと対比させて、事実

を残しておきたいという熱い思いと、強い

抗議の意志によって、市民としての行動の

一つとして編み出された冊子。

・B5判164頁、実費八百円

・事務局 村上早代子 〒188東京都国立市谷

保七一八七

今月の読書から



半田 たつ子

◆村瀬 学 著
『子ども体験』

大和書房 価一、六〇〇円

親や研究者の前に、永遠にいつづける「子ども」。人々の腕の中で育てられ、いつの間にかやら遠くへ遠ざかっていった「子ども」。実際にはしゃぎ回っている「子ども」。その間には、どうしても重ねられない何かがある、と著者は言う。「子ども」と言ってみても、どういう位置から、どういう必要性で見られた「子ども」なのかによって、結ばれる「子ども像」は微妙にずれる。だから「子ども」とは、結局のところその人の《子ども体験》なのではないか、と。子どもを知ること自身を知る刺激的な子ども論。

たとえば、著者は「幼年論」を「若い夫婦」

から始める。若い夫婦がまだ戯れ事の^{こと}世界に
いる間に、そこに現れた子ども、と、「両親」
となり「一人前の夫婦」になったところに迎
えられた子ども、との違い。子どもは決して
いきなり「子どもの世界」をつくるわけでな
く、夫婦の世界の中で、自分の世界をつくっ
てゆく、という指摘。

大人が子どもを見る限り、どんなにひいき
目にみても、子どもってこんなもんだという
「想定された子ども」の色眼ガネをかけてい
る。ひとりひとりの子は、皆さまざまなエビ
ソード、短い物語によってつくられており、
私たちはそのいくつかしか知らないのに、そ
の子をすっかり知っているかのようにみなす
ことがあるその間違い。子どもを理解するに
しろ、世界を理解するにしろ、私たちの理解
は新しく生まれるエピソードに触れて変更さ
れ、修正されてゆくべき、との論。一人でも
多くの人に読んでもらいたい好著。

◆鈴木みち子 著
『溺愛酷愛現代親子事情』
現代書館 価一、五〇〇円

「親でもないのに、教師でもないのに、医者

でもないのに」というヒナンゴーゴウ嵐の
中、赤い車とぼして、十代のガールフレン
ド・ボーイフレンドとおつきあいに出かける
みち子さん。

子ども十大人IIコトナ。大人の都合、本人
の都合で子どもになったり、大人になったり
の十代の彼女たち、彼女たちとの十年間のつ
きあいから生まれた本。大和無子七変化で、に
わかお母さんになったり、タメの友人になっ
たり、ガールフレンドぶったり、説教強盗に
なったりしながらのみち子さんのつきあいぶ
りには、ふき出したり、びっくりしたり、感
心したり。ともかくもあったかくてステキ
なのだ。それはみち子さんの感性そのもの。
つまり、こうなのだ。出会ったたくさんた
くさんの子は、どの子もどの子もキラキラし
て一生懸命十代やってる。悩みのある子は一
生懸命悩み、ぐれた子も一生懸命ぐれ、ハン
パな子も一生懸命ハンパやって、新しく始ま
る人生の入り口をどうやって開けたもののだろ
うか？ と一人ひとりが考えている、と。
それなのに、大人は原因を探ろうとしない
で、現実をどううまくごまかせるか、自分の
いやなことからどうやって逃げられるかをく
り返し考えている——耳が痛い。心が痛い。

◆スタジオ・アノー編

『子供!』

晶文社 価二、九〇〇円

五〇人の大人が十か月にわたって、日本の各地で一七四人の小・中学生に、平均三回ずつの長時間インタビューを行った。インタビューアたちは、不安だった。テープレコーダーをもって不意に押しかけてきた大人に対して、もしかしたら、子供たちはみな同じような身ぶり、型通りの意見をのべることしかできなくなっているのではあるまいか、と。

だが、子供たちは話したがっていた。インタビューアが、その子がいちゃばんしゃべりがっていることに、耳を傾けさえすれば。

画一的? とんでもない、いまの子供たちはそれぞれ 実に独得である、とインタビューアたちは言う。もしかしたら、かれらは、これまでのどの時代の子供たちにもまして、いま自分が感じたり考えたりしていることがらについて、おしきせでない、自分のことばでしゃべる能力をもっているのかもしれない、と。その能力をひき出した五〇人の大人に敬服。ユニークな一七四人のフツの子どもの声を、ぜひあなたも聞いてほしい。

◆山本 実 編著

『子どもたちからの教育改革』

岩手県両教組教育改革推進協議会事務局刊

価一、〇〇〇円

岩手県の教職員組合の協力により、岩手の中学・高校生五〇〇〇人のなまの声を集め、編著者がたった一人で十か月をかけてまとめた上げたもの。教育の荒廃とか、学校の危機・病理とかいう名のもとに報道される事態のもと、当の中学・高校生は、どんな思いで学校に通っているのか。この調査によって浮かび上がったのは強烈な教職員批判だった。しかし、教育は正に「子ども」自身のためにある。この「主権者」の声から出発しなければ、教育改革はあり得ない。その認識から本書の書名が生まれたことに強い共感を持つ。先生から次の言葉を浴びせられた子どもの心を思いやってみてほしい。

○お前はバカか、救いようもないバカだ!
○大学へ行かない奴はやらなくていい。
○おまえが生きているのは社会の迷惑。
○おまえはいいにくいが見込みはないのだ。
○おまえ、まだ生きてたのか。

◆がんばるくらぶと田島征三

『ぼくたち最後の子どもになりたくない』

径書房 価一、〇〇〇円

京都の向日市^{むこうし}に住むけいちゃん みなちゃん ひろちゃん ゆたくん くにちゃん ひとしくん しずちゃん さよちゃん……。みんなイヌやネコの好きな子たち。

けいちゃんのお母さん「モンペのおばちゃん」は「世界は恐怖する」という記録映画を見て感動。「わたしはどうしたらいいんだろう」と考えこんでしまった。そしてたつたひとりのデモ行進を始めた。

「核と戦争はごめんや!」

「子どもたちに放射能のない未来を!」

やがて、子どもたちも一緒に歩き始める。

「戦争いやや」で、いえへんイヌのためにも「がんばるくらぶ」を結成。毎月第三日曜日、うたったり踊ったりのデモ行進を続けながら、「世界に子ども平和大使をおくろう!」と募金を始めた。遂に募金は三十万円に達し、くにちゃんたち六人の子どもを中心に、モンペのおばちゃんたち大人も加わった二十人はレーガンに会いに行くことになった!

田島征三氏の躍動する絵が楽しい。

波

子どもへの思いこみ

半田 たつ子

いじめる・いじめられる
管理する・管理される
教える・教えられる
評価する・評価される
選抜する・選抜される
叱る・叱られる
処罰する・処罰される
差別する・差別される

人間の力が決して平等でないこの世の中では、おおむね力のある者が「する」側で、力のない者が「される」側になる。子どもに対しても、大人はほとんど「する」側で、子どもは「される」側だ。

いじめられ、管理され、評価され、処罰されてきた差別される子どもが、力をふり絞って「する」側に回る時、飲酒・喫煙する、万引きする、家庭内暴力をする、校内暴力をする、では悲しい。

その最たるものが「自殺する」だ。「自殺する」ことによって、子どもとおとなの「する・される」関係は、必ず逆転するけれど、そのために生命を賭すのは、余りにもいたましますすぎる。

たとえば、アルバイトする、バンドを結成する、文化祭の実行委員をする、生徒会役員に立候補する、当選する、落選する……など、「する」経験を重ねて、「自分の生き方を選択する」ことができるよう、大人がそとと道をつけれないものだろうか？

「する・される」のは当事者だ。その周りを左のような人が囲む。
A 「する・される」に深い関心を持つグループ

① わがことのように、真剣に考える人たち

② 自分以外のところに原因を見つけて納得する人

③ 自分自身にかかわらせて考える人

④ わがことのように共感したり、同情したりする人たち

⑤ その都度共感・同情することで自己満足し、すぐ忘れる人

⑥ 悪者を見つけ出し、攻撃して胸のつかえをおろす人

⑦ その都度の共感・同情をつなぎ合わせ、ことの本質を探し、

自分の生き方に織り込み、行動の出发点にしようとする人

B 「われ関せず」のグループ

B は心をそよとも動かさない冷徹なエゴイスト、⑧ はお人よし

⑧ は評論家 ⑨ は正義の味方、これらにはなりたくないとか戒めてきたけれど、はたしてそれができたのかどうか。

「する・される」の当事者でなければ、どのように豊かな想像力を持つていたとしても、絶対にわかり得ないことを肝に銘ずる時、したり顔で何が言えるだろうか、と口をつぐむ。昨年二月十六日の杉本治君の自死から一年余り、次々に痛ましい事件が起こるたびに。

十一歳の少年が、すまいの近くの高層団地の十三階と十四階の間の踊り場から飛び降り即死した。迷ったふうもあったという治君の背を押すのに手を貸したのは担任教師。このことは私を打ちのめし

た。教師をやめて十八年も経た今となっては記憶にないことだけれど、私が「マー先」と同じような言葉を吐いたことはなかったかと。人間は、都合の悪いことは忘れるものだから。

治君の死がつきつけるものを抱え、「杉本治君問題を考える市民の会」に入り、その報告書や、治君の日記『マー先のバカ』（青春出版社）を読み続けてきた。そして、今年の二月二十二日、横浜で開かれた「杉本治君事件から一年、治君の自殺問題を考える集い、その3」に参加した。

治君が通学した並木第三小PTAの島田美和子さんは「一番問題なのは、同じ学校の父母だ。治君の『ただ』だ。学校へ行って幸せになれるかだ』は、将来幸せになるために学校へ行くということを疑っていない、現実的な私たち母親に向かって放たれた矢だ。『ほんとうの解答は得られそうもない』と治君は書いている。ほんとうの解答は、治君の考え方に耳を傾けることから始まる」と。

市立中学で教壇に立つ浜田謙一さんは「益田先生をひどい人だと言いつけてしまえない。僕自身、学校・教育が持っている普遍的なひどさ——目的が正しければどんな指導も許される、学校は神聖不可侵、私は教師だから正しいという考え方——に囚われているから。これは教員だけでなく、父母、社会にしみ渡っており、それが教師の自信を支える」と。

信州大学の山本哲士さん。「学校の先生は、生徒のことを思っているふりをして踏みこじる。’84年十二月、自死した長野県の中学生、尾山奈々さんは、いつのまにか他人から見た自分にとらわれて、自分がわからなくなりました。そういう自分を、学校の先生は平気で士足でふみにじる、という遺書を残した。現実が変わらなくても、

発想は逆転できる。それをしなければ。治君、奈々さん二人の言葉を自分自身の声として学びつづけたい」。

一人子、真史君に死なれて、十年間、子ども・おとな、時代を考え続けてきた高史明さん。「治君と益田先生の気持がすれ違った『典子はいま』を見ての作文は、文章がくねっているからひねくれた子とも読める。しかし、治君がほんとうに言いたかったのは何か。ていねいに読めば、すばらしい感性の子だということがわかる。

私も真史が中学生になった入学式の日、これからは自分のことに責任をとれ、他人に迷惑をかけない限り干渉しないと言った。それは個を中心に個の自由と独立を基準にしており、大切なまなざしが欠けていた。他人に迷惑をかけて大きくなったということを落としていた」と苦しみぬかれた上での重い言葉を。

国学院大学の楠原彰さん、「なぜ死んだのか、をひっくり返して、どうしたら生きられたのかを考えたい。家庭・地域社会・職場・遊び集団。いやでも応でも毎日かわっていく場を、共に生きる関係を豊かにするために作り直そう。マスメディア、学校・商品などに依存する自分を断ち切り、高度経済成長の中で切り捨ててきたものを取りもどそう。それができれば、子どもはいろんなくらし、いろんな人間がいることを知ってくれるかもしれない」と。

「集い」から一月、私にもいろいろなことが降りかかった。心揺れた。そうしてハッとした。「育つ・育てる・育ち合う」という公開ゼミのテーマ自体「育てられる」側を落としていたのではないか。子どもを「される」側、力弱い存在と見ている大人の思いこみにメスを入れる必要があるのではないか。子どもの「する」力を信じ、その体験を積む姿を見守れる大人に、どうしたらなるのだろうか。



◆今年第一回目の例会は、二月十六日(日)の午後、豊中市の中央公民館で行いました。参加者は八名。

話し合いのテーマは「親って何だろう」

提案は神崎さんで、昨今社会問題になっているいじめや自殺する、子の状況は、国家や政治が、教育や教員を次々に管理するようになった一連の反動的な教育法案の成立の状況がもたらしたものではないかと法案名をあげて指摘。その多さに一同驚きました。

また、いじめは、もはや「こころ」や家族関係の「しつけ」の問題ではなく、私たちの「文化」が必然的に生み出してしまったものだという、山下恒男氏(茨城大)の新聞記事を紹介。いじめの根の深さを痛感しました。

話し合いで出た意見

●今の学校は、子どもの自由な発想を生かす学習ではなく、文部省の学習指導要領でがっちり縛られている。

●無気力で、学力が低く、家庭環境の難しいという条件の子がいじめられているが、その条件に合っている子が身近にいる。

●日本の男性は、長時間企業に縛られ、子育てから離れ、父親の役割を放棄している状況も、今のいじめと関連しているのではないか。

●社会的な矛盾を経験することなく育ったエリートは、底辺の人たちを切り捨てることになんの痛みももたない。日本の宇宙飛行士にえらばれた女性は、女性の意識を否定している(否定しないと男と平等になれないの?)。

●男性の意識を変革させるのは難しい。男性と勝負で闘うのではなく、あるがままを認め、共に変わっていく方法を考えなくては。

●今は個の時代。皆が親になり、子を社会の子として育てる意識をもつてはどうか。

●男と女の差は、生む性が否かだけである。パイオの世界では将来、男も生む時代がくることもありうるという。そうなると、親とは? 世の中は?(面白いところで時間切れ)。

パイオの世界での性の話を専門家に聞きたいと望みつつ、閉会となりました。

次回は、五月十八日(日)午後、同場所。浅井由利子さんの高校での住教育の実践を聞き、話し合う予定です。テーマ「ヤングの望む住いの周辺」(岩瀬志津子)

〈We 無の会〉

◆三月九日(日)午後、田無市中央公民館で第二回の読者会。参加者は常連の本告さん、ウイ書房の馬場さんと呼びかけ人二人の計四名。準備会が十人で、一回目が八人、参加者がどんどん減っていくのは私たちの力不足。チラシを百枚刷ったのに、と人数が気になるのは修業が足りませんね。気長に地道に、息長くとおまじないをしましょう。

今回は姫野さんの社会教育大会の報告から「今の母親は子どもを愛していない」「核戦争以前に日本は汚染食品で滅亡してしまうだろう」(法政大、永井憲一氏)——をきっかけに、食文化に話題が集中。「どうして身体に悪いものを売るの?」と尋ねる子、市販のソーセージの味を嫌い、専ら無添加ソーセージを好む子、インスタントだしの素のみそ汁は残すけれど真面目にとったおだしはしっかりと食べる子、を語っているうちに、世の中に氾濫するまがい食品に太刀打ちするには、子どもの舌に本物の味を覚えさせることが強力

な武器になるのではないか、と思えてきました。馬場さんからは、食を作る側と手を結ぶ必要があること、冬野菜は身体を暖め、生で食べる夏野菜は身体を冷やす働きをする自然の合理性について発言がありました。

その他、本告さんから、生徒による中学校の校則づくりについて。以前に比べ生徒の自主規制がゆき渡って、校長が胸を張っているという。これに対し、生徒自らが決めたと思うところもある枠の中で決めているだけ、生徒自身規則に慣らされて自由な発想ができない、巧妙な管理の方策になりうる etc 意見多数。

「子どもの頃の一日は長かった」それぞれの実感から、今の子ども置かれてる状況を見直す良いチャンスとなりました。

今回は五月二十二日(木) am 10時～12時、中央公民館で。出たくても出られなかった方も是非おいで下さい。

(岩崎久美子)

〈We 愛知の会〉

◆二月二十二日の例会では、まず日教組教育研究全国集会に参加した人の報告から。

「第一日目の全体会での、大阪教組の『光れ、中学生』はとても感動的で、多くの人が涙を流していたという感想を聞いて、この日に参加しなかったこと、みなさんに、きち

んとお伝えできないことをおわびします。

私の参加した分科会場は二つですが、いずれも案内の看板が全然出ていなくて、しかし、中へ一步入ると、何人もの地元の労働者や大教組の男の人が警護に当たっており、また昼食も外へは出られませんでした。全国の教師たちが一つに集まって研究会をもつのに、このようなかたちで学んできたことを、今更ながら改めて驚き、日本の国の異常さみたいなものを痛感しました。

(宮崎世津子)

〈We 城北の会〉

◆今年は二月に入ってようやく新年会を開きました。朝粉雪が舞って暗かった空もいつしか晴れ、暖かな土曜の午後、角田さん、高梨さん、藤谷さん、劉さんと初参加者多数の一方、いつもの顔ぶれがさまざまな理由で来られなかったのは残念。永井さんは岐阜の小さな学園へ見学に。新婚の八島さんは急性胃腸炎、大村さんは腸の潰瘍手術のため暮から北里病院に入院中。落合さんは四月から都立北療育医療センターに就職が決まり挨拶に。：「大きなかぶ」という本郷の自然食の店でアルバイトしたり、学童保育の経験交流のための『子どもの放課後110番』(ユック社刊)の編集

委員として活躍した角田さんは「食べものの安全性や環境汚染の問題に気づいて行動する人は増えたけど、これからはさらに、私たちの暮しが第三世界の人々の犠牲の上に成り立っていることにまで目を広げていかなければ」と、草の根諸グループの連帯を訴えました。

角田さんは子どもの出生時だけ入籍。三か月後に「離婚」して夫婦別姓を貫いています。

すると中国籍の劉さんから、日本人との夫との間に婚姻届出前に生まれた長女は中国籍、届出後出生の長男は日本籍とされ、選択の余地はなかったとの話も出て、姓と戸籍、国籍のもつ意味について考え合わせました。

藤谷さんの娘さんの通う中学校では、学級委員は教師の下請で、登校拒否の生徒を誘う役をおおせつかったりする。受験競争の下では引き受け手のない損な役回りだが、三年生になったとたん、内申書を意識して急になリたがる子もいるという有様……。新年会の子ちそうも紹介したいのに残念。(川名はつ子)

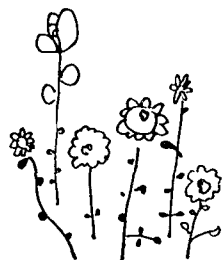
〈We の読者会カレンダー〉

4・20(日)武蔵野 一時半～ 御殿山C・C
5・3(土)兵庫 一時～ 神戸市立勤労会館

テーマ「家庭科の内容を考える

こんな授業をやりたい」

私から あなたに



◆うれしいことに半田さんの『人間って不思議』が昨日届いてましたので、いま読んでおります。どうしてもっと早くこの本に出会わなかったのかと、自分の勉強の少なさを悔いております。と同時に、半田さんを知ったのが「径通信」でしたから、この縁がなかったら、永遠に出会えなかったかもしれないと感謝しております。径通信がご縁で、We城北の会にも参加できました。

私の周りには傲慢な女性がたくさんいます。もちろん私の中にも傲慢さがあることを含めて

●有名校に入れたら、子どもは一生幸せに送れるのか

●自分の家系に障害児は生まれな
いとどうして思えるのか。自分の家族がケガをしたって、障害者になるかもしれないと思えるのか

●自分は一生働かないで生きていけると思えるのか。夫が若死にすることがあると思えないのか
もんもんとしてきました。

でも、彼女たちを責めても、問題は解決しない。どうしたらよいのか勉強したい。

半田さんの本を読んでいますといういろいろなことがわかってきて、整理できます。一時は、私の性格が強くて、夫に迷惑をかけているのではないかと落ちこんだことも

ありましたが、自分の迷いはそんなに間違っていないかと救われるような気がします。そして、自分の中にある古き、夫の中にある古き、そんな中でどう生きていくか。じりっじりっと改めていければと思っています。こんな自分の経験が、どうぞ若い世代や子どもに役立ちますように、と。

しかし、夫も子どもも、私とは全く別の人間であることを、いつも心にとどめておこうと思います。

子育ての中で、いつも息子や娘が、やさしさをもっているがゆえに苦勞する姿を見ていじいじしてきました。でも、いくら苦勞する姿を見ても、やさしくなくていいとは言えないのです。どうぞ、日本中の、いいえ世界中のやさしい子どもたちよ、死なないで、と祈ります。祈るだけではだめだと、本を読み、行動します。自分の力のなさを思いつつも、持っている力を出していきたいと思えます。

半田さんの本に出会えたことに感謝し、何か変だという感受性を持つように育てられたことに感謝し、ペンをおきます。

(東京・間瀬中子)

◆なかなか手をつけられずにおりました半田さんの『人間って不思議』をやっと読みおえることができました。勤務先での昼休みに20分、夜子どもたち(二歳と五歳公立保育園です)が寝静まったあと、諸々の家事を片付け、やっと本を開くこと30分、一時間、という状態が続きました。

途中、何度本を閉じ、考え込んだことでしょうか。子どもたちのこと、夫とのこと、家族関係での葛藤、そして職場で今おかれている状況、自分のやりたいこと、やるべきこと、やりたい方向……。思いは様々に拡散するばかり。そして、余りにも知らないことの多すぎる自分に落胆して、やっと氣をとり直すというありさまです。

今読みおえて改めて思い直す時

この出会いに感謝する気持ちでいっぱいになっております。この半田さんの著書『人間って不思議』に、そして改めて、創刊号からのおつきあいの「We」に。

毎号「We」を読むたびにシンドクなることがあります、どうやらそんな時というのは、きまって精神活動が停滞している時のようです。読む・考える・書く・そして行動、いずれも切り離せるものではなく、その中で自分の考えの枠組みを変えたり、変えさせられたり、鍛えるためにも「We」の存在は、私にとってはたいへん貴重なものです。

(熊本・宮原由美子)

◆一月号の杉山さんの「ゴミはゴミだらうか」おもしろかったです。半年くらい、「毎度おなじみの……」チリ紙交換の古紙相場が下がったままです。押入れに、古新聞はもとより、紙のたぐいはためておく癖のある私も、困っています。秋田の製紙工場が、操業を縮小した

そうです。林業で食べられず、地元の工場で働けず、街の古紙回収もままならないでは、緑の騎士たちはさまようばかりでしょうか。

バングラディシュでは、ほとんど水がなく、トイレットペーパーも布を漉いたものとか。そのような国々と、一方的な援助にならずに、たすけあうことはできないものでしょうか。持たざる者と持つ者——いつの世にもあるのかと、古新聞をみやりながら考えます。

バングラディシュについてですが、彼の国では赤ん坊におむつをさせないとか。これは、けっして貧しいから、物がないからではなく、高温多湿の風土から生まれた知恵だそうです。母親たちは、膚に近く、子どもの便意をじかに感じるのか、なんとすてきな関係でしょう。

一番失いたくない親と子の結びつきだけど、子育ての失敗、家庭の崩壊を言う時の社会の無責任、風土に反したことをしているせい

でしょうか。

(東京・増田レア)

◆二・三月号に、私の記録もとりに上げていただいて、ありがとうございます。あのように素直な書きぶりで表して下さったもの、ほんとに、私の表現しなかったことでした。

街の中の小さなひとりのおぼさんが、自分なりに何か納得できるものを求めて生きてきたこと、無意味じゃなかったかもしれない、という感じがしてきます。名もない、という形容詞をつけられる私たち庶民のひとりひとりが、そのひとり、という場で、ちゃんと自分の名をもって存在している、そのことが「大切」なのだろうと思います。

(東京・宮下喜代)

◆四月号、今日届きました。我が子の口頭詩を活字で読んだ夫、私に「あんまり子どもの世界へのめり込むなよ」。側にいた娘曰く、「大人の世界ってどこ？」。私、「床から1m辺りを手でならしな

がら）子どもの世界はここで、(夫の背の高さまで手を伸ばし)大人の世界はここ」。お互いに笑いこらげてしまいました。

私の書く文章の硬さに比べて、子どもたちの言う言葉の柔軟なこと。他の皆さんの口頭詩、とてもほのぼのとして心が洗われました。

今、ひっかかることがあります。それは、「円満な家庭に非行は生まれぬ(ある保護司の言葉)」。「円満な家庭で信頼されている子どもは必ず能力が伸びる」というとき、円満な家庭とは何を指すのか、ということ、と報道のし方について。伝統的家庭観からはみ出した者を非としたのでは、彼が彼らしく生きる道は閉ざされていくでしょう。

最近、子どもたちの事件があると、必ず報道陣が家庭環境について詳細なコメントを加えるのは、意図的に女を家庭に帰す手段になっているのではないかと疑います。(田無・岩崎久美子)

十字路

■北海道 学校給食、見直し機運高まる（道新2/3）

画一教育の象徴のように見られている学校給食について、別の観点から見直し論議が活発化している。十勝管内陸別町の小中学校では、「給食法制定当時と今とは、食糧事情が全く違う」とした上で「食事と協調性は別問題。マナーは家庭でしつけるのが筋」と、将来とも弁当方式を打ち出している。また、小樽市内の母親と教師のグループは昨年末から、「発がん性や催奇形性のある添加物、農薬だらけの給食を食べさせる訳にいかない。まず市内の実態を」と給食の総点検を始めた。さらに、石狩町では、食器洗いの合成洗剤への不安から給食を「返上」「し弁当持参を通す家庭も出てきて、こうした動きに、杉谷彰道教委保健体育課長は「食物の安全性は給食が一番のはずだが、慣習化した給食を根本から見直す時期に來ている。当面は論議を注目しています」という。

（広瀬直子）
■青森 眞の女性の自立めざして（東奥2/8）

八戸市の「フェミニティスクール」では、受講生らの自立運営によって、結婚、出産、育児、共働きなど、女性が一生の中で避けて通れない問題を中心に一年制で学んでいる。「友と語り、多くの人々との温かな触れ合いを通して『女の一生』を考え、『自主性のある賢い女性』となって生きがいある生活設計を立てる」を目的に開設して九年目、本年度もカリキュラムの八〇％を消化した現在、生徒たちは修了記念誌の製作に大わらわだ。

（須藤長子）

■栃木「田中正造大学」佐野で開校（下野2/13）

「足尾鉾毒事件」で、最後まで地元農民とともに公害反対を叫び続けた田中正造の遺志を継ぎ、環境問題や自治、平和、教育などを勉強しようという「田中正造大学」が市民グループの手で同市小中町の生家で開校した。「地域を拠点とした文化活動のネットワークを作ろう」と、受講時に入学試験や年齢制限などを一切設けず、参加者の自由な意見交換を通じて、正造の持論だった「地域の自治」

を考え、実践していこうという方針だ。

（坂本昌子）
■千葉「小学生の飛び降り」に教師ら衝撃（毎日2/6）

けんかした友達に「飛び降りたら許してくれるのか」と言って、五日、四街道市立八木原小の六年男子が、校舎四階から飛び降り重体となった事件で、学校関係者は、少年の行動に頭を抱えている。千葉支局が千葉市の市立小六年の一クラス全員に、緊急アンケート調査を行なったところ、ほとんどの子が「信じられなかった」「驚いた」「同じ学年の子の行動とは思えない」との感想をよせ、「飛び降りまでしなくても他に解決法があったはず」という意見が多く、生命の大切さを訴える素直な回答が返ってきたが、児童問題の専門家からは「現代っ子の心には生活変化の中で大人には理解しにくいものが潜んでいる」との指摘も。

（木田直子）

■神奈川 現場教師が「性教育」の手引書（朝日2/25）

性非行や女生徒の妊娠に直面したことがきっかけで性教育に取り組むことになった市立左近山中学の小林博教諭は、二十年の体験を通じて気づき、感じ、分かったことを教師向

けの手引書として一冊にまとめた。「子どもたちは意外に無知で、また真剣に悩んでいる。科学的な性情報を与えなくては」と思い立ったという。題して「教師のための性教育読本」(あいわ出版刊) (山口里子)

■埼玉 女性の役職登用、平等は37% (朝日1/29)

雇用機会均等法施行を前に、県労働部で行なった県内の「女性の労働条件調査」(有効回答、七百五十九事業所)によると、採用の時から条件が男女とも同じと答えた事業所は、全体の四七・四%、配置、配転についても四二・三%が平等だという。しかし、役職登用面では、平等とするのは三七・四%で、改善する予定なしが二二・七%と他の格差と比べてもっとも高かった。

■福井 女性、軽視ありませんか(福井2/23)

福井市勤労婦人センターは、女性を取り巻く環境で不満に思った出来事や意見を広く募集したところ、「町内単位の作業に主婦が参加すると、出不足金を半分払わなければならない」「大切な話になると、やたら男と代わってくれと言われる」等の意見がよせられたが、同センターでは、婦人の地位向上運動の参考にするのが目的で、「国連婦人の十年」

の次のステップに役立てる試みという。

(山崎京子)

■新潟 西独女性「新潟水俣病」調査中 (新潟日報2/13)

東大社会科学研究所研究員のゲジネ・フオーリヤンティーさんは「日本の地方自治体の公害対策」研究の一環に、水俣病を調査、患者聞き取り調査など真相の把握に取り組んできたが、ほぼ調査活動を終えた現在、「世界でもあまり例のない悲惨な公害であることが理解できた」、水俣病が発生した要因については「企業秘密の壁が厚いことです」と語る。

(山口久子)

■愛知 公立高2回受験「2群4分割」に修正 (毎日2/18)

入試改革を進めている県教委は、昨年受験機会複数化をねらいとして打ち出した「全公立高の二グループ化、二回受験」案を修正した「複合選抜方式」をまとめ、専門員会に提出した。修正案は、尾張、三河の二群をさらに二分割して全校を四分割する原案が、学校間格差拡大につながる、との批判に応えた。

(岡本のりこ)

■京都 「いじめ」相談窓口全校に (朝日2/22)

府教委は東京中野富士見中事件を重視し、府内小、中学校の緊急校長会を開き、各学校でいじめの総点検と指導の徹底を求めた。中西由美生学校教育課長は、具体的に「相談の窓口を全校に設置」「子との触れ合いを通じ、いじめなどへのアンテナづくり」「保護者に学校の取り組みを知らせる学校だよりの発行」などを求めた。

(塚崎美和子)

■愛媛 せっけん派ふえてます(朝日2/20)

P.T.A.の働きかけなどにより合成洗剤をやめてせっけん使用に切り替える学校が県下でも出始めている。「せっけんは合成洗剤に比べ公害の心配も少ない。教育の現場くらいはせっけんを使うようにしてほしい」と「石けんを広める県連絡会」の有重代表は語る。

(熊田香鶴子)

■熊本 家事労働一日体験(熊日2/26)

熊大教育学部では、家庭科教育の講座で毎年、冬休み中に男女とも丸一日主婦を体験し「家事労働体験レポート」にまとめる課題がある。担当の桑畑美沙子講師は「体験して初めて、家事の大変さが分るんです。家事の大切さを理解したうえで男子にも女子にも、自立した主体的な生き方を教えられる教師に育ってほしいのです」と言う。

(宮原由美子)

ア　ン　テ　ナ



◆ 家永氏側が全面敗訴 ◆

'62, '63年度の教科書検定で、高校用教科書「新日本史」を、それぞれ不合格、条件付き合格とされた家永三郎・東京教育大名譽教授が、「教科書検定は、憲法で保障された教育の自由、表現の自由などに反し、違憲、違法だ」として、国に賠償を求めている「第1次教科書訴訟」の控訴審の判決言い渡しだが、11年ぶりに東京高裁民事五部で行われた。鈴木潔裁判長は、高裁レベルで初めて検定を「合憲」とする判断を示し、「家永側全面敗訴」の判決を言い渡した。一連の教科書訴訟で、家永氏側が全面敗訴したのは初めて。「国側全面勝訴」のこの判決は '80 年代以降一段と「強化」路線が進められている文部省の教科書検定と自民党などの強い姿勢に押される形ですでに始まっている教科書行政全面見直しの動きに拍車をかけるものと見られる。

臨教審は4月以降教科書問題の本格論議を予定しており、一部の委員は教科書検定の“自由化”を主張しているが、教科書問題はこの判決を機に新たな局面に入りそうだ。(朝日、3・19)

◆ 内申抜き処分有効―福岡県教組スト ◆

ストに参加した教職員を都道府県教委は市町村教委からの内申抜きで処分してよいかどうかが争われていた福岡県の「内申抜き処分訴訟」の上告審で、最高裁第一小法廷は3月13日、内申なしに処分を行うことは許されないのが原則だが、大牟田、行橋、田川3市教委は、ストが違法であると認識していながら、組合の抗議行動やそれに伴う教育現場の混乱といった事情への配慮や、福岡県教委の処分のしかたに対する批判的な考え方から内申をしなかったと指摘。文部省の新通達('74年)を背景に、都道府

県教委は内申なしに任命権を行使できると初めての判断を示し、優位性を認めている。(朝日、読売、3・13)

◆ 体罰教師に懲役3年判決 ◆

昨年5月、修学旅行で筑波の科学万博見物中の、岐阜県立岐陽高2年、高橋利尚君は引率の担任、雨森一法教諭から体罰を受けショック死した。3月18日、雨森被告に対する判決公判があり、水戸地裁は懲役3年の実刑判決を言い渡した。体罰による傷害致死事件で、教師に実刑が科せられたのは戦後2件目。(朝日、3・19)

◆ 担任教諭を諭旨退職―中野富士見中 ◆

東京中野区立中野富士見中の鹿川裕史君がいじめを苦に自殺した問題で、東京都教育委員会は3月20日、教師の信用失墜など地方公務員法に背いた責任を問ひ、担任の藤崎南海男教諭は懲戒免職に近い諭旨退職処分、「葬式ごっこ」に加わった他の三教諭と、校長、教頭に対し減給、戒告の懲戒処分を行った。

また、近く発令する人事異動で、校長ら3人の依頼退職を認め、2人に長期研修を命じる。いじめ問題にからんで教師が処分されたのは全国で初めて。(朝日、3・21)

◆ 体罰容認、教師の半数 ◆

日教組の国民教育研究所は、山形、新潟、千葉、大阪、広島、鹿児島 の6府県の公立小、中、高校190校の約6200人の教員を対象に「教職活動に関する意識調査」をした。半数近くが「体罰も指導方法のひとつ」と答えており、とくに、管理体制の厳しい学校や大規模校・学級では6割近くが肯定。昨年来「体罰一掃運動」を展開中の日教組は強い衝撃を受けている。また、1/3の学校で職員会議が「形骸化」し、先生の8割が

「家庭や学校でいらいら」し、4割は「いつも疲れがとれず」、3/4が「学級の人数が多すぎる」と訴えている。(朝日、3・12)

◆ 返子市民緑を守る運動勝利 ◆

神奈川県返子市で米軍の旧池子弾薬庫跡地の米軍住宅建設計画に地元住民が反対運動を起こしたのは'82年秋、その後住民投票条例制定請求の署名運動、前市長リコールの署名運動、前市長の辞職による市長選挙、建設反対派の現市長・富野暉一郎氏の当選という複雑な経過をたどってきた。主婦を中心とするグループは建設賛成派の多い市議会の解散を請求していたが、3月3日、67.4%の投票率で成立した。23日、建設賛成派からの現市長の解職請求投票が行われ不成立に終わった。(朝日、3・4、24)

◆ 住民運動封じ—自民党の国民運動 ◆

東京三宅島では米空母艦載機訓練基地化問題、返子市では米軍住宅建設問題などの住民運動や、東京中野区教育委員準公選など、「下から」の運動に対して、自民党本部が「国民運動」の看板を掲げ、これを封じようとするケースが最近目立っている。こうした背景には自民党の、「政党は、政府に政策を実行させるだけでなく、政府のしりごみしていることについても、前面に出て先導しなければいけない」との考え方がある。これに対し「地方自治を踏みこじるものだ」(社会党幹部)との反発も出ている。(朝日、2・24)

◆ 名古屋新幹線公害訴訟 和解へ ◆

名古屋市南部の東海道新幹線沿線住民が'74年3月に、国鉄に対して騒音・振動の軽減と慰謝料の支払いを求めて名古屋地裁に提訴し、一審は'80年、二審は'85年に判決があったが、その後原告弁護団代表と国鉄との和解に向けての交渉が進められ、原告が上告を取り下げるようになった。提訴以来12年ぶりに終止符が打たれることになる。

国鉄は先に環境庁が示した暫定基準(75

μ)に沿うよう騒音・振動の軽減に努力し、原告らに相当額の「解決金」を支払う。

(読売、3・5)

◆ 「嫌煙権訴訟」が結審 ◆

「嫌煙権訴訟」が3月3日、提訴以来6年ぶりに結審した。判決言い渡しは今秋とみられる。訴訟は東京都清瀬市の小学校教諭福田緑さんら14人が国鉄を相手に、「全列車の半数以上を禁煙車に」と求めたもの。この間「嫌煙権」という言葉をつくり、「嫌煙権の確立をめざす人びとの会」が結成され、市民運動として広がった。

(朝日、3・4)

◆ 指紋押捺制度廃止希望48%市町村 ◆

外国人登録法の指紋押捺制度に反対する自治体は、全国市町村の担当者を対象に実態調査をした。回答は約2400市町村のうち、599(30県)。通達前から窓口での指紋照合を励行していたのは22%で、通達後は48%に増えたが、46%は照合していない。しかも「形式的に見比べているだけ」が多く、「照合に自信がある」のは38市町村だけ。押捺を求める時の意識は「法律だから」が58%、「犯罪捜査のようでないで」が30%、また制度の早急な廃止を48%が求めている。(読売、3・2)

◆ “民間主導”へ地ならし—SDI参加 ◆

アメリカの戦略防衛構想(SDI)への研究参加問題について政府は、外務、通産、防衛、科技厅の各省庁担当者と、ソニー、東芝、富士通などエレクトロニクス、ハイテク関連企業10数社の代表40~50人の大型調査団を3月31日からアメリカに派遣する。

政府はすでに、①民間企業の参加は自由②政府機関の参加については明確な態度表明を避け、今後に道を残す③秘密保持措置については新たな秘密保護法立法は行わず日米相互防衛援助協定(MDA)を適用する—などの基本方針を固めており、「民間主導でSDI研究に参加」という線に落ち着くものとみられる。(読売、3・16)

〈表紙のことば—加藤由美子〉

右折してその通りに入ったとたん、目下巻き込まれてイライラしていた波帯のことを忘れた。空に向かって思いっきりのはたき街路樹は、強くなりかけた日射しを木洩れ陽に変えていた。中杉通りのけやきは、今また若葉の季節。

★Weバックナンバーのご案内★

〈vol. 1〉 〈品切れ〉

〈vol. 2〉 〈品切れ〉

〈vol. 3〉 4月号 PTAって何

5月号 いまこそ、家庭科を問う

6月号 地域に生きる

7月号 少年・少女たち

8・9月号 “遊ぶ”ということ

10月号 支え合いつつ ひとり立つ

11月号 “病む”ということ

12月号 つきあいを考える

84年増 自分らしさをこそ

1月号 学び・教えるとは

2・3月号 “育てる”ということ

〈vol. 4〉 4月号 性をどう語る

5月号 結婚の風景

6月号 家族、その人間関係

7月号 離婚と子どもたち

8・9月号 法律と私たち

85年夏増 働き続けるために

10月号 いま、熱く女の時代

11月号 みよりの秋に

12月号 人間と土を生かす

85年冬増 自分らしさをこそⅡ

1月号 暮らしの文化を探る

2・3月号 水はいのちの泉

〈vol. 5〉 4月号 幼い日—大人は忘れてしまった

◆ゼミナール会場にはすばらしい幼児室がありました。マット、とび箱、オルガン、机、いす、道具類もそろって保育園の一室のよう。ジュタン敷きの広く明るい室内、ペランダに出れば砂場も。『保育あり』もかなり当然視されてきた昨今、とかく施設がととのうと、便利な場所になりがち。子どもにとっても、育つ・育てる・育ち合う参加であること、全体の中でいっしょに考えていきたい。(青木)

◆七月号「性—小・中・高校生は何を思う？」に掲載予定で、千人規模のアンケート調査を試みた。一枚一枚の向こうに、一人一人の姿を想像し、声に耳を傾ける。切なる悩みや、大人を批判する声。大人のあり方が問われているんだと感じました。集計後、どんな姿を見せてくれるのかご期待下さい。

◆ステキなはがきが一枚、毎月送られてきます。We愛知の会から。今月号の52・70頁に掲載していますが、'86年度にやりたいことの一つ『We誌を読んだ感想や意見を例会参加者でハガキに寄せ書きにして出したら？』を実行されているのです。

◆大学改革を目ざし闘った人達も、いま子を持つ親。教師にもなっています。彼や彼女に青春の理想はどう生きていくのでしょうか。岐陽高校・中野富士見中の教師への処罰をあなたはどうか受けとめましたか？ 子どもから青年へそして大人へ。同じ人間の内面が、置かれた位置によって逆転し、ねじくれる不思議。そこに思いを致さず他をあげつらうのは醜いと思います。

◆次号は「いじめ—その根っこには何が？」です(平田)

新しい家庭科—

発行所／(有)ウイ書房

Vol. 5 No. 2 1986年 4月20日発行

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14

¥530(年間購読料・増刊号含¥6700)

☎03(326)1380 振替 東京6-59867

編集兼発行人／半田たつ子

印刷所／(有)岩佐印刷所 〒112文京区春日1-6-7

旭川	京栄堂書店	デ、東京堂、八重洲ブック	やま書店、丸山書店、岡崎	田邊	多屋孫書店
札幌	北東京堂書店	センター<豊島>池袋書店、	書房、ナガオ正文堂	神戸	流泉書房、ヒカリ書
島松	矢野書店	紀文堂書店<杉並>木風舎、	江南	西宮	店、日進堂、文進堂書店、アイ
小笠原	熊谷書店	新愛書店、ブラサード書店、	豊橋	宮崎	ヨ書店、幾久書店
伊達	新生堂	たつみ書房、<新宿>紀	豊田	尼崎	イカロス書房
函館	神田書店	伊國屋書店、模索舎、風書	岡崎	姫路	塚新西武B.C
青森	成田本店	房、伊野屋書店、ジョキ	瀬戸	石川	宣文堂書房
盛岡	東山堂、みみずく書房	<渋谷>すべすー、えいが	旭	岡山	姫路丸善
花巻	誠山房	<高橋>宏精堂、中村	張	山崎	浅野八代書店
水沢	松田書店	書店<世田谷>やまべ書店、	愛知	明	学友書房
仙臺	こどもの本の店	江崎書店、ひまわり書店	刈谷	豊岡	ひさや書店
	プーの家、八重洲書店、	<練馬>平形書店<北>愛京	岐阜	岡山	弘栄堂
	萩書房、高山書店、千	堂<板橋>裕弘堂、アスカ	渥	米子	今井MC本店
	忠書店	書店<江東>吉田書籍部	谷	鳥取	富士書店
	川	<品川>シグマ図書、雄文	津	出雲	武田書店
	高山書店	堂<吉祥寺>ウニク書房	岡	松江	大学前園山書店
	ホビット館	<三鷹>第九書房、たべも	越	島	やまびこ書店、
	加賀屋書店	の村<調布>みつば書房、	尾	いづみ	書店、紀伊國屋書店
	八文字屋	神代書店<小金井>かごや	山	竹原	草間書店
	高陽堂書店	書店、緑町大洋堂<府中>	岡	山崎	岡田書店
	ぼんべい	図府事店会、一二三書房	谷	音	西京書店
	鈴木書店	<国分寺>吉野書店<国立	松	観	タカハシ書店
	阿部久書店	増田書店富士見台店<立	高	音	松岡書店
	岩瀬書店	川>オリオン書房、泰明	岡	徳	みやたけ書店
	西沢書店	堂書店<小平>和中書店、明	飯	鳥	雄徳堂徳野書店
	松文堂	文堂書店<清瀬>マルオカ	長	北	ブックスエミール
	ニシザワ	店、飯田書店<町田>久美	上	土佐	依光書店
	木村書店	横 浜 文教堂、有隣堂、	中	九州	北九州書店、白石書店、
	川島朝日堂	栄松堂、ともだち書店	信	福	金文堂、横文館、金
	アルプス社	川 崎 北野書店、早川	濃	岡	進堂
	島村書店	書店、大塚書店	金	二	丸山スコレ店
	至誠堂書店	相 模 原 中村書房	沢	日	江頭書店
	ツルヤB.C	鎌 倉 たらば書房	井	留	みやはら書店
	岩瀬書店、須原屋	相模大野 相模書房	ひ	大	金善堂
	新井書店	厚 沢 東松堂	ま	牟	吉田書店
	ブックスサトウ	綾 木 内田屋書房	じ	後	山口書店
	日野屋書店	綾 瀬 藤美堂	ぶ	川	尾崎堂書店
	比企文化社	茅 崎 榎本書店	っ	柏	まつら書店
	山屋	小 田 文泉堂	ぶ	唐	金華堂
	楓書房	平 塚 サクラ書房	う	佐	好文堂、童話館
	マスダ書店	海 老 名 サンエ書房	つ	世	紅屋書店、金明堂
	アリ書房	甲 府 太洋堂	の	保	教育文化用品KK、
	ペンギン書房	野 崎 伊勢治書店	み	本	三章文庫
	めいわどう	小 田 平井書店	や	延	池田書店
	安藤芳文堂	平 塚 サクラ書房	ま	岡	開書堂、今村書店
	やマトウ書店	海 老 名 サンエ書房	な	分	スズキ書店
	みやかわ南口店	甲 府 太洋堂	布	志	加世田書店
	鴻文堂	野 崎 伊勢治書店	志	大	学生協
	みずほ書房	小 田 平井書店	鹿	大	帯広畜産大学、東北大学、岩
	前原かっぱ、西	平 塚 サクラ書房	見	学	手大学、福島大学、新潟大学、
	はつらつ書房	海 老 名 サンエ書房	書	大	群馬大学、宇都宮大学、茨城
	元山書店	甲 府 太洋堂	房	学	大学、埼玉大学、芝浦工大学、
	大和屋書店	野 崎 伊勢治書店	中	大	日本女子大学、東京大学、東
	岡田書店	小 田 平井書店	島	京	京家政大学、成蹊大学、横浜
	多田屋	平 塚 サクラ書房	書	大	国立大学、山梨大学、愛知教
	大杉書店、千里堂	海 老 名 サンエ書房	大	育	育大学、信州大学、金沢大学、
	原勝書店	甲 府 太洋堂	阪	大	大阪市立大学、立命館大学、
	ブックスさかさい	野 崎 伊勢治書店	大	大	宮崎大学、高知大学、香川大
	井上書店	小 田 平井書店	学	学	大学、鳴門教育大学、琉球大学
	<千代田>ビビ、	平 塚 サクラ書房			
	日成堂、書肆アクセス、	海 老 名 サンエ書房			
	三省堂本店、書泉グラン	甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			
		平 塚 サクラ書房			
		海 老 名 サンエ書房			
		甲 府 太洋堂			
		野 崎 伊勢治書店			
		小 田 平井書店			